

南豊芝廼舎著

神戸の花

明治三十年四月 明輝社藏版



心



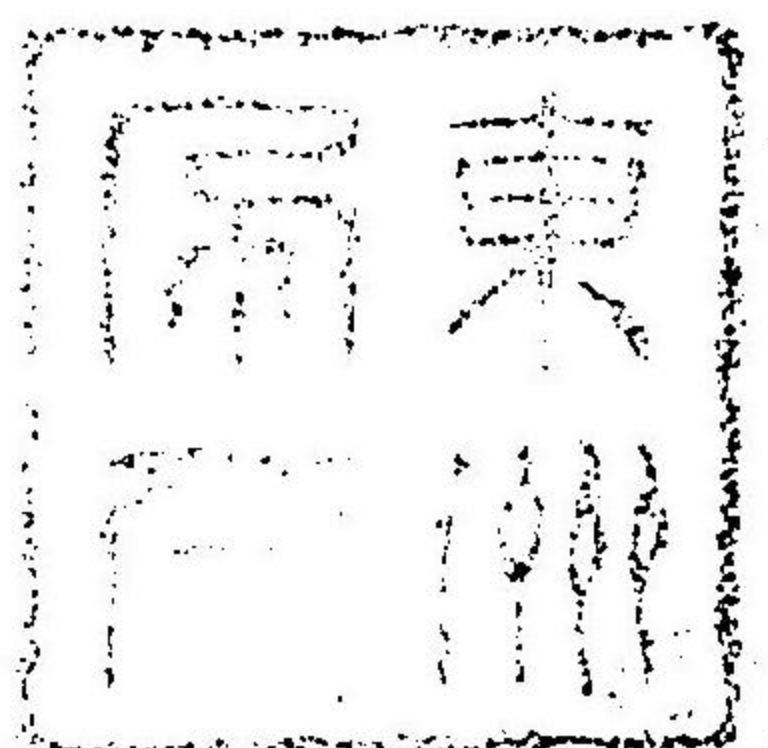
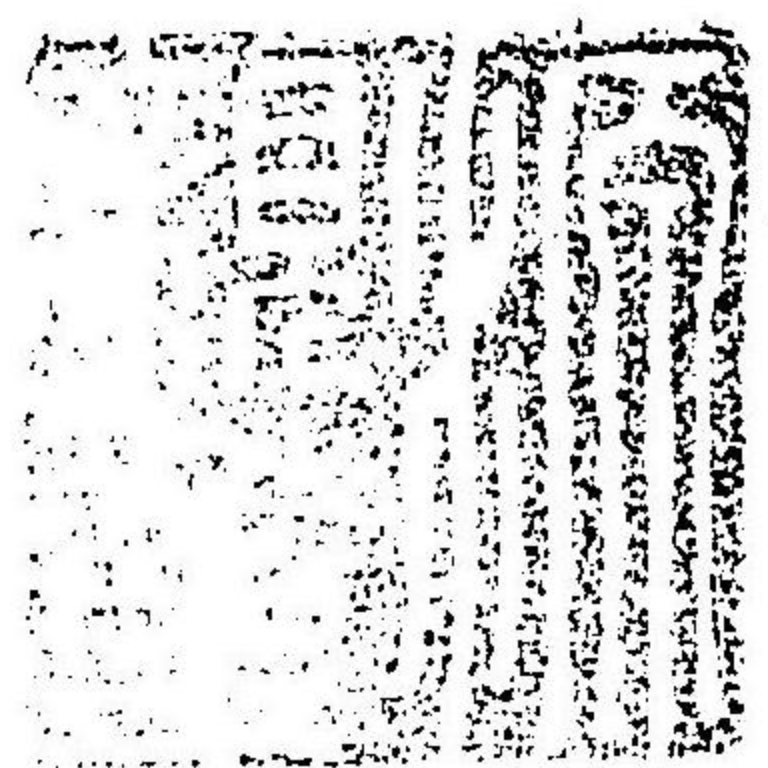
上

Blank page with faint grid lines.

清 類

明治丁酉 孟春

鳴呼碑時集海居士



神戶之花序

46-39
我神戶市之爲地也由緒多矣方今又互市之良
港冠絕本邦中而詳說其景况之著書鮮焉是余
常所不堪遺憾也頃日農美氏携來神戶之花一
本以需余序一通讀則首此地之沿革或尋古趾
又明由來矣特至現今之光景密調查而細大不
洩加以以婉麗之章句優美之筆故雖開卷反復
更不倦厭蓋所以花之爲花也乎知自古至今日

神戸之實景可謂無比之良書可不亦以裨益世
鈔少聊記爲序矣

明治三十年四月

鳴瀧幸恭誌

緒言

神戸の花の色深き港に集ふ内外の汽船の煙は天を覆ひ立
てる檣林の如く出入繁昌君が代は浪も静りに我國の六港
中に冠絶し百貨集散樞要地實に東洋の要港なり陸には大
厦を駢べ市街清潔風色佳勝土地清爽に氣候順和甚だ人
の健康に適す彼の敏捷き外人が徳川幕府より強請し太く此
地の開港を渴望せしこそ道理なれざるに三十年以前當地
の景況を回顧せば果して如何なりしか轉た茫然たるなき
能はずいふせき蟹の苔屋僅かに建てて汀を洗ふ浪の音の
みいと繁かりし海邊のはどり今や碧瓦白壁點々赤き煉瓦
を交へて鮮やかに美を極め草を刈り畑を耕し薪樵る賤の
茅舎遠近又散在せし諏訪山の麓の景色今や全く其觀を改

◎緒言

め瓊乎たる玉の亭玻璃窓瑤瓊の欄榻横はるの艶を盡す、今は福原の遊廊不夜城を呈して弦歌沸くが如きの衢となりしも昔しは晝尙は蛙の聲の嘩しき田圃にてありき、臆王政維新と共に開けたる神戸の繁昌は亦た昔時の様を止めず、湊川の松の緑は昔しも今もかはらぬを相奏る風の音は前の淋しき聲だにあらす、摩耶鏡樹の二峰は依然として東西に聳ふれども神戸の土は亦た元の土にあらす昔しは葎生茂れる所今は金一升に土一升人煙熱開車馬輻輳電信電話電燈の導線無盡に通して一瞬萬里の音信を答へ又坐して遠隔の友と談ず夜は数千の電燈室内を照して晝を欺き或は道路に輝きて暗夜の不自由を知らしめず鐵道は東西を貫通し走る蒸氣車矢よりも速く一日容易く百里に達す

斯の如く夫れ晝夜を棄てざる此地の賑は朝な夕なに其度を進め今日昨日に勝るを見れば今の來者に及ばざるを知るなり將來多望の土地と謂ふべし、年々歳々人の同じからざるのみかは歳々々々花も亦た相似すされば今の神戸の春色花の姿を書き留めて世の人たちに紹介すること甚だ必要の業ならずや此種の書の妙きは實に慨嘆に堪へざる所なり是れ余が爰に艶色なき筆、香氣なき文もて神戸の花を寫さんと企てたる所以ぞかし、されば眼界狭く鼓膜鈍し唯だ其一枝を示すに過ぎず後の大家の大手筆色香妙なる花咲き出んを待つものなり、明治三十年彌生の半朝日に匂ふ櫻花の眞盛に楠町の寓居葎生茂る芝廼舎しるす

神戸の花目次

◎總説	地名の起原	沿革	開港の由來	◎地理の大要	境界廣袤	町村戸口數	地勢	◎官衛公會學校病院	兵庫縣廳	警察本部	神戸市役所	警察署
丁數	一	二	五	七	七	八	八	八	一〇	一〇	一〇	一〇

裁判所	監獄署	稅關	郵便電信局	電話交換局	鐵道廳	神戸停車場	三ノ宮停車場	兵庫停車場	公會及俱樂部 <small>(縣會議事堂外十六)</small>	第六回關西聯合府縣共進會	第二回大日本水産博覽會	兵庫縣尋常師範學校	神戸尋常中學校
丁數	一三	一三	一三	一五	一五	一六	一六	一六	一七	一七	一八	一八	

◎目次

一

◎目次

神戸商業學校……………三十九
 雲中^{高等}小學校外八校……………三十九
 私立諸學校〔神戸女學院外十八〕……………三十九
 幼稚園……………三十九
 病院……………三十九
 縣立神戸病院外一……………三十九
 私立杉田病院外三……………三十九
 避病院……………三十九
 ◎會社製造所及銀行……………三十九
 商業の部〔山陽鐵道株式會社外十〕……………三十九
 工業の部〔日本精米株式會社外九〕……………三十九
 燐寸〔明治株式會社外十二〕……………三十九
 諸種の製造……………三十九
 農業の部〔神戸居留會社外六十五國立銀行〕……………三十九
 諸銀行の部〔外十〕……………三十九
 ◎神社佛閣……………三十九
 湊川神社(楠公社)……………三十九

生田神社……………三十九
 長田神社……………三十九
 和田神社……………三十九
 七宮神社……………三十九
 三ノ宮神社……………三十九
 日向神社外七社……………三十九
 稻荷神社外八社……………三十九
 熊野神社外十社……………三十九
 眞光寺……………三十九
 能福寺……………三十九
 藥仙寺……………三十九
 來迎寺(築島寺)……………三十九
 福海寺……………三十九
 廣嚴寶勝禪寺(楠寺)……………三十九
 安養寺……………三十九
 善福寺外八寺……………三十九
 大龍寺(再度山)……………三十九

◎舊蹟名勝地〔市附近の〕

神馬秣……………三十九
 延喜山……………三十九
 遠矢濱……………三十九
 和田岬(水族館)……………三十九
 經政の琵琶塚……………三十九
 平相國清盛の墓……………三十九
 八棟寺の舊蹟……………三十九
 牢御所の舊蹟……………三十九
 花隈及山路の城趾……………三十九
 布引の瀧……………三十九
 河原兄弟塚……………三十九
 差方塚……………三十九
 湊川……………三十九
 福原舊都……………三十九
 倭川……………三十九
 耶蘇教會堂〔附南京寺〕……………三十九
 祥福寺〔外二寺院〕……………三十九

輪田濟……………三十九
 福原内裏の蹟……………三十九
 眞野の池……………三十九
 苅藻川……………三十九
 眞野繼橋……………三十九
 平知章及監物太郎の墓……………三十九
 平忠度の塚……………三十九
 須磨村……………三十九
 一の谷……………三十九
 敦盛塚……………三十九
 須磨寺……………三十九
 源光寺及關屋蹟……………三十九
 磯馴松……………三十九
 綱敷天神……………三十九
 禪昌寺……………三十九
 厄除八幡……………三十九
 境川……………三十九

◎目次

◎目次

鵜越……………七〇四
 諏訪山……………七〇五
 宇治野山……………七〇六
 湊山……………七〇六
 千鳥瀧……………七〇六
 夢野……………七〇七
 夢野清水……………七〇七
 摩耶山……………七〇八
 岡本梅林……………七〇八
 御影外十所……………七〇九
 ◎外國人居留地及南京町……………七〇九
 開港以前の景況……………七〇九
 居留地貸與の景況……………七〇九
 居留地境界町名……………七〇九
 外人雜居地……………七〇九
 外人居留戸口表……………七〇九
 著名の商館……………七〇九

領事館……………七〇五
 南京町……………七〇六
 南京町の風俗……………七〇六
 清國居住人及理事府……………七〇七
 清國人著名の商館……………七〇七
 ◎飲食店及旅宿屋……………七〇八
 割烹店及飲食店……………七〇八
 牛肉店……………七〇九
 旅宿店……………七〇九
 旅泊人の數及景況……………七〇九
 宿泊料……………七〇九
 ◎湯屋、床屋……………七〇九
 湯屋の景況……………七〇九
 理髮床の景況……………七〇九
 女髮結の景況……………七〇九
 ◎相撲、演劇、寄席……………七〇九
 相撲の景況……………七〇九

相撲の由來……………七〇九
 相撲の勢力……………七〇九
 演劇の起原……………七〇九
 演劇の進歩……………七〇九
 大黒座外三座……………七〇九
 寄席……………七〇九
 ヘラクの事……………七〇九
 馬力座、福井座……………七〇九
 湊亭外十個寄席……………七〇九
 寄席の景況……………七〇九
 ◎遊廓（附藝娼妓）……………七〇九
 遊廓の所在……………七〇九
 福原遊廓の位置……………七〇九
 全遊廓數娼妓數及景況……………七〇九
 新川遊廓の位置……………七〇九
 全遊廓數娼妓數及景況……………七〇九
 藝妓の事……………七〇九

檢番の事及其所在……………七〇九
 ◎結尾の一言……………七〇九
 廣告
 旅客遊覽の栞
 神戸停車場より一般に至る
 案内……………七〇九
 ◎神戸の花附録目次……………七〇九
 全市内町村名……………七〇九
 官衙學校銀行會社病院所在……………七〇九
 全市内神社（祭神、社格、所在、社名）……………七〇九
 全市内寺院（本山、宗旨、所在）……………七〇九

別一頁より五頁まで
附録頁數

◎目次

人力車里程賃錢表……………二
 相生橋神戸元極起点……………二十一
 神戸停車場起点……………二十二
 楠公社前起点……………二十四
 栢町極覽會場起点……………二十五
 兵庫停車場起点……………二十七
 兵庫島上町棧橋起点……………二十八
 兵庫龍福寺起点……………三十
 和田和樂園起点……………三十一
 中税關起点……………三十三
 三ノ宮停車場起点……………三十四
 市内旅宿屋宿泊料料定額……………三十六
 全旅人宿所在家名稱……………三十九
 神戸より管内名邑への里程表……………五十二
 新橋間瀛車發着時刻及賃錢表……………五十三
 神戸間瀛車發着時刻及賃錢表……………五十四

廣告

目次畢

英文の部目次

六

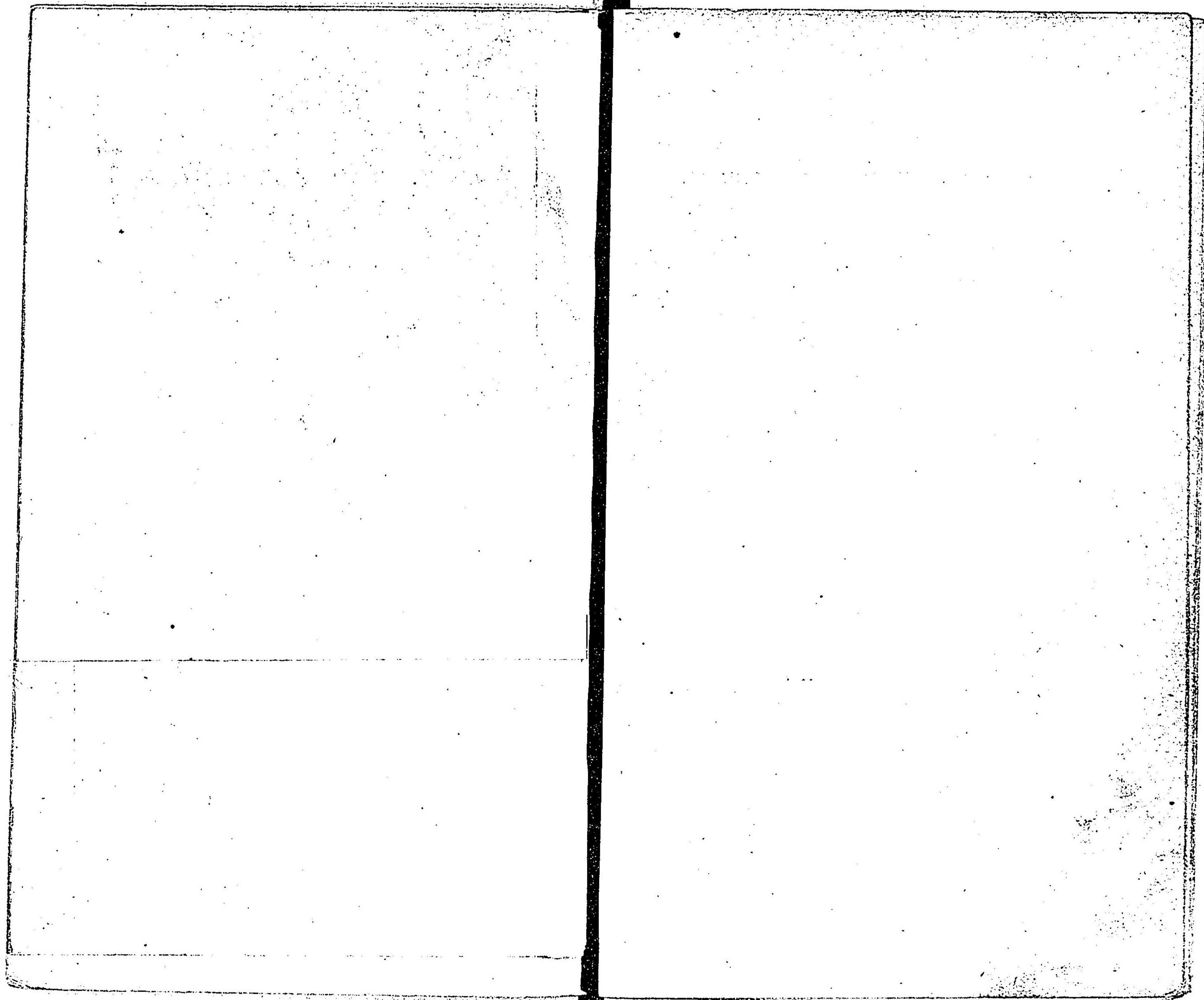
神戸遊覽の乘
 瀛車發着時刻表
 日本郵船會社瀛船出帆時刻表
 加奈太郵船出帆時刻表
 神戸より道廳府縣への里程表

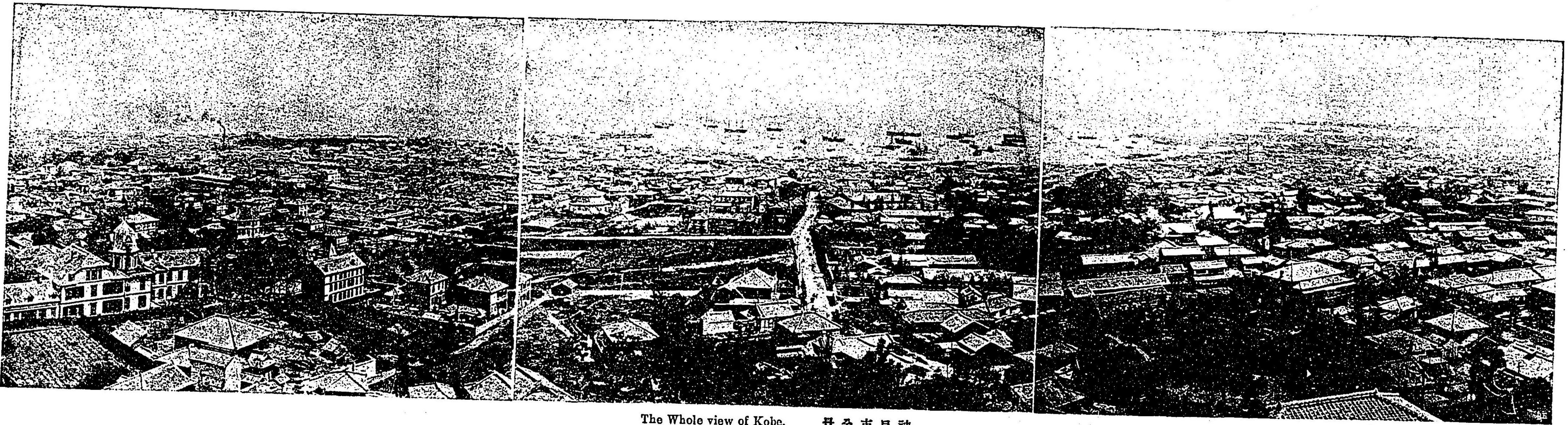
神戸の花口繪目次

神戸市全景
 布引瀑布(雌瀧)
 布引瀧道(川崎美術館ヲ望ム)
 諏訪山ノ二景
 天王谷湊山温泉
 湊川神社(楠公社)
 楠公社前凱旋門(明治三十年八月三十日撤去)
 生田神社
 長田神社
 和田神社
 和田岬和樂園
 眞光寺
 清盛之墓

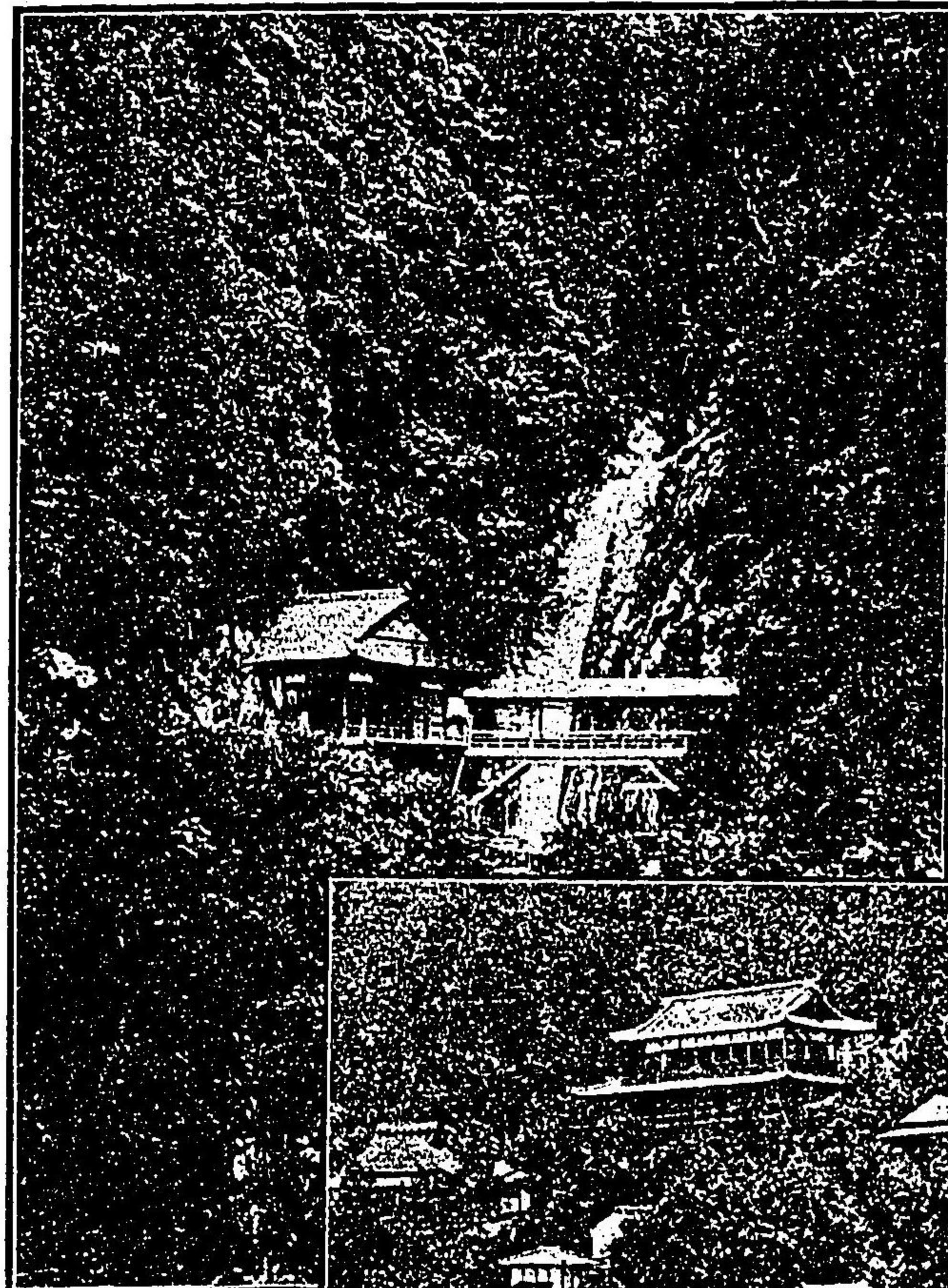
◎目次

能福寺大佛
 姫路白鷺城ヲ望ム
 兵庫縣廳
 兵庫縣議事堂
 居留地(米利堅埠頭場)
 海岸棧橋(中税關)
 湊川堤防(新橋)
 福原遊廓
 摩耶山眞如堂
 楠公墓碑
 一ノ谷教盛塚
 須磨ノ浦
 明石人丸神社
 舞子ノ濱





The Whole view of Kobe. 景全市戶神



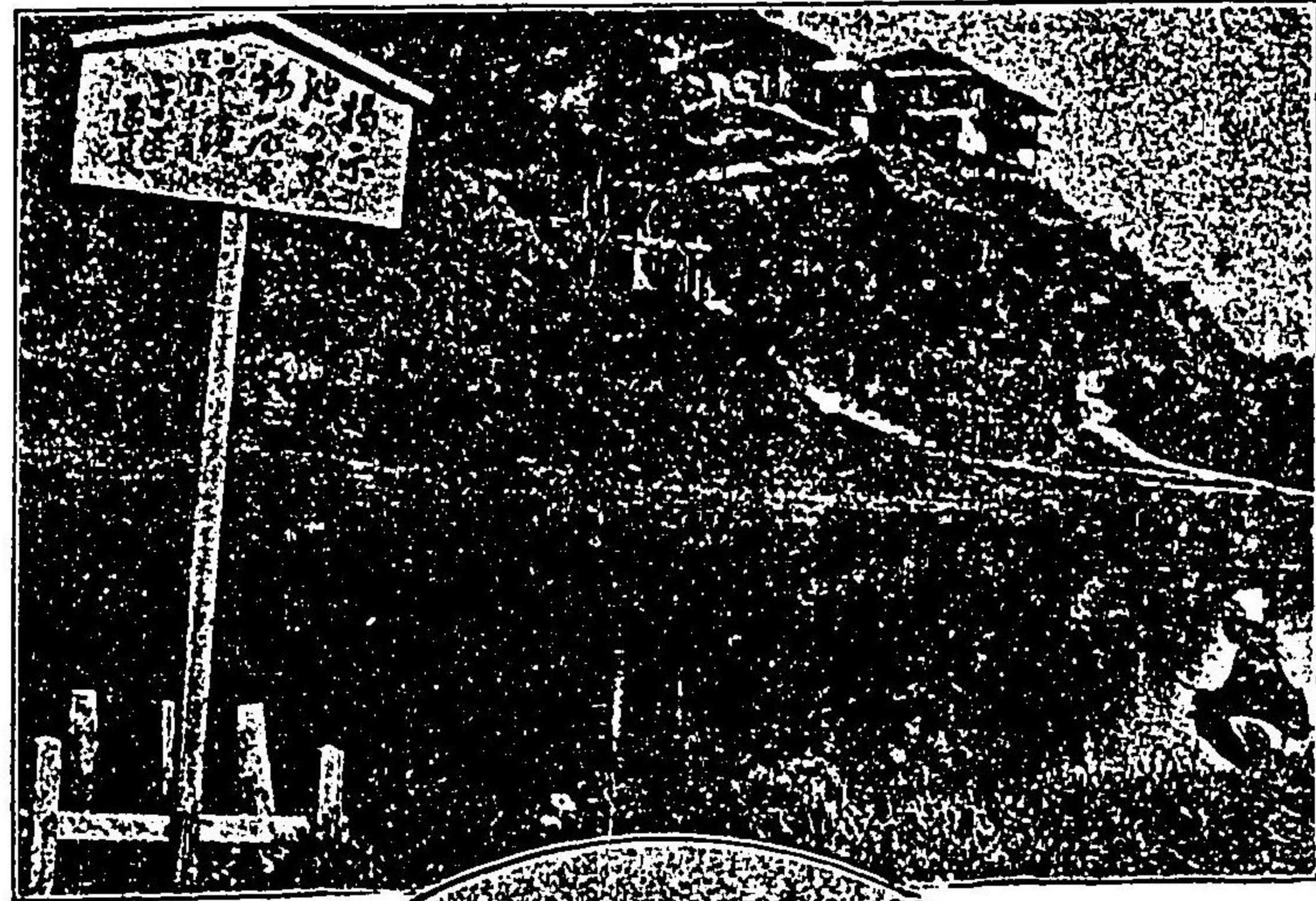
The
femal water fall
of
Nunobiki.



A view of the Kawasaki fine art collection
from Nunobiki Takimichi.

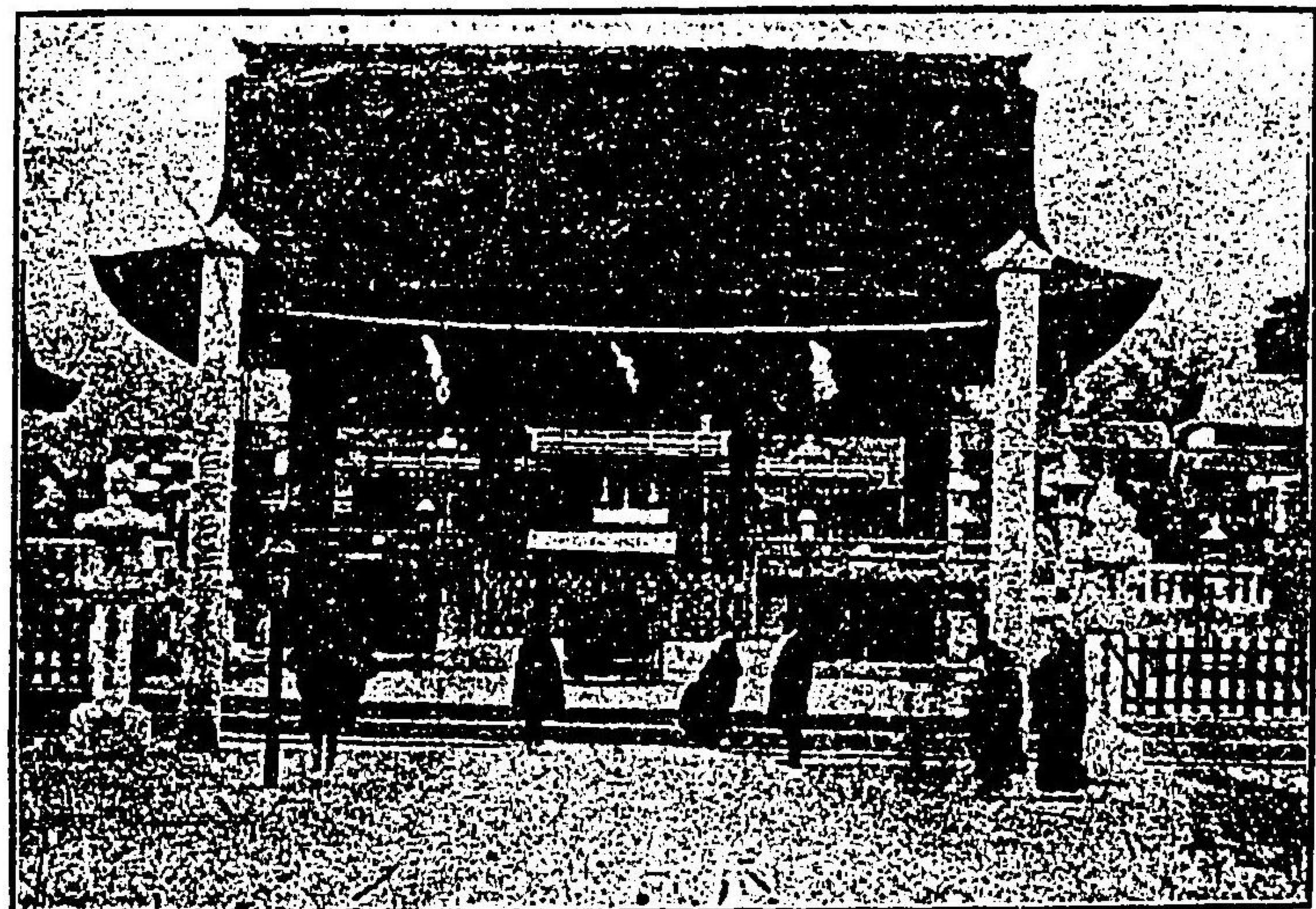
(△ 望ヲ館術美崎川) 道瀧引布

布引瀑布 (雌瀧)

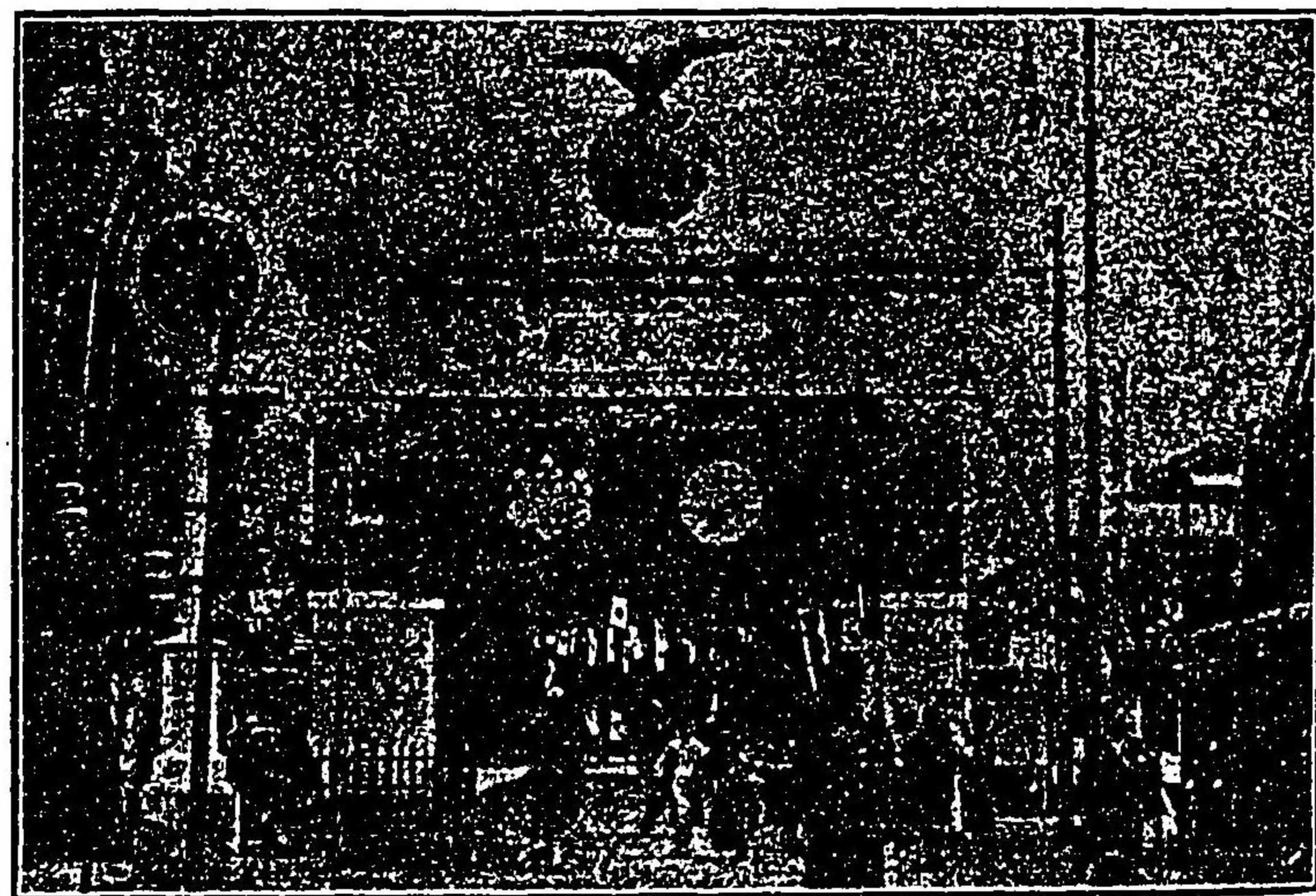


Suwayama Hill.

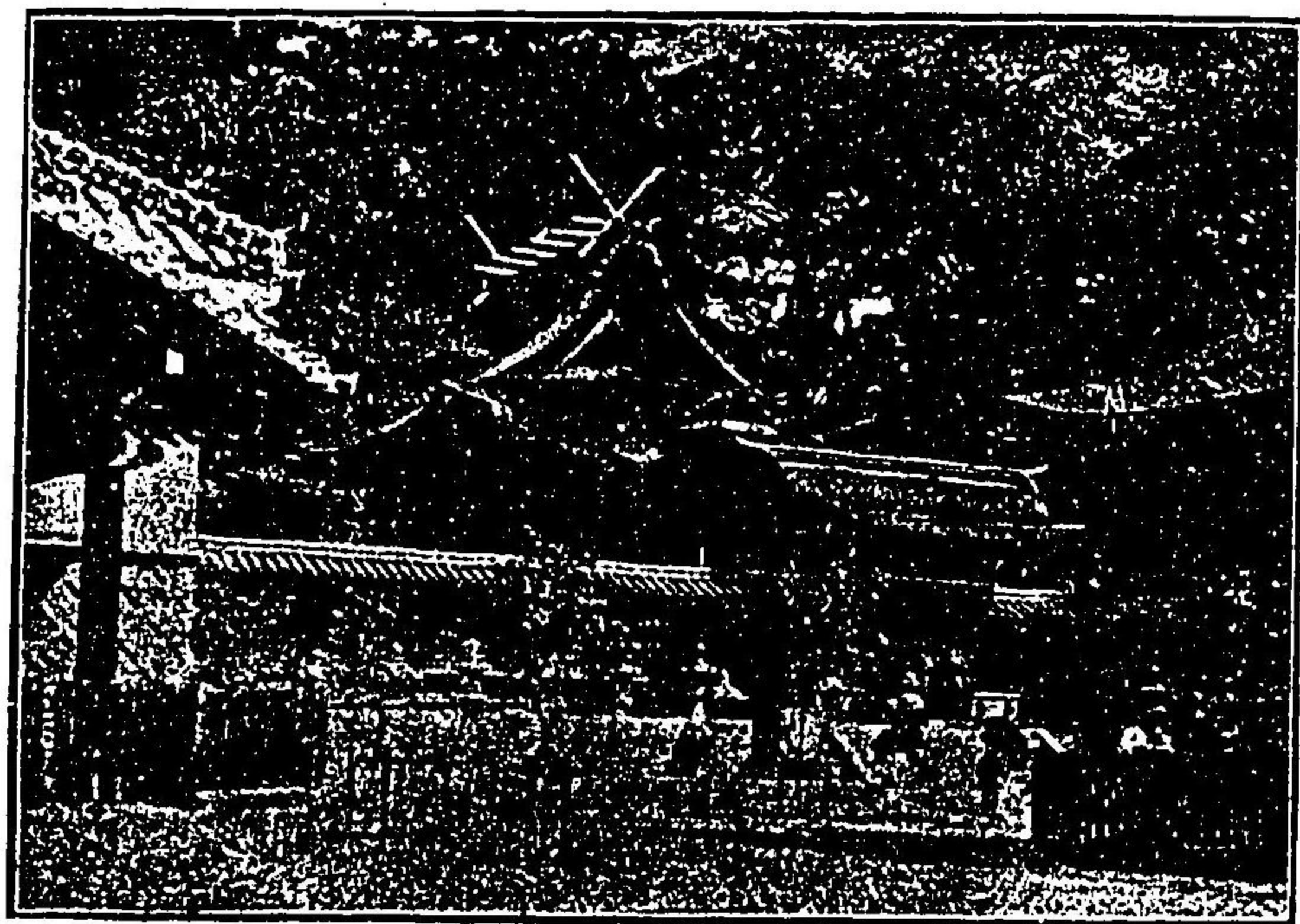
山訪殿



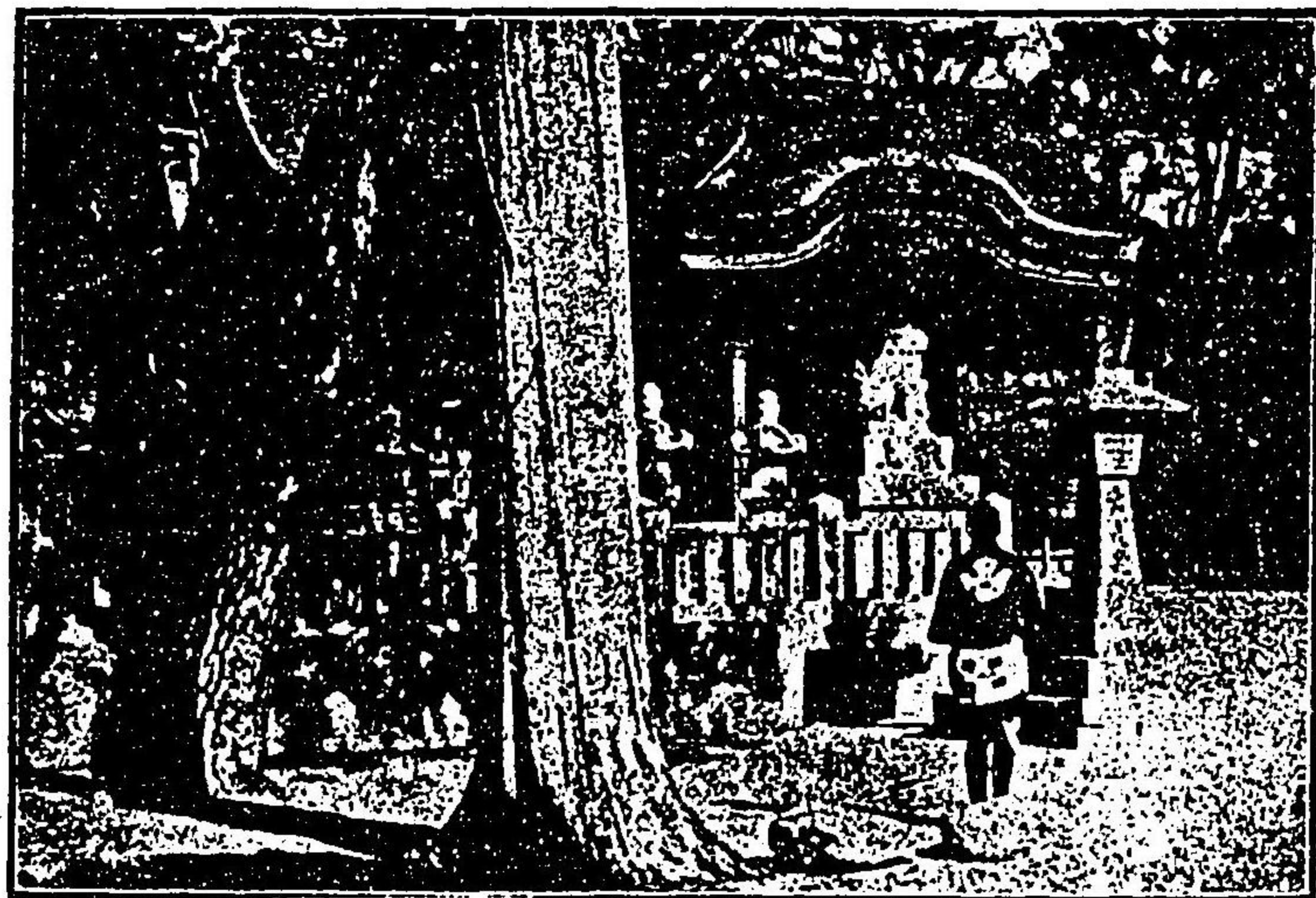
Minatogawa shinsha. 社神川湊



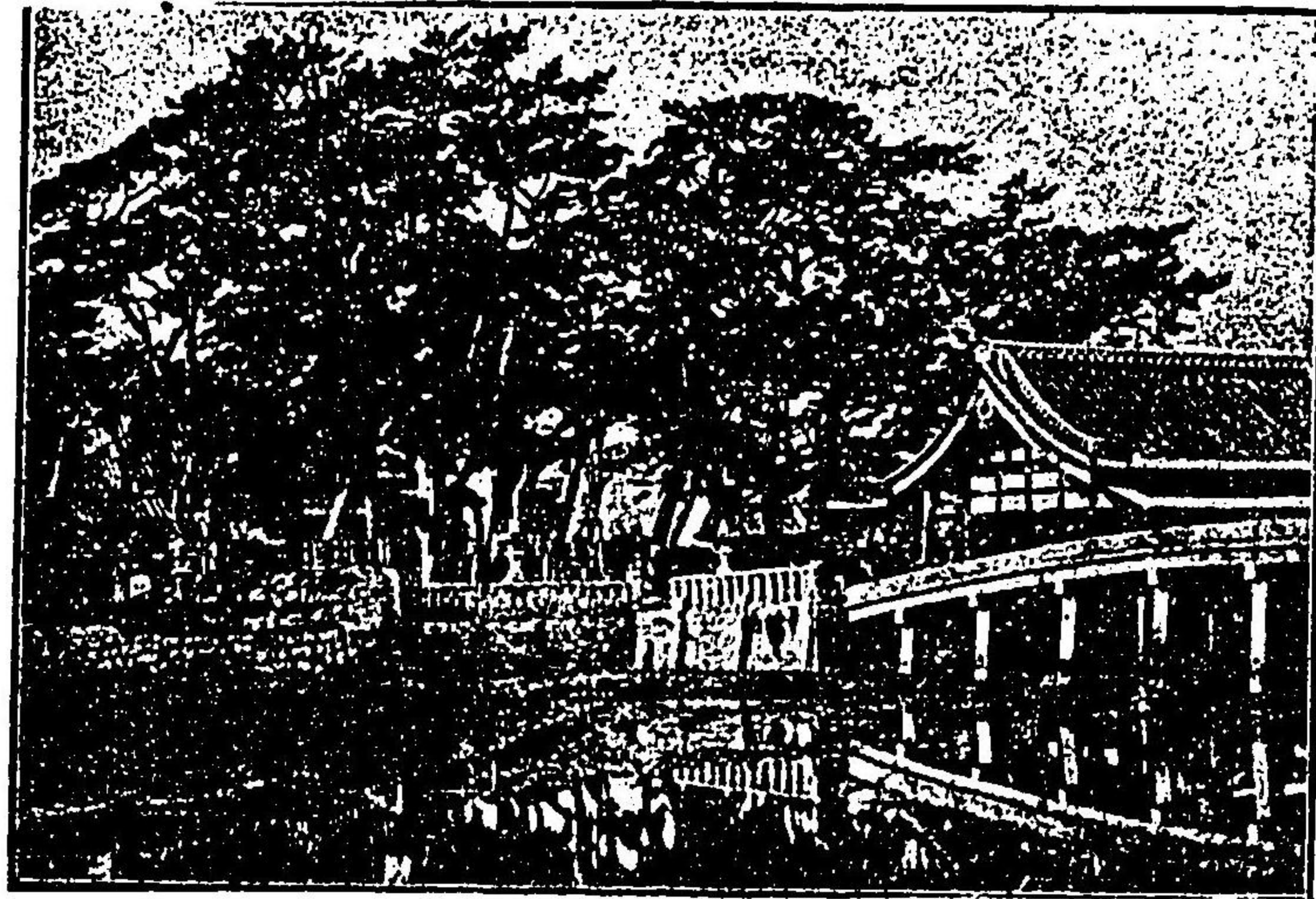
Triumphant arch in the front of Minatogawa shinsha.
(Temporary erection already taken down.)
(去撤日十三月八年九廿治明) 門旋凱前社公楠



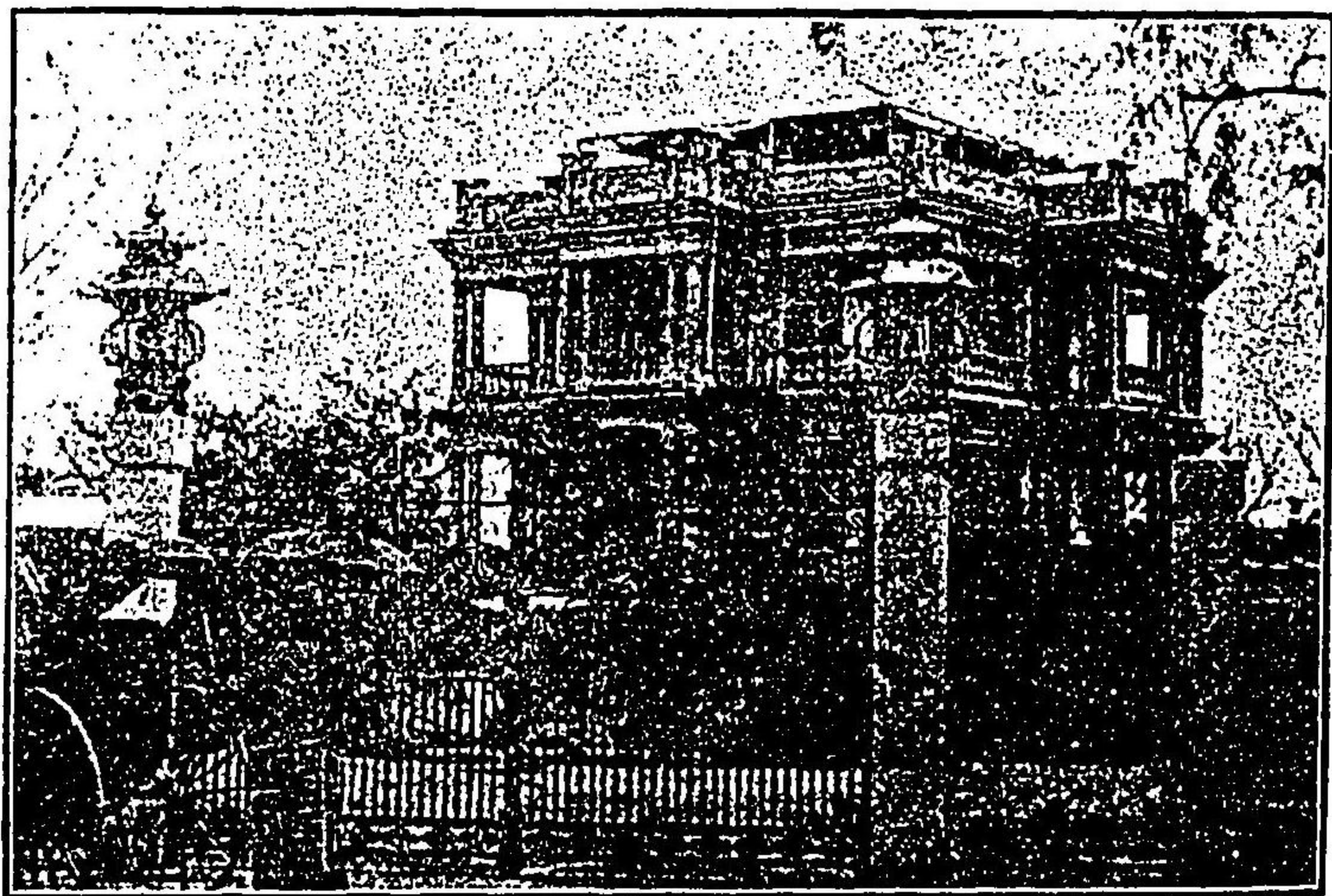
Ikuta-Shin-sha. (Temple.) 社神田生



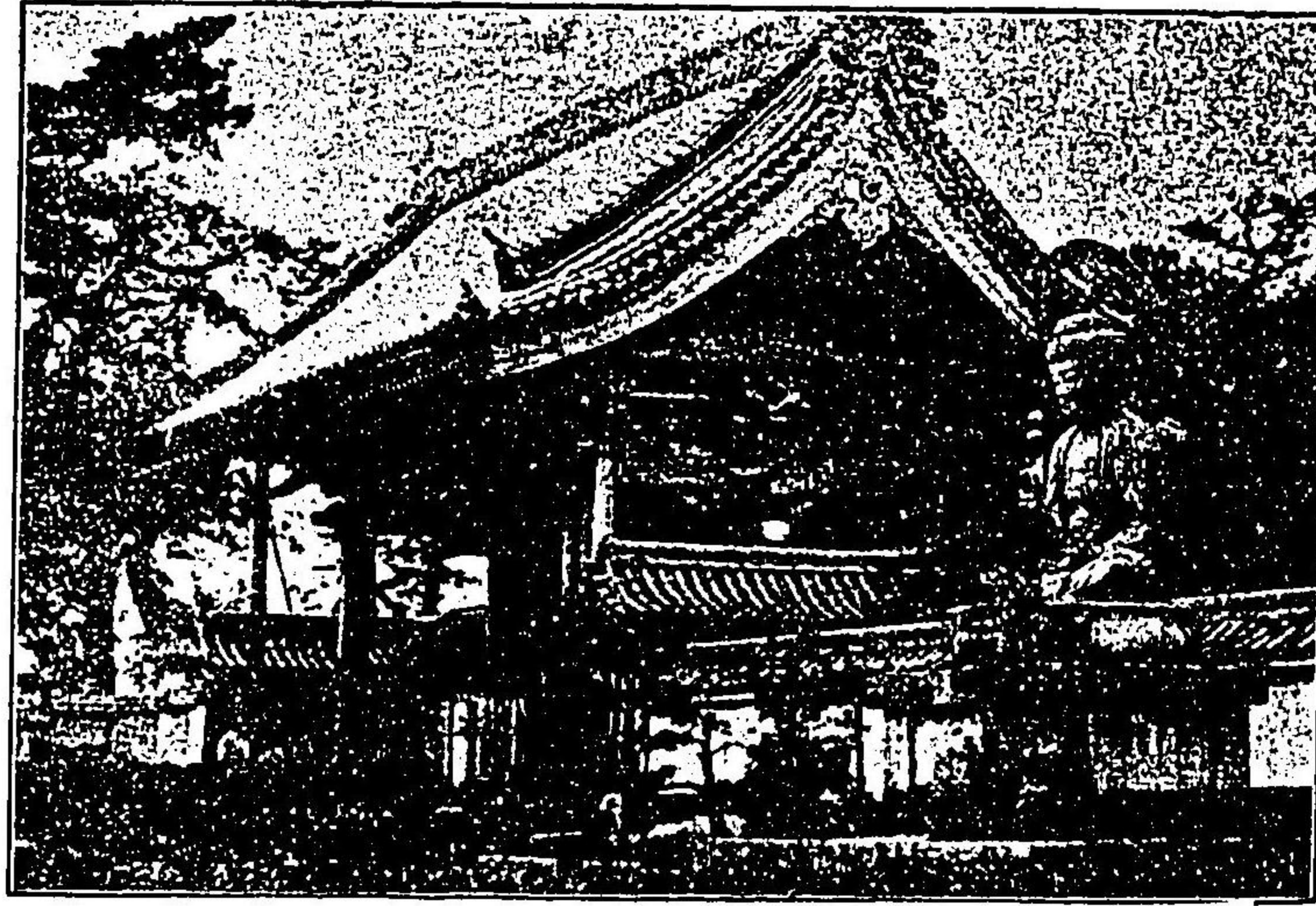
Nagata-Shin-sha. (Temple.) 社神田長



Wada-shinsha (Temple) 社神田和



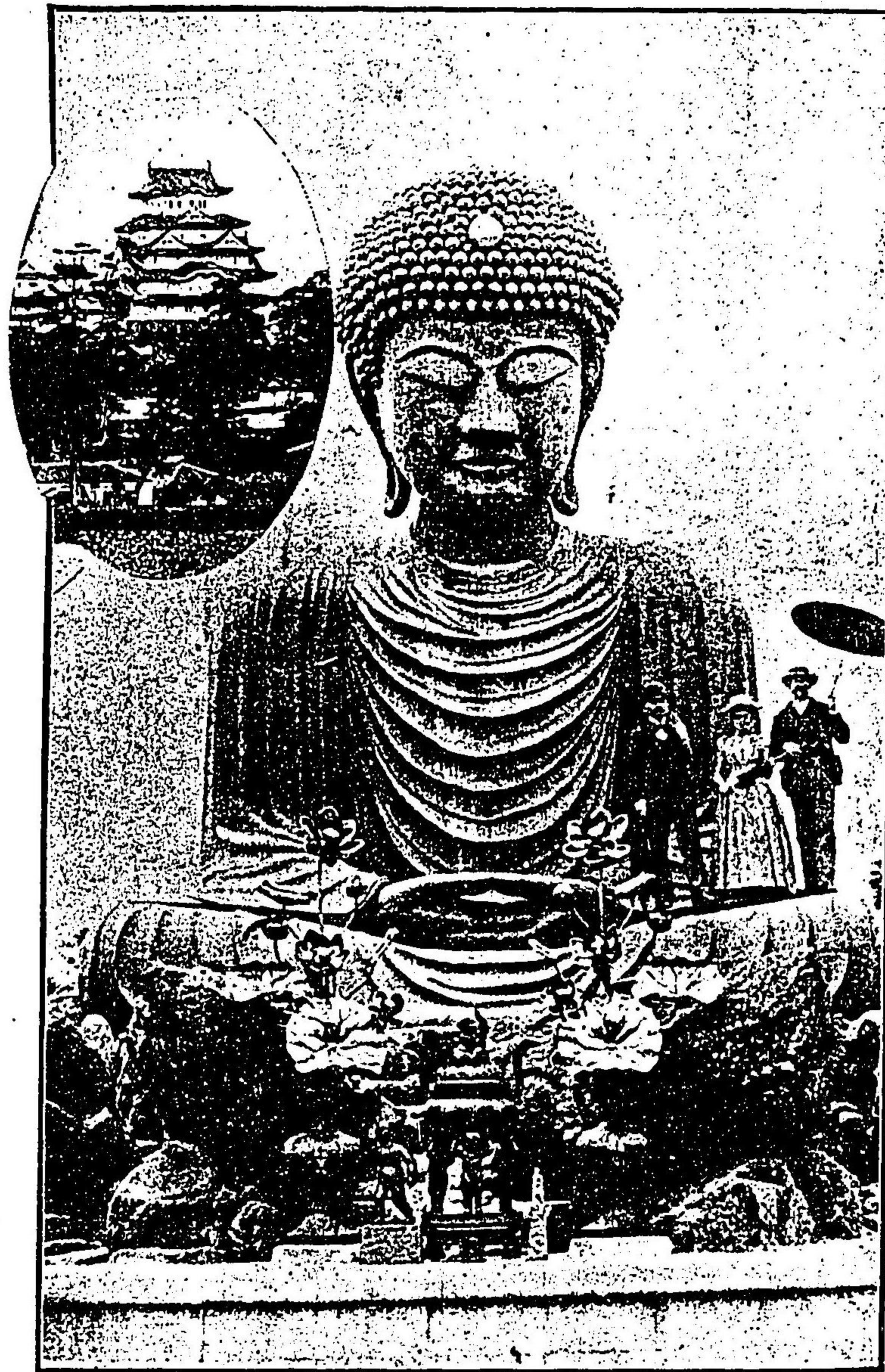
Waraku-yen (Public park) in Wadano-misaki. 園樂和岬田和



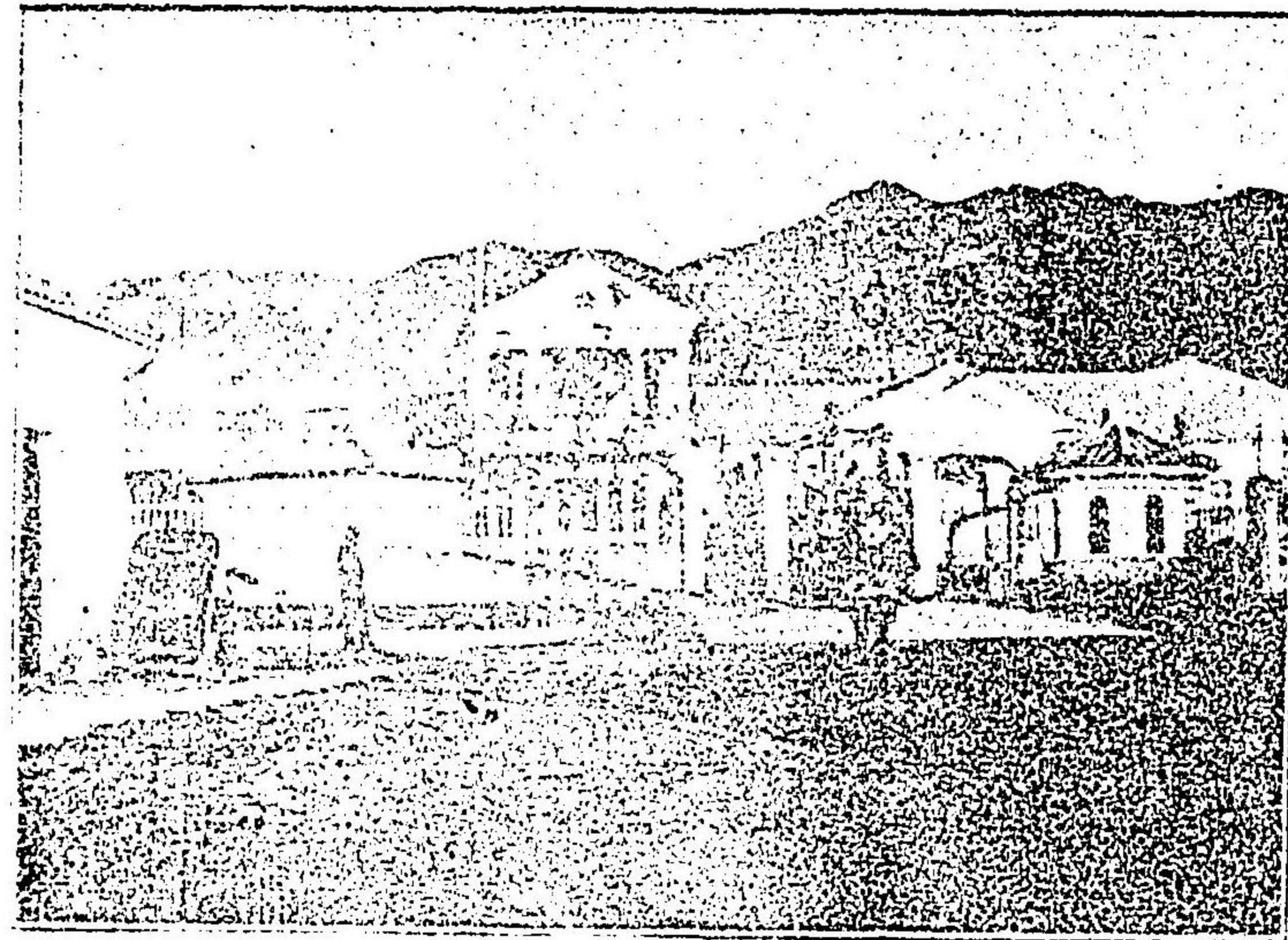
Shinko-ji. (Temple) 寺光眞



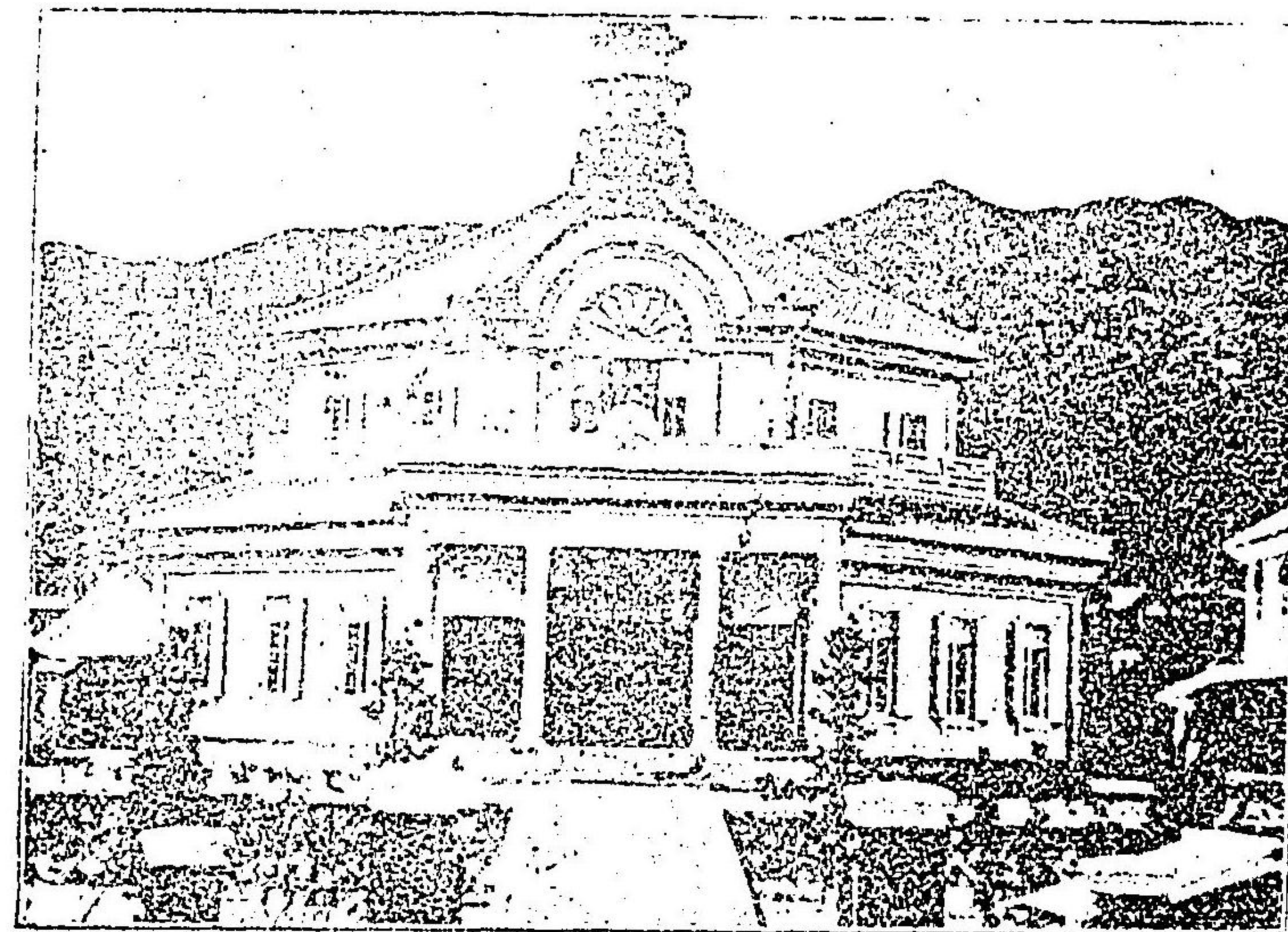
Tomb-stone of Kiyomori. 墓之盛清



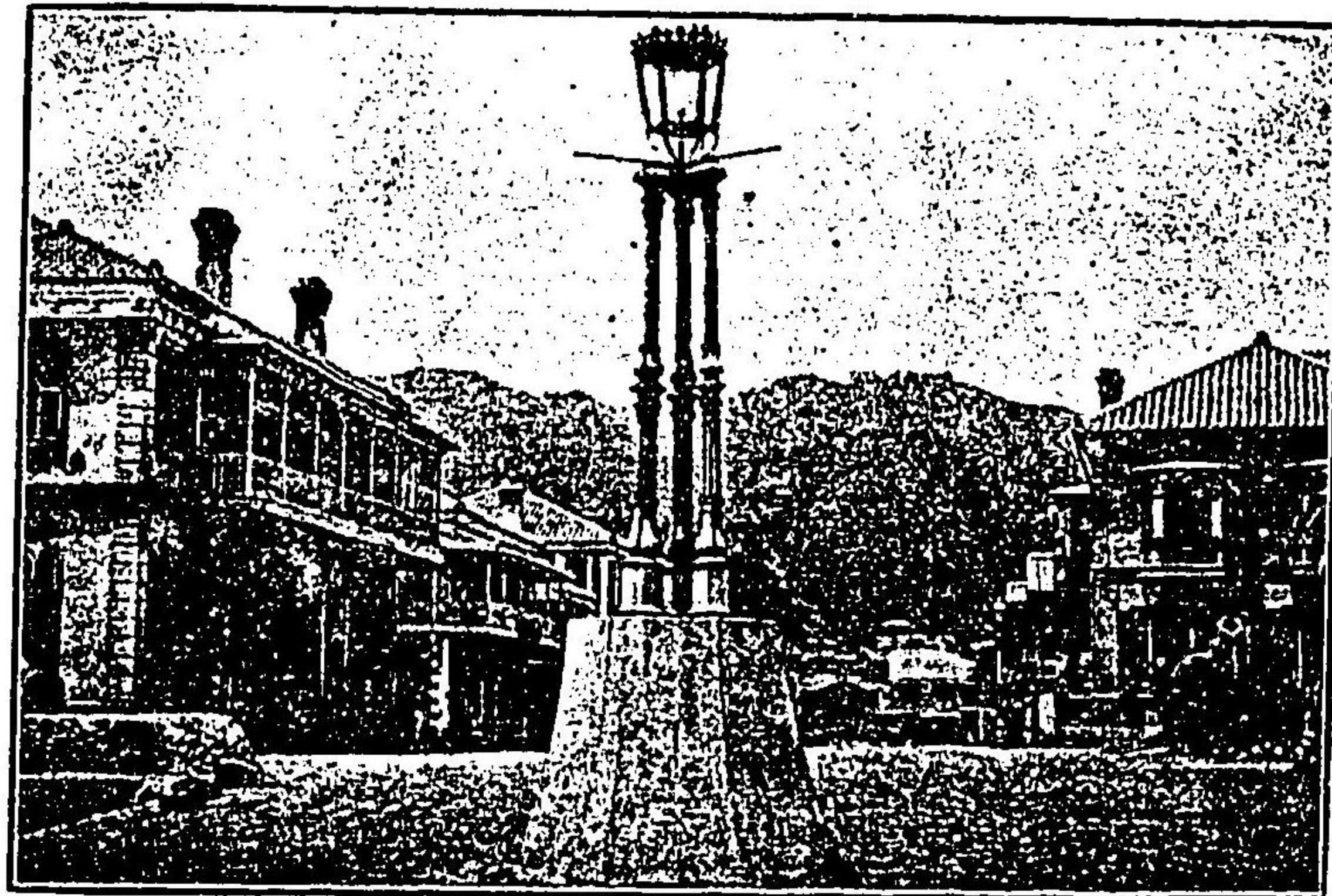
The great Idol of Nofukuji. 佛大寺福能



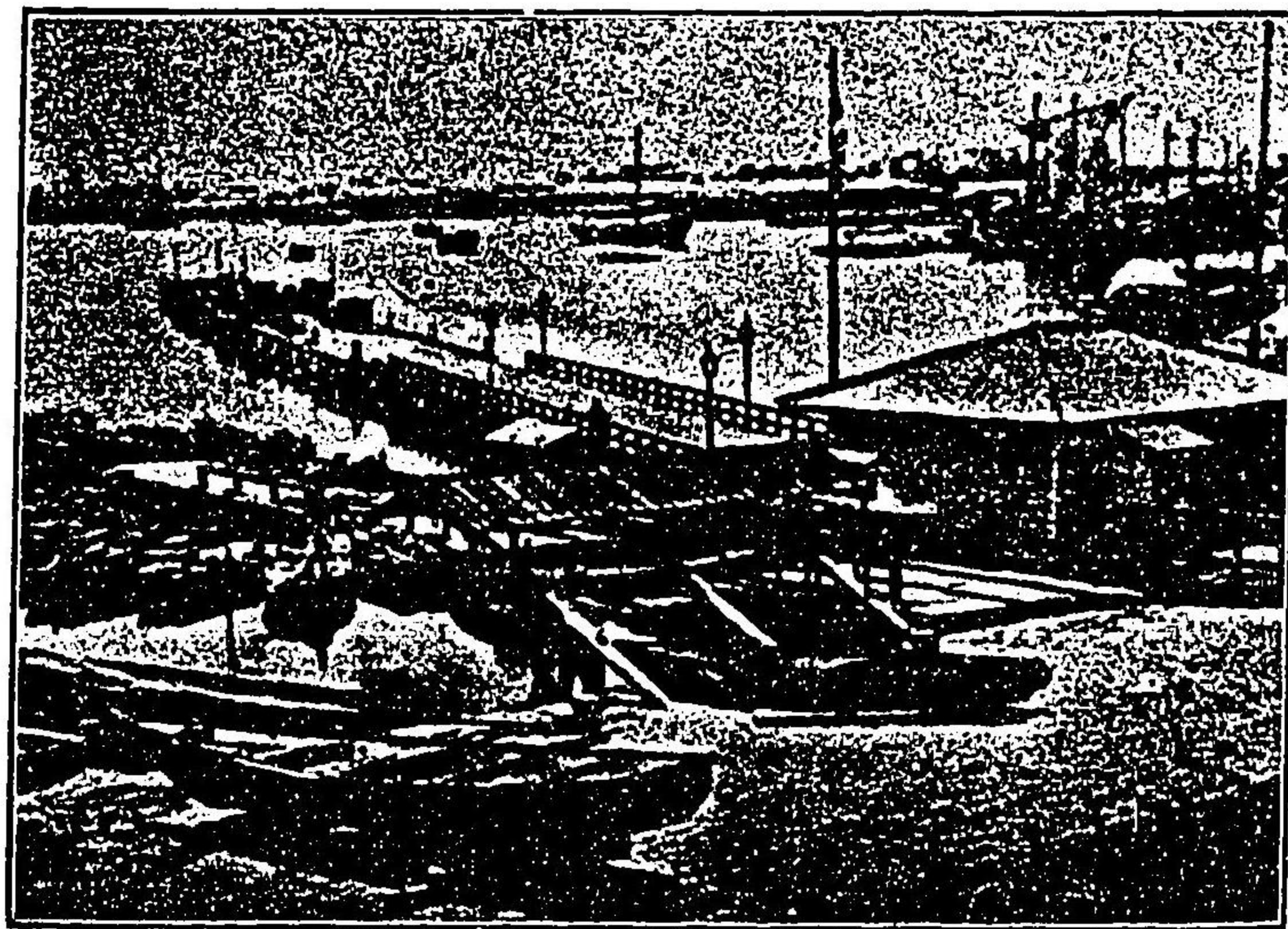
Hing-shan, Local Government House. 松陽軍兵



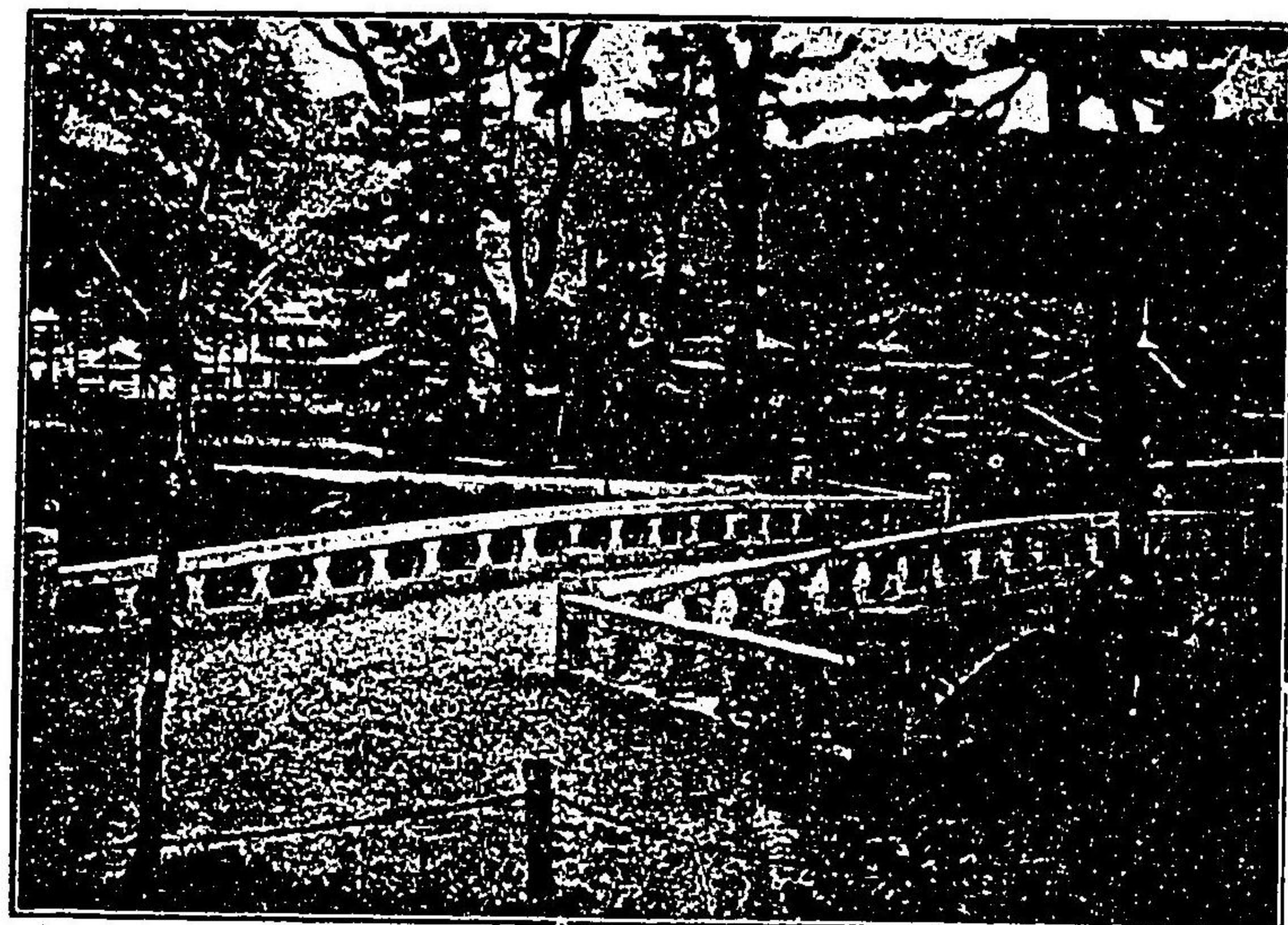
Hing-shan Assembly hall. 松陽軍兵



Concession. (American harbour.) (馬頭阜堅利米) 地留居



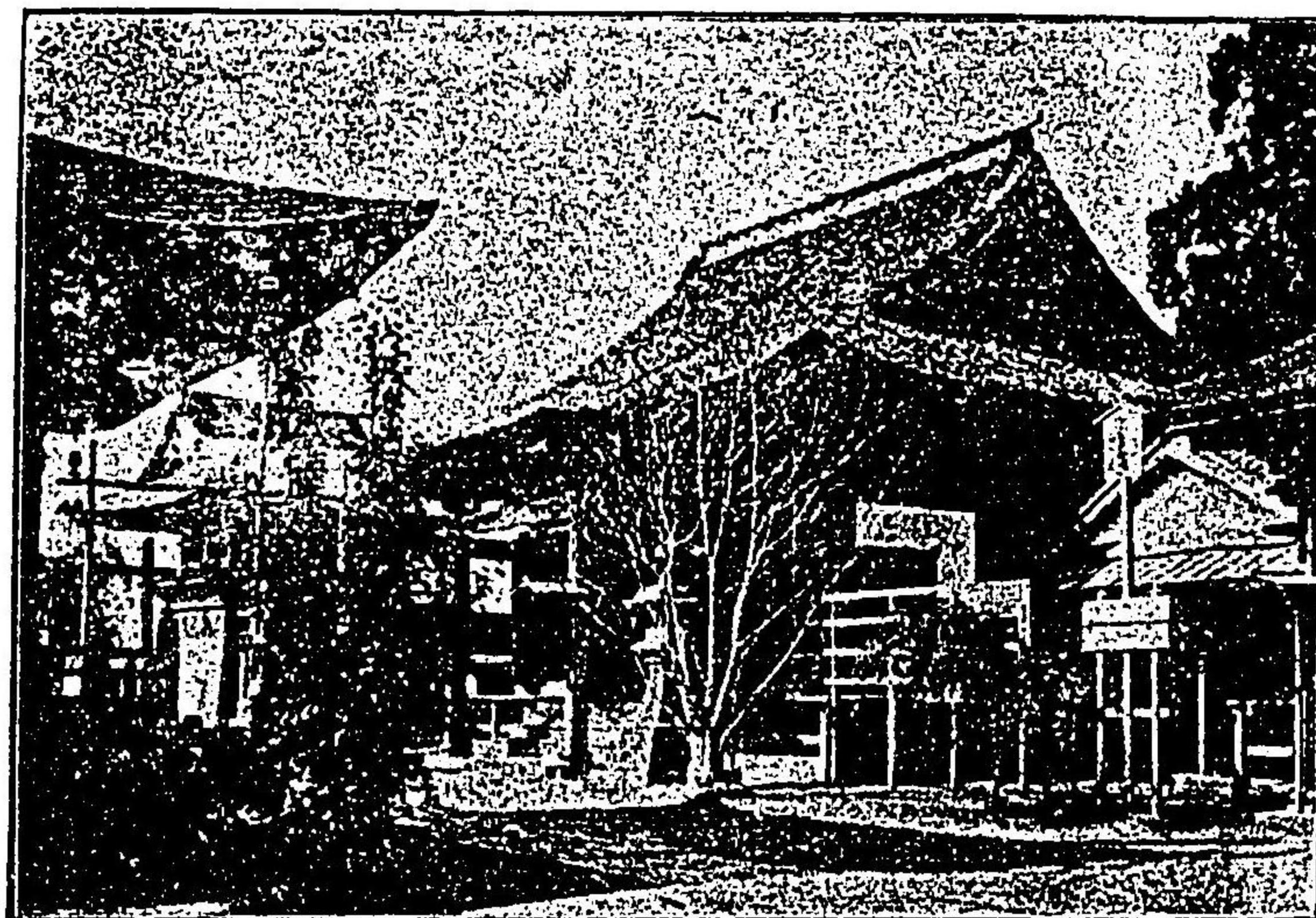
Pier. (Custom house.) (關稅中) 橋棧岸海



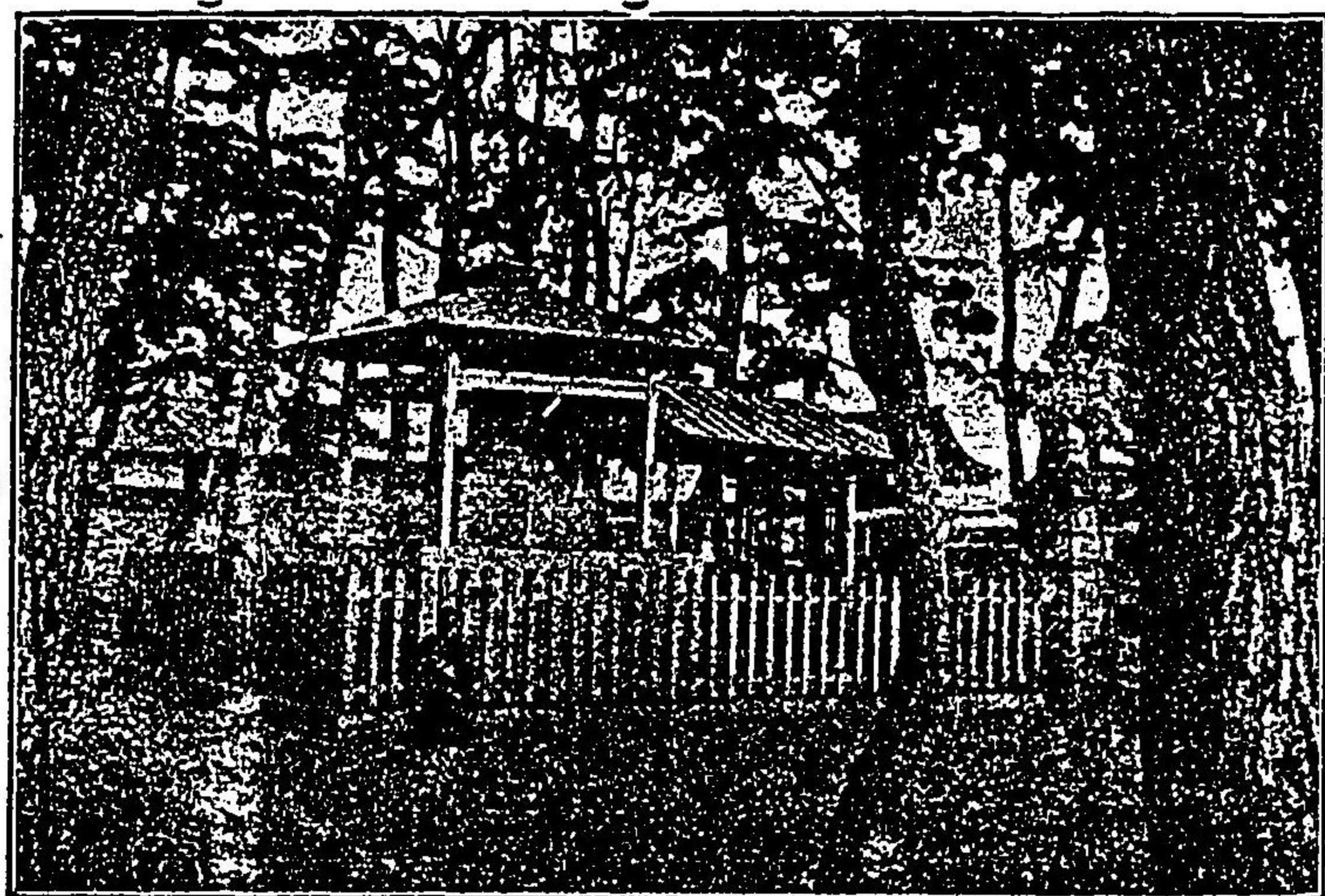
Minatogawa river bank. 防堤川湊



Fukuwara tea house. 廓遊原福



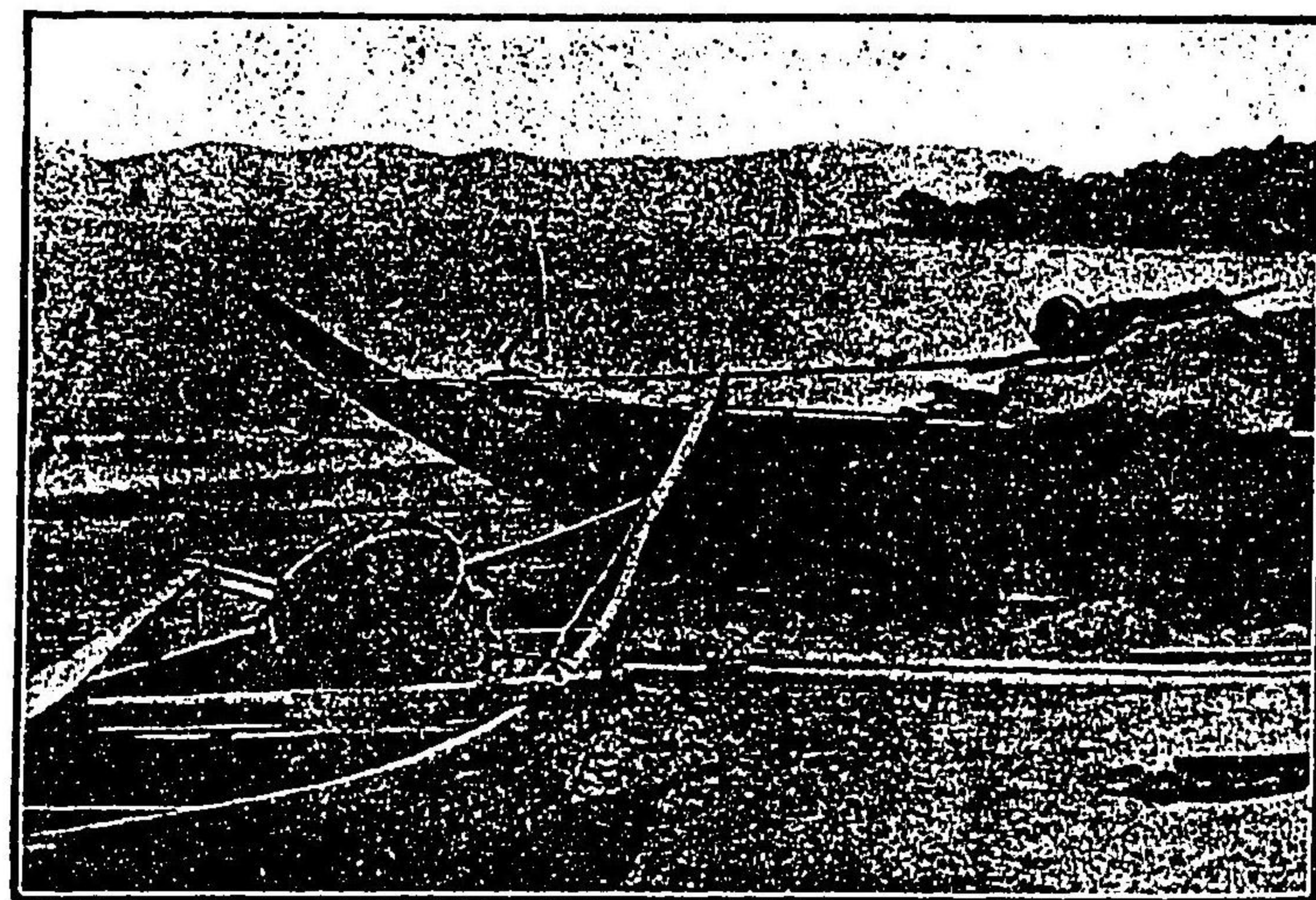
Shinnio-do (Temple) in Mayasan. 堂如真山耶摩



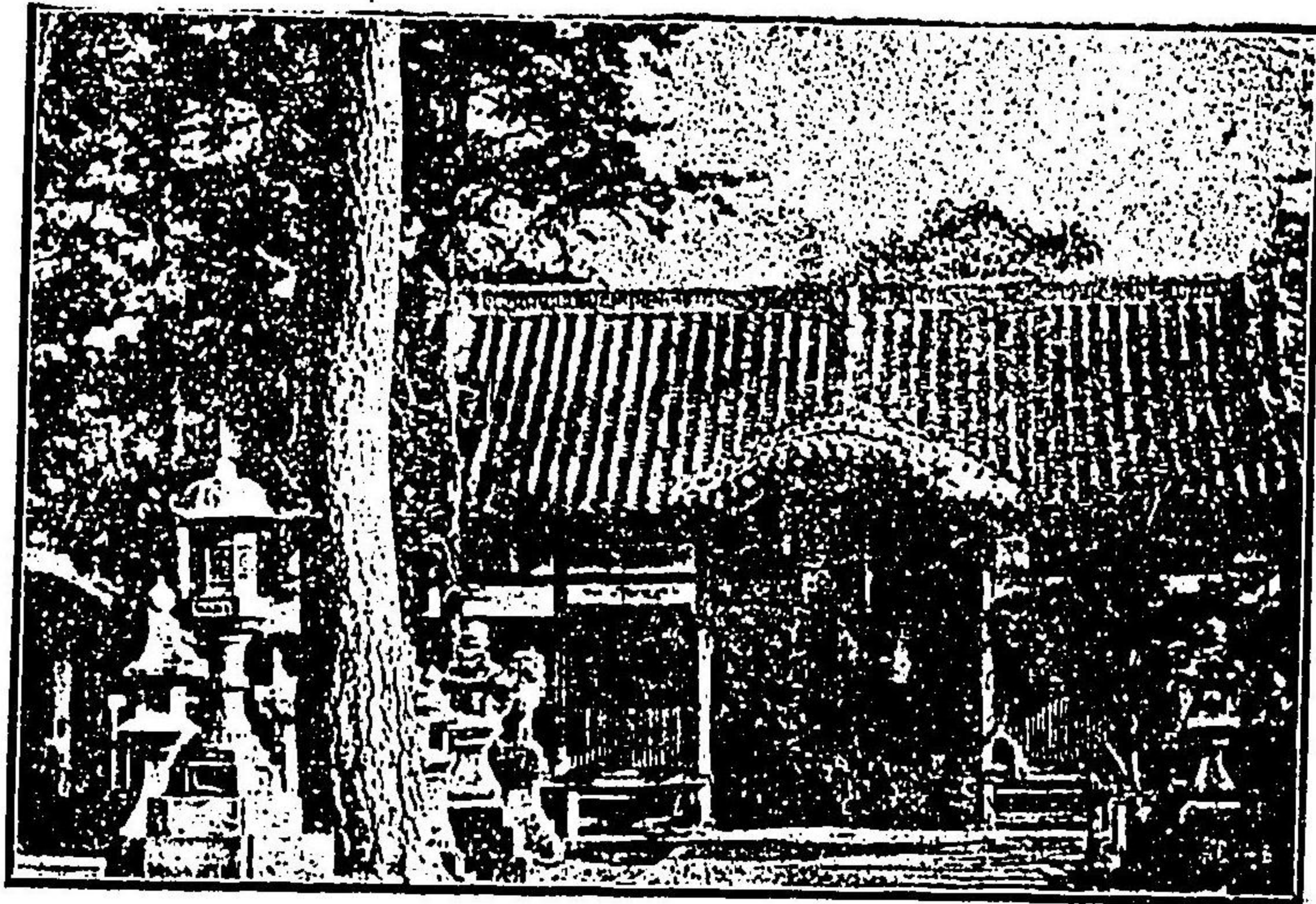
Tomb-stone of Nanko 碑墓公楠



Tomb of Atsumori in Ichinotani. 塚盛敦谷ノ一



Sumanoura. 浦ノ慶須



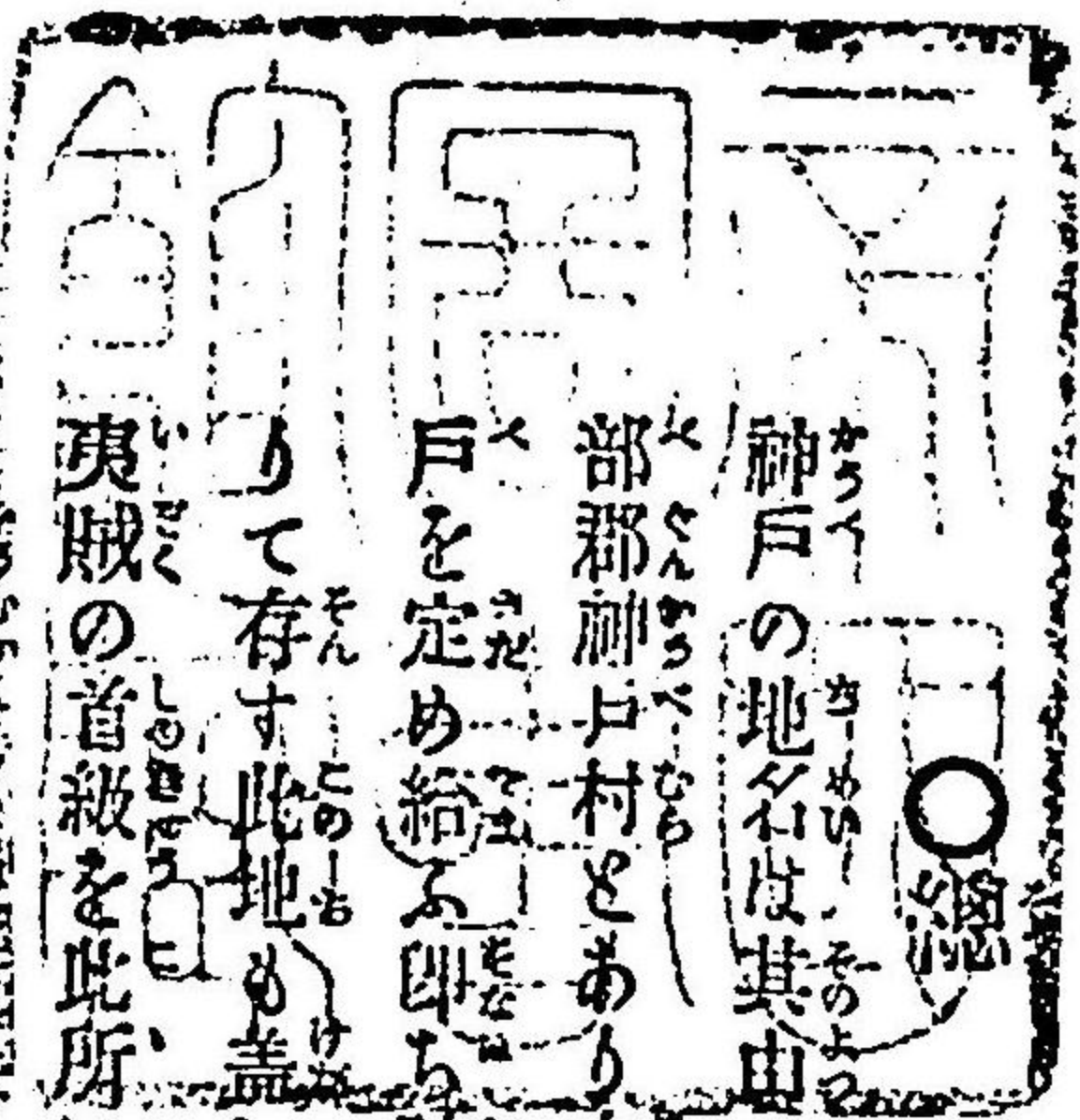
Hitomaru-no-Yashiro (temple) in Akashi. 社神丸人石明



Maiko-no-hama. 演ノ子舞

神戸の花

南豊芝廼合編



説

神戸の地名は其由て來ること甚だ遠し大平記には津の國紺部とあり和名類集には八田部郡神戸村とあり古語拾遺に曰く崇神帝六年八十萬の群神を祭り天社國社及び神地神戸を定め給ふ即ち神戸は神社に屬する領地の民戸なりと故に諸國諸郡に往々地名となりて存す此地も蓋し其一ならん又た一説曰く昔し神功皇后三韓を征し歸朝し給ふ時夷賊の首級を此所にて實驗なし玉ふ依て神戸村は頭村より轉じたるものなりと、されど大昔のことは暫く措き其後福原の都となり壽永又は延元の戦地となり或は花隈の城を築くなき由緒著しき土地柄なるにも係はらず神戸と云へる地名の餘りに人の口にせざるも理あり元來神戸とは今の宇治川の續き往還の村にて西の口を走水と云ひ其次

船澳笛一聲煙を殘して往くものは夫れ此の如く神戸の開化こそ實に速なる事なりけ

れ
惟ふに今日の我神戸は本邦盛都中第四五の位置にあるべし東京大阪西京名古屋の如きは我に優るとは云へ彼れの華麗を極め熱鬧を見るは實に數百千年の大昔しより綿々續きて今日あるにて繁華の度合は却て昔日の江戸に及ばず首府たりし時の京都に如かず大阪も名古屋も依然たるもの多し我神戸市が僅々二三十年の短き星霜の間かくも長足の進歩を爲したるもの其原因を多からめ次に記す地理風土名所古蹟勝地など其有様を通讀せば此美しく芳しき花を開きし源も自然と知ることを得べかりけん
序に當地繁華の一大原因なる開港の由來を畧記す看官よろしく其顛末を知りねかし
扱今は昔し安政五年六月の事とかや時の大老井伊直弼西洋諸國と條約し文久三年を待ちて江戸大阪及び神戸港を開かんこととはなれり時に國內攘夷論大に起り直弼の如き開港論者は遂に殺さるゝの慘狀を呈し開港の容易に行ふ可らざるに至れりざるに江戸

大阪兵庫を開港するは外國人の渴望せる處なれば違約は實に困難となり幕府は進退爰に谷まり遂に兵庫を開くべき前年即ち文久元年外國事務擔當安藤對馬守が開港延期の議に賛し使を歐羅巴に遣して各本國政府に談し遂に慶應三年十二月まで五ヶ年の間延期することとはなれり然るに元治元年より長州征討起り國內騷擾人心一に是れに向ふ外國人此景勢を計り若し此儘に黙過せば期約の年に及び開港の見込なしとし慶應元年九月英、佛、米、蘭の各國公使軍艦九隻を卒て兵庫に入り其二隻は直に大阪に至り時の將軍徳川家茂公に告て曰く各國は先に締結したる延期を取消し更に速に東京初め其他の港を開かんことを請求す、此時國內はさながら鼎の沸くが如く長州征伐のみかは攘夷論其極点に達し畏くも孝明天皇石清水に行幸せしませし攘夷の節刀を將軍家茂に賜はり以て速に攘夷を執行せしめんとし玉ふ時にてありき是に於て幕府は大に困難に陥り將軍は二通の書を朝廷に奉れり一は將軍の任を辞し慶喜に傳へんことを請ひ一は鎖國の不可なるを論し嚮に伊井直弼が締結せし條約を履行し兵庫港を開かんことを願

ひしものなりざるに朝議兵庫開港のことは之を禁ず遂に幕府は其命に従ず兵庫港は必ず開くべき様江戸にて其談判を決定する旨閣老連署して外國公使に告げ漸く軍艦を兵庫より退かせたり是れが爲幕府は一時氣息を嗣くを得専ら長州の處分に力を盡せり然るに此時即ち慶應二年將軍家茂薨し慶喜嗣ぎ又孝明天皇崩御あらせ玉ひ今上天皇即位し玉ふ斯の如き大變の際騎ゆく足は何時しか推移りて愈々慶應三年を迎へ兵庫港を開くべき年とはなりぬされど長州の處分も未だ決せず國內紛亂の時なりしを以て英國公使パークス思らく此有様にては到底本年中開港の約を履むこと能はざらん如かず此機に乗して國內を騒さんと然るに佛國公使反對の位置に立ち我國を助くる主義を持ち其公使ロシースは頻りに幕府に勸めて是非今年中に開港すべし若し開港論に抵抗するものあれば佛國は幕府を助けて之を討滅すべし此に於て幕府は其利害得失を考ふる暇もなく兵庫を開港せずして外國の兵を受くる如きに至ては是こそゆゑしき大事ならめと將軍同意し此年三月五日上書えて曰く條約は破くべからず開港は止むべからず依て兵

庫開港は是非共許可あらんことをと陳述せり朝廷にては此事たる重大の事から且つ亦先帝も許可なし給はざりし程なるを以て尙一度諸侯に議りて之を決定すべし幕府も亦た熟ら討議あるべしとの詔あり然れども將軍は同月二十二日再び上書して曰く此事たるや實に國家安危のかゝる所なり今一度朝議を煩らはさんことを上申せり事此に及びしかば朝廷は急ぎ詔を下して諸藩の上京を促し薩州侯島津久光、越前侯松平春嶽、宇和島侯伊達宗城、土佐侯山内容堂等のめんく重もに其會議に列し將軍と共に參内して徹夜議論の結果遂に兵庫開港を許する布令を發するに至れり實に慶應三年五月二十五日今を去る事三十年の前なりかし是ぞ神戸に麗はしき花の種子蒔くもとにてありき

○ 地理の大要

神戸市は攝津國の西端武庫郡の西南隅に在り東は同郡都賀野に接し南方一面茅渚の海に面して遠く紀泉の山を望み西は須磨村に隣りて播磨に近く北は山を跨り山田村を界す東西の長さ二里五町に餘り南北は山と海とに逼り神戸、兵庫の兩灣々入するを以て

廣狹一ならずと雖も凡そ三十丁に過ぎず實に六村百七十八町戸數四万一千二百二十餘
 人口十七万一千七百六十餘人を有す其の間翁鬱たる山兀々たる丘或は綠苔萋々たる空
 地なきにあらざれども大小の家屋櫛比鱗次し道路清潔將た整然にして幅廣く人車の通
 行に便なること蓋し本邦盛都中第一と稱すべきなり
 湊川は市の中央を横流し所謂大上川の一にて大雨霖雨の時にあらざれば一掬の水さへ
 なく常時は唯だ清き細砂の涎を敷くのみ（明治二十九年八月三十日兵車の上流東の堤防決潰洪水の
 三十年前癸卯二年にも大雨の時に堤上廣潤に老松鬱とし嵐々梢を拂ふの風は覺るに和元の昔
 當て堤防決潰水災ありしと云や）堤上廣潤に老松鬱とし嵐々梢を拂ふの風は覺るに和元の昔
 を追懐せしむ土地高爽兵庫神戸の市街一望にありて四民の杖を曳くもの甚だ多く殊に
 夏夜涼を納るゝの客、陸續踵を接し此便に供せんと欲して氷店、茶店、酒店、小屋を
 並べ休憩を勤むる聲賑なり
 神戸部北方一章の山を諏訪山と云ふ眺望佳絶風土清然市内第一の勝地と稱す麓には炭
 酸泉を湧かして人に入湯の便を興へ旅館の大なるもの割烹店の盛なるもの或は貴顯紳

士豪商の別業さては外國人の妾宅など美を競ひ麗を争ひ俗外優妙の良地たり、諏訪山
 の脈延て東北に亘り砂山となる布引雌雄の二瀑之に懸る下流は即ち新生田川となりて
 聳合に至り小野濱より海に注ぐ、又た諏訪山の北邊に聳立せる高嶺は所謂再度山にて
 城趾あり古刹ありて著名なり此山脈蜿々西方に趣き鵜越に至れるまでの脈中市の北
 邊奥平野に湊山、鳥原、天王の諸山あり（此諸山の溪水相集り）西端須磨村板宿村に跨り
 て神撫山一に鷲取山突起せり
 湊東部と神戸部との境を南流するものは宇治川にして河口辨財天を祀れる小社あり故
 に此邊を辨天濱と云ふ對して宮内省御用邸あり畏くも
 天皇皇后皇太后皇陛下の行宮に用ゐさせ給ひ又皇太子殿下の宮殿に供せ玉ふ殊に征清
 の役大齋を廣島に進め給ふや大元帥陛下廣島行幸の時に方り（明治二十七年）一日大本營
 を爰に置かせ玉へり
 宇治川の上流は宇治野安養寺の丘陵起臥し兵庫の北背には會下山あり湊川の河口東川

崎の斗角を以て東西兩灣の形成を爲す西方を兵庫灣と云ふ和田岬其西南を擁して天然の良港を爲し東方を神戸灣と云ふ東に小野崎斗出して亦自然の良港を爲す船舶碇繋所の區域は東舊生田川口より西和田崎の間なり兩灣共に水深く幾万噸の巨船も容易く横着に爲すを得べく且つ灣中所々に波止塲を築き又棧橋を設けて荷客の上下に最も快便を與ふ、港内の帆檣は林の如く濃烟は雲に似たり夜は紅緑舷燈の夥しく海波は海に映して暗夜海岸より之を望めば宛然市街の如し

兵庫港頭の一小島は所謂築島にして周圍を新川と云ふ小舟往來することを得近時此所より尻池に至る一里餘の間一大溝渠を穿ち一層舟楫運漕の便に供せんとするの計劃あり

神戸兵庫の兩端に燈臺を設けて海上の安全を計る其東神戸波止塲にあるものは發光六里不動綠色にして西和田岬にあるものは海上十二里を照すべき不動赤色なり
 外國人居留地は東部の海岸に接し七万余坪の區劃をなし洋風高廈軒を並べ道路廣く整

通し植ゆるに綠樹を以てす夜は數百の瓦斯燈輝きて外觀頗る清潔美麗なり

扱追々次項へ進み名所、舊蹟、勝區、公園、はさらなり神社佛閣耶蘇の會堂居留地南京町又旅客遊覽所の案内すべければ地理中首要なる事項は其都度々々設明すること
 となし地理の事は之れにて筆を擱かんとす、されど神戸市が僅の月日の間、かく繁華の大都會と變せしこと決して偶然にあらず内海深く山を控へ海陸交通無比の良地たればなり加ふるに風土景色天然の妙を備へ山は麗かに水は清く空氣の乾濕過不及なく雨量程能く氣候中和世界は廣し萬國へ多しと雖も山水の秀勝愛すべきもの此地と肩を比する所夫れ幾許かある、風土天候の健康は適するもの此地に及ぶべき所夫れ何處にかある快樂を願ふは動物自然の情態ならずや美を愛するは人間固有の天性ならずや招かずして内外四集繁華の都會と遷り變ること道理なれ

◎官衛公會學校病院

兵庫縣廳 兵庫縣は其管轄する所甚だ廣く畿内、山陽、山陰、南海の諸道に亘り北

◎官衛公會學校病院

は日本海より南は大平洋を貫通して本邦有数の大縣なり即ち攝津の内一市三郡播磨但馬、淡路、各一圓丹波二郡を包轄す實に二市二十五郡人口百五十七万二千余人を有せり縣廳は北長狹通三丁目に在り土地高爽、後は諏訪山の景勝を控へ前は神戸灣頭に望み流石は外國互市の場、かゝる諸國を管轄する本廳の所在として絶好の位置を占むされど廳舎は其建物舊様に屬し數年來新築の議あれども政費節減等の爲に推されて今に其まゝなること遺憾なれ

警察本部 縣廳の後方に間近あり

神戸市役所 相生橋東詰少し南の方即ち東川崎町の東端に位す是を我市を制理する市廳にして吏民の間最も親く上下圓滑に近時大に市の發達を見るべきものあり

警察署 市内に三所あり一は神戸警察署と云ひ加納町に一は兵庫警察署と云ひ相生橋の南隣 即市役所と相並び一は戸場警察署と云ひ兵庫の戸場町にあり此外に分署

一二ヶ所を置き尙ほ海上の警察を専務として海岸通に水上分署を設けり又一二町毎に

々に巡查派出所ありて晝夜の警戒を怠らず海陸共に安全の保護を受く

裁判所 楠社東門を出で左手に廣き白壁を圍らし前に狭く空濠を通したるところ即ち神戸地方裁判所及區裁判なり爰にて判決を受けたる罪人の行くべき

監獄署 は湊川の上邊石井村にあり是は數年前の新築に係り田圃の中央の煉瓦石

扉を以て固く外観宏壯なり

税關 我國と外國との輸出入物品に對しては開港互市の條約に基き税金を賦課し之を徵收す其役所を税關と云ふ居留地の海濱加納町にあるものを神戸東の税關と稱し

海岸通四丁目にあるものを中の税關と稱す明治二十五年海關擴張兵庫を開きてより築島の嶺先に此出張所を設けり、而して當港の交通便利なると港灣の宜しきとに由

て輸出入の物品又は非常に多く從て税關の盛なること本邦中其比を見ざるなり灣上幾多の漁船と帆舞船の常に碇を下し又出入するの繁きに依ても之を知り得べし扱此多數の巨船は何れの品を積載し來るか將た又如何なる品を乗せて往くか其國々は何

處なりや其價格は若干なりやと是等は神戸の景況を知らんとする人の第一に聞かんと欲する所ならん故に左に其概略を記さん

本港より外國へ輸出すべき物品の重なるもの即ち一品の價格拾萬圓以上に及ぶものは

樟腦、錫、椎茸、米、蠶、安質母尼、銅類、木臘、屑絲、綠茶、綿氈、紋巴、綿布類、綿メリヤス、肌衣、竹材、石炭、屑布、木材、扇子、燐寸、地蓆類、屏風、麥稈眞田、洋傘、竹器類、玻璃器類、漆器類、磁器及び陶器類なり

全輸入品にて拾萬圓以上のものは

貨車、瀛車及び同部分品類、紡績機類、漁船、諸機械類、洋紙類、帽子、撒里矢爾酸、燐、格魯爾酸、刺鴉亞斯、苛性曹達、製藥雜類、アニリン、メイス、ログード、幾斯、諸染料、玻璃類、豆類、米、熟皮類、塊鐵、條鐵其他鐵、鋼鐵類、亞鉛、石油、砂糖類、綿綿、綿織系、更紗、綿織子、綿天鵝絨、生金巾、天竺布、羊毛、糸類、フランクケット、フランチル、毛織子、吳呂、羅紗、油槽、麻袋等なり而して其國々は地球上荷も航海交易の道開けぬる所は皆な此港に船を寄せ貨物の揚卸をなさるはなし此數年來の平均により輸出入物品の價格を見るに輸出は歲々貳千萬圓輸入は參千萬圓に及べり、就中毎年百萬圓以上の多額に達する輸出入取引先は、英、米、獨、露、佛、印度、支那等の諸國なり

本港貿易の光景夫れ如斯況んや目下之れに加ふるに蠶絲の類を以てす爾來益々般盛の佳境に進み東洋無比の交易場となること期すべきのみ

郵便電信局 榮町六丁目にあり支局は兵庫神明町に又電信のみの支局を三ノ宮停車場内にも設置り

電話交換局 東川崎町の東端にて郵便電信局より凡そ二町許西にあり

鐵道廳 市の中央なる相生町の南部より東川崎町の大部分を占め濠東部の海面にまで聯りて一大區劃をなし内に數十の建物數個の煙筒屹立して丁々たる響き晝夜絶え

ざる所即ち鐵道局の製作場なり或は車箱を補理し或は車輪を鍛冶し鍛冶木工の仕事は年中絶ゆる時あらず其他鐵道諸般の事務を掌理すべき會計、運輸、倉庫、土木等の各課或は諸驛諸線路を監督すべき技士諸役人の廳舎皆此内にありて繁忙を極めり其前面相生町に向て廣き長きプラットホームを有するものは即ち

神戸停車場

なり是より東は東京にまで連なる官線の基点にして西は今は廣島まで通すれども日を出でず下ノ關まで到るべき山陽鐵道の線路に接す實に此驛は東西兩通の中心に當れる要點なれば荷客運搬の繁きこと又た非常なり、毎一時間の度々瀛車發着の時に際し數千百人の旅客を上下せしめ幾多の貨物を揚卸す流石に廣きプラットホームも所狭き迄に雑沓を極め又上中下等の待合所には常に乗客の群集するを見るなり是より東凡と一哩弱にして

三ノ宮停車場

あり東より來り又東へ行く人の半は此驛より上下す

兵庫停車場

神戸驛より西の方凡と一哩許の所山陽鐵道の本局なる柳原にし

て其邊數多き建物同會社の製作場或は事務所なり

公會及俱樂部

下山手通四丁目警察本部の東隣に當り高き六角形の家屋あり是

即ち本縣々會議事堂にして、電話交換局の前にあるは神戸商業會議所なり其他兵庫縣醫會大日本私立衛生會神戸支會、藥劑師會、三交協會、兵庫縣醫會、神戸青年協會、貧民救濟義會、私立兵庫縣教育會、全勸業會、神戸教育會、兵庫教育協會、音樂會、神戶俱樂部、神戸地主俱樂部、神戸貿易商業俱樂部、美奈登俱樂部等或は政治上に關する者、教育上に關するもの、衛生上に關する者、實業上に關するもの種々様々の公會俱樂部などの團體枚擧に遑わらず旅客の爲は極めて必要のものと思はざれば茲に之を省略すされ今左に聯合共進會場と水産博覽會場の位置を示さん
第六回關西府縣聯合共進會 明治卅年四月より數日間開設せらるべき共進會場は即ち楠町七丁目舊鎮臺屋敷跡を以てす抑も此地は明治六年の頃大阪鎮臺分營として砲兵一大隊を置き全十一年に至て之を廢し爾來漠然たる曠野に歸したりしが

今回其中二万一千餘坪を以て共進會の敷地となすに至り明治二十八年京都にて開會せし第四回内國勸業博覽會建築物を悉く移して茲に工築り此地たる市の中央に位し東に安養寺山の丘陵を控へ前は兵庫の市街を一眸におさめて灣頭の光景を望み海波帆影遠く紀泉の山に映して近く湊川の老松を迎へ後は奥平野に連りて湊山一帯の緑蔭に満ちんとす實に清朗佳勝の良區たり共進會結了は全年九月より開設すべき

第二回大日本水産博覽會 一場に供すとかや (和田岬水族館と相待て同會場になすの計劃なり)

是より諸學校又は幼稚園の案内すべければ一たび參觀の勞を省ます我市教育の一斑の景況を知りねかし

縣立にかゝるもの三あり

兵庫縣尋常師範學校 下山手通五丁目にあり即ち兵庫縣廳の上方に接近し飯訪山に當れり全附屬小學校は其前面に設置す

神戸尋常中學校 葦合村の東邊生田川の西岸にあり本年(明治二十九年)の新築にして稍々熱鬧の衢を避け勉學の良位置たり

神戸商業學校 橋通二丁目即ち裁判所の東隣にあり専ら商業上の學術技藝を授け兼て其應用を練習する所たれば商業志望者の在學最も多し

而して又市立にかゝる小學校は左の如し

雲中尋常高等小學校 葦合村の内新川邊にあり

神戸尋常高等小學校 北長狹通四丁目即ち縣廳の前、當れり元町三丁目四丁目に分教場各一個所を置く

湊川尋常高等小學校 橋通一丁目即ち楠公社の西北方に接近す楠町五丁目東川崎町三丁目に分教場各一個所を置く

兵庫尋常高等小學校 永澤町四丁目即ち兵庫辨天社の西方に接近す全町一丁目及切戸町、和田岬町、西出町に分教場各一個所を置く

宇治野尋常小學校 宇治野町にあり
 湊山尋常小學校 石井村にあり
 眞陽尋常小學校 林田村にあり
 西野尋常小學校 西野村にあり
 以上の中神戸、湊川、兵庫の三校は市内繁華の中心たる學區に位し生徒の數多きは三千六七百少きも二千九百を下らず職員亦た之に適ふ從て規模最も宏大にして他府縣諸地方に於ても未だ是に比すべき小學校あるを見ず嗚呼盛なる哉
 此外市立の湊川實業補習學校あり本年(明治二十九年)四月の創立にして湊川尋常高等小學校内に附設す
 私立學校も亦甚だ多しされど其完全なるもの盛大なるものに至ては最も尠し殊に女學校の類は耶穌主義に由て設けられしもの多きが如し今左に私立學校中の稍々名あるものを一括し記さん

神戸女學院(山本通四丁目) 親和女學校(花隈町) 松蔭女學校(中山手通六丁目) 何れも普通科を授く、神戸産婆學校(山本通五丁目) 産科を授く 明倫學校(北逆瀬川町) 靜盛學舎(魚棚町) 何れも漢學を授く 其他宮内町にある紫天府學校は和算を教へ羽阪通の般若林學校及南逆瀬川町の大悲學校は佛敎を授く 又元町三丁目にある神戸夜學校は怡も實業補習學校の如く山本通三丁目にある乾行義塾は稍々中學校に似たり 此外啓蒙學校、生田學校、汎愛學校等あり 又外國語或は簿記法などを教ふる所は市内到處に散在せり

扱又幼稚園は比較上甚だ少し 中山手通五丁目の頌榮幼稚園と北長狹通六丁目の神戸幼稚園及び永澤町四丁目の兵庫幼稚園の三所を置くのみ
 病院 世は進むにつれて病の種類を殖し繁華なるに従つて患者の數益々多きは如何なる故か、蓋し止むを得ざる事にや文明と誇り天工も奪んとする歐米諸洲にても此統計を確しむることを得れば病てふもの將に人生なるものは到底人意のまゝにもなりが

たき事なるべし、扱て市内に於ける全科醫及内外科其他專科醫（婦人科、小兒科、眼科、耳鼻咽喉科、齒牙科等）開業の数は凡そ百五十餘名あり内には雀の戯れんとする數醫もあれど博士又は學士などの肩書打たる名醫も多し且つ公私立病院數個ありて何れも病人の數多きこと憂てけれ、今茲に其一班を示さんと近き明治二十八年中縣立神戸病院の外來患者總計即ち内外科、眼科、婦人科等都合一万二千六百七十有餘人にて入院患者は全六百八十餘人なりしと、其他私立病院或は開業醫に注文しける患者も甚た多にして近き兩三年間の平均を見るに我全市内一年間の患者總計は無慮十一万四千五百有餘に上る噫都會に病多きは前にも云ひし如く實に是非もなき事と思へど衛生の途未だ充分ならざるに依る注意すべき一大急要最事なりかし、

左に最も著るしき市内公私立病院の所在を案内せん

縣立神戸病院 下山路七丁目あり

縣立梅毒病院 同所により即ち縣立神戸病院の北方に隣す此所は市内娼妓の驅使所に

設けし所なり前に縣立神戸病院附屬の傳染病室あり

私立杉田病院 楠町一丁目即ち八ノ宮の北傍にあり

私立吉田病院 山本通四丁目即ち諏訪山麓にあり

私立佐野病院 北長狭通四丁目即ち三ノ宮停車場より少し北へ上る所にあり

私立神中病院 榮町六丁目即ち郵便電信局の前にあり

以上は悉く全科の病院にして其他眼科梅毒等の專科私立病院兩三所あり而して當市内に於ける避病院は會下山の内其東端、東山と稱するに在り去る明治二十八年虎列拉患者非常に多數なりしたため同所に病室を増築せしのみならず更に又葺合村新居の端に避病院を新築するに至れり此種の増殖こそ實に痛嘆の限りなれ

◎會社製造所及銀行

神戸市は本邦六港の一に位し繁華の都會にして運輸交通の便はさらなり且つ山水秀麗風土の善美なるは世界中多く其比を見ざる所なり然れども其實業上に於ける真相は果

して此繁華に適すべきの盛況を呈しつゝあるや、會社は如何、製造は如何、銀行は如何、將又會社の耳目となり諸種の機關となるべき新聞雜誌の如きは如何なる有様なりやと、以上の問題は苟も實業に注意するものゝ第一に着目すべき諸点にして蓋し又必用の事なるべし故に聊か左に其答辨を與んとす但し質問者の便を計り商、工、農業の各種に分て其所在、名稱、性質の概略を示せば

商業の部 (資本を株式に分割するもの)

日本米穀株式會社 明治廿一年一月の創業にして兵庫宮内町に在り専ら米穀を輸出す
 山陽鐵道株式會社 明治廿一年十一月の創業にして鐵道運搬の事業を爲す柳原町に在り
 神戸棧橋株式會社 全十七年六月創業棧橋を設け乗客の上下貨物の揚卸を營む加納町に在り

神戸屠畜株式會社 全廿三年一月創業、葦合に在り屠畜を業とす
 兵庫船橋株式會社 全二十二年七月創業、兵庫島上町に在り船舶の運輸を營む

神樂株式會社 全二十年一月創業、榮町三丁目にありて生糸の貿易を營業とす
 兵庫倉庫株式會社 全廿五年八月創業、兵庫新川に在り米穀貯藏の爲め倉庫を貸附す
 日本明治移住民株式會社 全廿五年二月創業、相生町にあり海外移住民の事を處す
 兵神汲除株式會社 全二十年八月の創業にして東川崎町に在り尿管應芥の仲買なり
 神戸演劇改良株式會社 全二十五年九月の創業にして完全なる劇場を設け之を貸付す
 相生町相生座是なり
 兩榮株式會社 全廿四年九月創業、専ら精米を輸出す兵庫宮前町に在り
 石油倉庫株式會社 全二十三年九月創業、石油貯藏の爲め倉庫を貸附す和田岬にあり
 兵庫共濟株式會社 全廿三年五月創業、遊覽所なり和田岬に在る和樂園是なり
 神戸送迎株式會社 全廿二年十二月創業、荷客運輸の便を爲す海岸通に在り
 盛航株式會社 全二十年七月創業、荷客運輸を業とす兵庫東出町に在り
 日本郵船株式會社 全十八年創業、(以前共同運輸會社なりしを三菱會社と同盟一致し

◎會社製造所及銀行

本會社を設く本社は東京に在り當市にあるものは其支店なり) 多數の船舶を有し専ら回漕航海の業を務む海岸通六丁目に在り
大阪商船株式會社神戸支店 當市に二ヶ所あり一は海岸通三丁目一は兵庫島上町に設置す共に明治十九年八月の創置にかゝり多く船舶を有して回漕業を爲すこと郵船會社と等し

關西貿易株式會社神戸支店 全廿三年五月創業、貿易事業なり加納町に在り

大阪保險株式會社神戸支店 全廿六年十月の創業、保險業を營む兵庫宮内町に在り

保險會社は當時其類多く生命保險、火災保險其他當市に代辨店、出張店或は支店の類所々にあり茲に一々之を記せず

扱會社にして其資本を株式に分割せざるものは

三井物産合名株式會社神戸出張店 明治廿一年四月創業、米穀石炭及雜貨を賣買す海岸通三丁目にあり

内國通運株式會社神戸出張店 全廿六年四月創業、運輸業なり榮町三丁目に在り

酒類共商會社 全十八年五月創業、清酒の販賣なり榮町三丁目に在り

大倉組神戸出張店 全廿六年十一月創業、貿易及請合商なり海岸通四丁目に在り

濠鏡合資會社 全廿六年七月の創業にて屑物賣買を爲す葦合村にあり

共同運漕合資會社 全廿六年七月創業、貨物の運漕業を爲す海岸通三丁目にあり

日本華進輸出合資會社 全廿六年十月創業、華進の輸出を爲す海岸通三丁目にあり

工業の部 附製造種類

日本精米株式會社 明治廿二年創業、兵庫今出在家町にあり精米業なり

熟皮株式會社 全廿五年十月創業、葦合村にあり盛に製革を爲す

神戸電燈株式會社 全廿一年九月創業、榮町六丁目に在り市内大小一万餘箇の電氣燈

は即ち此所より發電す其他電燈に關する機械を製造販賣す

明治工業株式會社 全廿一年十月創業佐比江町に在り土木建築の業を爲す

◎會社製造所及銀行

◎會社製造所及銀行

川崎造船所 東川崎町に一大區劃をなし其中數個の煙突晝夜絶へず濃煙を噴き、金工木工の響き喧しく船渠には巨船横はりて造船、修理或は船舶用諸器械を製造する所なり當時軍艦も亦屢々當所に於て修繕せらるゝを見る而て其船渠は殊に便よく容易に數千噸の船艦を入るゝに堪ふと、全十九年五月の創業なり

神戸五州社 全十七年四月創業、活版印刷及新聞紙を發行す榮町六丁目にあり

大阪露油合資會社神戸支店 全廿八年二月創業、専ら石油容器を製造し兼て石油を賣買す榮町三丁目にあり

合資會社兵庫石油商會 全廿六年四月創業、前段露油會社と其業等し兵庫出在家町に在り

鐘ヶ淵紡績會社兵庫支工場 東京鐘ヶ淵紡績會社の支工場にして林田村吉田新田に在り明治二十九年四月より試運転を爲す目下(全年十月)其東隣に上海紡績會社工場の新築工事中なり何れも綿絲紡績の事を營業す

以上は専ら會社組織製造の首なるものゝみを掲げり此外當港より直接輸出する製造の最も盛大なるものは

燐寸 なり燐寸の製造は市内製造業中最も盛なるものにして年々輸出の價格參百

八拾万圓以上に達す蓋し本邦中に冠たる所なるべし即ち其製造者の重なるものは

第二明治株式會社 漆町に在り廿五年二月に

開榮株式會社 大開通六丁目に在り廿六年三月に創業す

第一及第二清燈社 共に淡町に在り十四年五月に創業す

鳴行社 東川崎町に在り十九年七月に

明治社 漆町に在り十二年四月に創業す

中西社 南逆瀬川町に在り十九年一月に

阪本善七 橋通に在り二十年一月に

瀧川辨三 中道通一丁目に在り廿五年八月に

◎會社製造所及銀行

◎會社製造所及銀行

獎擲社 荒田町に在り二十年一月に創業す
大路銀 下山路通六丁目に在り廿年二月に
東華館 加納町にあり廿二年十二月創業す

此外小なる製造所を示せば尙は數ヶ所あるべし、扱燐寸の他製造業の稍見るべきもの

瀬鴻莊左衛門(下山路通二丁目) 大橋正太郎(三宮町) 松本善七(元町六丁目) 等の
輸出屏風製造或は鳴行社(東川崎町)の石鹼製造、有田喜一郎(東川崎町) 諸機械製
造等あり

又三宮町にある製紙會社の製紙の如き加納町にある製茶會社の製茶の類は殊に盛な
る
農業の部

商工業の會社は都會の都會たるに適すべき盛況を極め猶ほ日に月に益々開設の隆運を

呈しつゝありと雖も之に反して農業的會社は實に寥々たり重なるものは僅に
赤心社 明治十三年八月創業、下山路通五丁目に在り農業開拓を務むるものと
神戸屠畜會社 全廿三年一月創業、葦合村にあり屠畜を業とするものゝ外見るべき
者なし

是迄専ら市内に於ける著名の會社或は製造の種類を列擧したり然ども當市が長足の
進歩を爲すに從ひ會社の組織、製造の種類等は愈々其繁を加へ日に月に進みて底止
する所を知らず此稿を起さんとせしは去年(明治二十八年)八月の頃にてありきと
れより本年八月に至る凡そ一ヶ年の間開設せられたる會社の類二十有餘の多きに及
び故に以上は唯其在來のものに加へて著名なる幾部を示したるにあり左に記すべき
銀行の類も亦た同し看官推してよ

諸銀行の部

第六十五國立銀行 兵庫戶場町にあり明治十二年一月開業 又明治二十六年其支店を

◎會社製造所及銀行

◎ 會社製造所及銀行

多開通四丁目に設く

第一國立銀行支店 榮町四丁目にあり全九年九月開業
 第五十八國立銀行支店 海岸通二丁目にあり全十三年九月開業
 第三十八國立銀行支店 榮町三丁目にあり全十二年八月開業
 第七十三國立銀行支店 兵庫江川町にあり全十一年十二月開業
 第三百三國立銀行 全北仲町にあり全廿六年一月開業
 正 銀行支店 榮町三丁目にあり全十三年七月開業
 神戸銀行 榮町三丁目にあり明治二十年四月開業
 兵庫貯蓄會社 本店は兵庫湊町にあり支店は元町六丁目にあり全二十五年十一月開業
 兵庫融通會社 兵庫西出町にあり全二十二年七月開業
 湊東協和銀行 相生町二丁目にあり全二十八年一月開業

以上の外に合資會社の加島銀行支店(榮町五丁目) 合名會社の三井銀行支店(榮町三丁目) 及岸本銀行支店(元町六丁目)等は皆大なるものにして其他金融及貯蓄銀行に於ける種類甚た少からず

◎ 神社佛閣

是までは専ら神戸市の沿革よりそが地理を記し諸官衙、公會堂、諸種の會社、製造所又は學校幼稚園等の事までを述べたればいざ是よりは神に賽し佛に詣でそれより名所、古蹟、勝風を歴覽し序に旅店、飲食店、休憩所、公園、遊嬉所などをも案内すべし

湊川神社 俗に楠公社と云ふ神戸停車場より北の方僅に三丁許、我市繁華の中心

なる多開通二丁目にあり、南朝の忠臣贈正一位(明治十三年天皇御巡幸の時正一位を贈り玉ふ)右近衛中將橋朝臣楠正成卿を奉祀する別格官幣社なり社地廣く殿宇壯嚴、社殿の周囲には樹草紅絲を圍はし、幾株の松は千代にかはらぬ菊水の芳しき香り

◎ 神社佛閣

を添へ人をしてそゝるに楠公が義節忠魂の績を追慕せしむ社前の左に石柵を繞らし内に「忠魂紀念之碑」と書したる一碑は故有栖川大將の宮熾仁親王殿下の御筆にて明治十五年之を建つ、東南隅松林の中、龜脊の上に建られたる石碑、是ぞ世人の普く知れる、水戸黄門光國卿元録四年の造立にかゝる墓碑なり前面には光國卿の筆「嗚呼忠臣楠子之墓」の八字を刻し裏面には明遺臣朱舜水の撰びし碑文

忠孝著三干天下、日月靡二乎天、天地無二日月、一則晦蒙否塞、人心廢三忠孝、一則亂賊相尋、乾坤反覆、余聞楠公諱正成者、忠勇節烈、國士無雙、莫三其行事、不可三概見、一夫低公之用兵、審三強弱之勢於幾先、一決三成敗之機於呼吸、三知人善任、體三死推三誠、是以謀無不中、而戰無不克、誓三心天地、一金石不三渝、不三爲三利回、一不三爲三害哉、一故能與復王室、還三還舊都、諺曰前川拒三狼、後川進三虎、廟諱不三滅、元兇接三踵、掃三殺國儲、一傾三移鍾簾、一功垂三成而震三主、策雖三善、而弗三庸、自古未三有元帥始前、庸臣專三斷、而大將能立三功於外、一者卒之以身許三國之死靡三佞、觀下其臨三終訓三子、從容就三義話三孤寄三命、言不上及三私、自三非三精忠貫三日月、能如三是整而暇乎、父子兄弟、世爲三忠貞、一節孝三於一門、一盛矣哉、至今王公大人、以及三里巷之士、一交三口而誦三說之、一不三哀、其必有三大過三入者、三惜哉、載三筆者、無三所三考三信、不三能三發三揚三其盛美大德一耳

右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將楠公諱 明徵士舜水朱之瑜字魯瑛之所撰、勳代三碑文二以垂三不朽を刻す塔の下には石柵の内圓鏡一面を藏め「楠正成靈源光國造立」の文ありと云ふ此石碑維新以前は麥麻の間にあり街道より數町殆んど路の尋ねべきものなかりしは所

謂茶山が月暗楠公墓畔村と云ひ山陽が茫々春蕪長大麥と賦せしにても知らるべし明治中興の業成り茲に宏壯の社殿を營み之を祭祀するに至りしより雜閣無比の所となりて今日の景況を來せり

貴賤老若男女の別なく參詣するもの絡繹絶へず殊に廣き境内には飲食店、遊技場、寄席等軒を聯ね、夜は數百の露肆美しく店を飾り、數十基の電燈猶は晝を欺きて夜中賑は四季にかはらず肩摩雜踏或は商人の客を呼ぶ聲は寄席の弦歌と共に喧しく、射的の響、玉突の音、さては丁々圍碁の石さへ乱りがはしく、夏は氷店に涼を納れ、冬はせんざい屋に寒を凌がんとす雅となく俗となく内外人の打混じたる晝夜の光景、旅客の初て詰れるもの轉た其熱鬧に驚かざるものあらざるなり當神社は淺川以東宇治川まで十數個町の産土神にして大祭日七月十二日なり奉幣使參拜舉行あり又た五月二十五日は楠公戰死の日なれば例年賑かなる祭典を行ひ神興の渡御ありて甚た盛なり

明治二十七八年の役征清の兵士出陣の路次神戸を通過するものある毎に之を當社内に導きて勞を慰し歓迎甚だ盡せるにより楠公の神靈定めて欣悦し玉ひしなるべし而して此役速戰速勝以て國威を發揚し非常の偉勳を奏するに至る公が在天の靈暗に將士の心を獎勵し加護ましくけるこそ最と畏けれ正門前に當時凱旋の將士を迎ふる爲めに建立したる凱旋門ありしが本年八月の洪水に之を撤去す又陸海軍の將卒或は其筋より該役に於ける分捕品を献納し當社拜殿などに供へたる銃器彈丸の如きを見れば日清戰爭の如何に猛烈なりしかを想察せらるべし

生田神社

下山手通一丁目にある官幣中社なり(明治二十九年十一月昇格)天照太神の皇妹稚日女尊を奉祀し神慮あらたし神戸部其他に氏神多し四月十五日奉幣使參向大祭を行はせ給ふまた舊曆八月二十日祭典を行ひ神輿兵庫御旅所へ渡御ありて非常の賑なり
抑も津の國生田の名は古來高く聞へ極めて古くは此神社生田川の水上砂山にありて

このあたりを總て生田長狹國と稱しけるとかや壽永元曆の頃は源平の戰場となり一ノ谷の城郭の東門として源氏の五万騎ここに押寄せ梶原が二度懸或は源太か花籠の梅の香は今猶は芳ばしく、延元の乱足利尊氏新田義貞と生田森を後にして闘ひし事太平記に見へたり殊に此地昔しは南の方磯部の鳥井まで馬場八丁許梅櫻左右より殊に瀬海の風色麗かに武庫の海を隔て遠く紀泉の山に對し春秋の眺め絶佳なるを以て攝津一州の勝地とぞ知られける、されど今は亦昔しの様を止めず僅かに老杉雜木生茂り古き森の一部を残す内に壯麗の社殿殿かに建てられける是を即ち生田神社なり鳥井を出つれば鐵道横はり家居連り海に瀕するの所は外國人の居留地と化して數層の高樓軒を聯ね雅俗反轉今昔の感に堪へざるものあり
神社の境内は千數百坪の間幽邃の區となりて古蹟多く神功皇后釣竿の竹、梶原の井、籠の梅、致盛萩などあり神寶を拜覽せば源平時代の月創鐵冑書畫の類を藏め轉た懷舊の情を起すもの少からず

生田の浦、生田の海、生田の川、生田の杜、生田の里を古詠多し亦以て其著名なる所たるを知るべし

夫木集賀茂重保の歌に「ひとかたにかもひなひけはいかてかは生田の浦に身をもなくへさ」とあり又た玉葉集に辨乳母「をくれては生田の海のかひもなし沈むみくつとともになりなん」とあり又た

六帖に忠峯「津の國の生田の川の幾たひか君を戀しと我おもふらん」とあり又た續古今に順徳院「秋風に又こことはめ津の國の生田のもりの春の明はの」此歌今前の鳥居

のほとり道しるべの石の裏に彫あり夫木集に俊成「いなはふく風もことにそ身に寒さ生田の里の秋の夕暮」とあり其他此類いと多し

又此森の何れにか僧都清胤の古蹟あること諸書にあれどさだかならず

長田神社 市の西端長田村の中央にある官幣小社にして事代主命を祭る古來朝廷武將の御尊敬甚た厚く靈驗燦手にましまし參詣するもの多し昔し神功皇后三韓よ

り凱旋し給ふとき此前に至り御艦進まず鷄を獻して安けく艦の進みければ是より此社へ鷄を獻じて祈願をこむるもの多く今猶は境内に獻鷄少からず又た神功皇后三韓より携へ歸り玉ひし不滅貝を御寄附あらせられ村上天皇は御祈禱の靈驗によりて石燈籠及び小野道風の筆なる御神號の勅額を御寄附あらせらる其ほか源頼朝、足利尊氏豊臣太閤等の諸將尊崇甚た厚く種々の奉納ありしと云ふ

境内老松雜木生茂り後に神撫山を負ひ土地幽邃なり須磨を経て播州に至る街道の北に沿ひたる所なれば鐵道の便をからず神戸より須磨以西に至らん旅客は必ず養すべし

さなきだに毎月一日殊に一月元旦には福利を祈らんとて參詣する老若男女最と繁し

和田神社 和田岬の少し手前に老松海波に映じつゝ一群の森あるを見る即ち和田神社と云へる縣社のある所なり祭神は天御中主尊、應保年間平相國清盛公を合祀す一説に國常立尊なり万治二年五月二十三日武庫郡押照宮洪水に由て此浦に流來て此影向松に止り玉ふ故にこゝに祭ると、海上を鎮め玉ふ神なり渡海の船陰晴風波の御

圃を取るに必ず其驗ありと云ふ

境内の周囲満潮の時は海水進入して遠近の景色甚だ宜しく社殿亦壯麗に頗る古風を存す兵庫南部の生土神なり毎年陰曆五月二十三日祭典を行なひ神輿和田岬へ渡御ありて賑なり

七宮神社

兵庫宮内町に鎮坐あり大己貴命を奉祀す生田齋神の一今は縣社にして兵庫北濱の氏神なり、扱茲に附記すべきことあり先きに述べたる生田神社の齋神八社ありて市内に散在す即ち一宮は山本通一丁目、二宮は葦合に、三宮は三宮町に四宮は下山手通五丁目に、五宮は奥平野村に、七宮は宮内町に、六宮及八宮は楠町にありされど三宮、四宮、七宮を除くの外は小き祠、數株の松影に跡を止むるに過ぎず唯た古蹟保存の有志家又は崇神の徒折々社殿の修繕を加へ之を煙滅に歸せしめざることをゆかしけれ

三宮神社

は湍津姫神を祭り三宮町にありて境内に演劇場寄席等あり夜は露肆

多く列りて晝夜賑なり

日向神社

は天照太神、豐受大神、伊佐比古命、鵜羽不尊合命、市杵島比賣命の五坐を祭り境内に寄席あり詣者亦多し兵庫西出町にあり

四宮神社

は市杵姫命を祭り下山手通五丁目にありて老松鬱鬱幽邃の地たり

諏訪神社

其外市内に散在せる村社又は無格社甚だ多く今左に其著るきものを擧ぐれば

諏訪山稻荷と云ふ是なり

熊野神社

伊弉諾命、伊弉册命を祭る中山手通七丁目にあり

走水神社

應神天皇を祭る元町五丁目

八幡神社

全しく湊町にあり

猿田彦命

猿田彦命を祭る佐比江町にあり

大國神社

大國主命を祭る全松尾町

稻荷神社

あり

宇賀魂命を祭る全川崎町、西出町、東出町、東柳原町等の各所に

戎神社

蛭子命を祭る東出町、東川崎町、西柳原町等の各所にあり

山王神社

大山咋命を祭る門口町にあり

嚴島神社

市杵嶋比賣命を祭る、永澤町及神戸海岸通六丁目の各所にあり

愛宕神社

火産靈神を祭る三川口町にあり

神明神社

天照皇太神、豊受太神を祭る神明町にあり

八幡神社

應神天皇を祭る葺合村の内東新白と脇の濱の各所にあり

大山咋尊神社

大山咋尊を祭る石井村にあり

祇園神社

素盞雄命を祭る奥平野村にあり一に午頭天王と云ふ故に此近傍を天

王谷と稱し有馬街道にして湊山

の一部なり第六回關西府縣聯合共進會場の正北敷町

の所にあり社地高く老松鬱蒼として緑翠滴るか如し此所に上れば兵神の市街一眸に集

り汪洋たる海波船舶の來往を隔て對山浮べるに似たり其光景愛すべし

熊野神社

伊弉諾命、伊弉册命を祭る

氷室神社

仁徳天皇を祭る

八幡神社

應神天皇を祭る此三社共に夢野村にあり

三石神社

神功皇后、應神天皇を祭る今和田新田にあり

以上は皆村社にして此外無格社にて稍々著名なるものは北野町の天満神社、山手通二

丁目の青瀧神社、兵庫南仲町の諏訪神社、葺合村脇の濱の高田神社等なり

是迄は専ら我市大小の神々に參詣しければいざ是より寺院に詣で佛陀の工力を仰ぎ

冥助を祈り次々に名所勝地を尋ねべし偕て當地の沿革は前既に書き載せし如く湊川

以西兵庫の地方は古來より著名の所なれば巨剝も亦多し故にまづ其方より案内せん

眞光寺

時宗西月山と號す南逆瀬川町にあり彌陀、觀音、勢至の三尊佛を安置す

抑も此寺の由緒を尋ぬるに仁明天皇の御宇、沙門惠尊入唐し宋主に謁し大悲の尊像を

授かり既に歸帆の時風波穩かにして日幾許ならず常津和田崎に到るこゝに於て櫓櫃をめぐらせども乗船搖かず惠慈思惟してこれ則ち大悲有縁の靈地なりとて遂に當院を創建し尊像を安置し以て開祖となる其後建治年間知真一遍上人中興の祖と成り元祿の頃又四十四世遊行上人尊通も來て寂すと云ふ境内廣く清爽幽致を極む門前の池畔に一露佛を安置せり實に市内第一の巨刹にして信者甚た多く種々什寶を藏す

能福寺 昔しより奈良、京都、鎌倉の大佛は世人の耳目にする所なりしが今や兵庫能福寺の大佛とて世の中に大佛の數一つを増せり是は明治二十五年兵庫の蒙商南條某等信者の發企にかゝり鑄造したる青銅佛にて長け四丈許の座像なり、抑も此寺は寶積山と號する天台宗にして本尊は傳教大師の作になりし藥師如來あり桓武天皇延暦廿四年傳教大師唐より歸り當山を開く中興の祖は長盛和尚とかや大佛の体内に諸種の寶物を納め參者の縦覽を許す夜は寺内に露店を張り詣者多く晝夜賑へり兵庫北逆瀬川町にあり旅客一たびは詣てよ

藥仙寺

醫王山藥仙寺は南逆瀬川町にあり本尊は聖德太子の御作阿彌陀如來にして天平年中行基菩薩の開基なり堂背に一字あり聖武帝御惱平癒の爲めに彫刻せしめ玉ひし觀音像を安置す、觀音堂の傍ら靈泉あり弘法大師の穿堀するものなりと云ふ水質清良建武の年後醍醐天皇隱岐の國より還幸の時聊か恙あらせられ、此水を以て服藥を上り直に御平癒せしませしかば藥仙寺の號を給ひけるとなん、庫裏の園庭杜鵑花數株を植ふ郭公のかどづるゝ頃寺僧に請ふて其美花を賞するもの、多し故にさつき寺の俗稱あり

來迎寺

世に築島寺と云ふ、築島は又經島とも云ふ俗に新川中の嶋と稱する土地なり此地は元一面海にして波濤高く泊舟の便なかりしを應保年中清盛海を埋めて港を築き初めて其便を得るに至りたる所なり、今其土工及當山の來歴を聞くに應保元年二月阿波民部小輔重能を奉行として五万人を課役し盤打山を崩し三十余町の海面を築く工事將さに竣らんとするに及び漂没すること二回時に陰陽博士阿部泰氏に命じて鑑考

せしむ泰氏トして曰く是は此海底に住める龍神の陸地となるを惜むか爲なり今三十人の人柱を建て其上大小の石に一切經を書き寫し之を海底に藏めば速に成就すべしと陳す、之に於て新たに生田の森に關所を構へ往還の旅人を檢にす近傍の民之を歎き訴ふる所あり兵庫の者のみは此難を免れしとぞ 諺に「兵庫の者なり御免あれ」とは此由縁より出てしと扱三ヶ月を経て三十人を得、人柱に沈めることと定まりければ家族親族集ひ來りて悲み嘆くこと甚し清盛も亦不惑に思はん數月を遷りける時に讃州香川の城主大井民部の嫡男松王年甫めて十七、清盛に嘆願して曰く我一人を沈めて三十人を赦し玉へ龍神も我心願に感應すべしと再三望みて止まざりければ清盛大に歎稱して其請を允し松王を石棺に納れ海底に沈め經石を以て築きたりしかば龍神果して感應し其工成就す而して其沈めし所に一字を建立す今島上町の築島寺是なり、經嶋山來迎寺は其本號なり淨土宗にて本尊は惠心僧都の作、阿彌陀如來又松王追善の爲め清盛自ら其像を作り安置す昔時は七堂伽藍の巨刹なりしが建武年間湊川の戦に兵燹に罹り堂閣灰燼に歸す其後漸く今の如く修築し僅に舊態の一斑を存せり境内に祇王、祇女の墓或は平家名門の碑なきありて參詣する善男善女少からず

近年眞福寺を此寺に合併せり抑も眞福寺は小松重盛内府の建立にかゝり祇王祇女住みて平家一門の菩提を申ひ昔しは七堂伽藍の大寺なりしが次第に頽廢して此に至れり其蹟は南逆瀬川町にあり

福海寺 臨濟宗にて大光山と號す西柳原町にあり本尊は運慶作釋迦如來なり康永年間足利尊氏の草創、在慈圓有和尚の開基ときこゆ、延文の秋尊氏鎮西を征し此地に宿營の時來て「福海興國禪寺」と自書せし額を捧く三代義滿も亦殊く當山を尊信し自書の額を捧けしと云ふ後嘉吉年間火あり、燒失し後漸く今の如く修築せり信徒多し其他門口町に臨濟宗福嚴寺、江川町に極樂寺と云へる淨土宗惠林寺と云へる臨濟宗大聖院と云へる曹洞宗、藤の寺と云へる淨土宗あり、西宮内町に濟麟寺、法界寺、長傳寺と云へる各淨土宗なり其外眞宗には西幸寺、曹洞宗には、三寶院あり切戸町に柳泉寺

寺（眞宗）あり、神明町に法蓮寺（法華宗）あり時宗長樂寺、淨土宗淨葉寺共に南
 逆瀬川町にあり、永澤町に臨濟宗放光庵、天台宗理教院等ありて古きは數百千年の草
 創にかゝるもの少からず又湊町にある妙法華院の如きは日蓮宗正中山の別院にして
 近く明治十七年の創立なり
 併て是より湊川を東に渡り

廣嚴寶勝禪寺

俗に楠寺と云ふ醫王山と號し楠町七丁目關西聯合共進會場の
 東に隣り間に安養寺山の小丘を控ふ境内幽清の一區たり楠正成公の自刃せしは此
 寺の客殿如意庵なりと傳ふ後ち楠公の菩提所となる臨濟宗本尊は行基僧正の作にて
 後醍醐帝の御寄附に係る藥師如來及び弘法大師の作にて正成卿守り本尊なりし毘沙門
 天を安置せり、當寺開基は元亨元年大元國より來朝せし俊明極と云ふ智德兼備の禪師
 なり其頃都在て參内せし時主上（後醍醐天皇）紫宸殿に於て御相看ありしこと大平
 記に見へたり當寺の什寶に楠公研造立の時常山和尚に賜ふ黃門光國卿の御筆、正成公

所持の軍配團扇、采幣申、及同公眞筆の書翰等あり

安養寺

大悲山と號す楠寺の東に隣り初めは尼ヶ崎にあり其領主青山大膳亮
 法諱道三の菩提所なり後此所は遷りて最と大寺なりしが漸次衰へ堂宇頽廢に歸し近時
 再び改築を加へしかど昔しの様となさず本尊は阿彌陀如來にして天曆年間惠心僧都の
 創草なりと云ふ

善福寺

本壽寺共に下山手通七丁目にあり一は眞宗にて源信僧都の作阿彌陀如來
 を本尊とし天正年間武田信虎の創立に係り一は日蓮宗にて近く明治十二年の創建なり
 その他福原町に、招慶院と稱する日蓮宗ありて後醍醐天皇の靈牌を安置し境内に妙見
 堂あり嘉慶元年足利將軍義隆の創立なりとぞ
 眞宗善照寺は元町三丁目に淨土宗極樂寺は全五丁目にあり
 又上橋通光藏坊と云へる天台宗、荒田町に寶地院と云へる淨土宗あり東の方加納町
 に聖徳院と稱する眞言宗あり城ヶ口にある本願寺の説教所は近年の建設なり

是より市中稍邊在せる巨刹を案内す

大龍寺

再度山大龍寺は神戸の北位に方り山麓まで十八町許即ち再度山の頂上にあり真言宗本尊は僧正行基の作如意輪觀音を安置す抑も當山は初め摩尼山と號し又多々部山と云ふ眺望絶佳の所たり此寺の由致を聞傳ふに神護景雲三年和氣清磨老僧を夢見て寶珠懷に入ると思ひ如意輪觀音の靈像を得たり其像は即ち僧正行基一鑄三禮にして作る所なり精舎をここに建てて尊容を安し摩尼山と呼ふ是なり延暦甲申の年弘法大師入唐の時初て登山し本尊は求法を願ひ其後大同年中意願満足して歸朝ありて再び登山ありし故に再度山の號あり大師錫をここに駐めて密法を修し淨水を求めんと欲するに甘泉忽然として涌出す今の加持水是なり後寇火に遇て諸堂灰燼となる觀應二年赤松範公勲たに梵宇を構へ比丘善妙を延て中祖とす永和乙卯の春後園融帝御不例あり善妙に詔命ありて祓を行はせ玉ふ七日にして平愈し給ひ大に御欣悦せられ震輪及寶器數種を賜ふ善妙逝後戰國となり淨刹再び荒蕪となりしが賢正上人又た今の如

堂舎を創す舊曆三月二十一日四方の道俗隨喜瞻禮して群集すること多し

祥福寺

奥平野にあり著名の江湖禪宗の道場と稱す境内高燥清潔にして眺望極めて佳なり櫻樹數株あり花時の艶麗賞すべく杖を曳くもの趣からず

願成寺

鳥原村にあり法然上人の御弟子住蓮坊ここに閑居し平通盛卿夫婦の菩提を吊はれし所なり

地藏院

奥平野にあり少なき寺院なれど有名なる櫻樹あり又土地の幽邃なるを以て春の花見夏の納涼に行く客多し

其外東の方茸合村に至れば下砂川に西方寺、新白に遙船寺、脇の濱に徳清寺、中尾に泉隆寺、生田に大仙寺等の真宗あり同村瀧寺に瀧勝寺と云へる真言宗あり市内に散在せる寺院の數は大小凡そ六十八個山の多きあれど以上は唯た其有名なるもののみを案内せしにあり

附曰下山手通七丁目に支那人の崇拜せる漢羽の廟あり宮と稱すべきか寺と云ふへ

か之を知らざれども俗に南京寺と名く其他少なき漢羽の廟所市内所々にあり清國人が漢羽を敬拜することは實に驚くべく彼らが家毎には必ず之を祀る俗も我國の戸毎に神棚の備へなきはあらざるが如し

以上本邦在來の神佛を參詣し終りたれば是よりは當地の開港と共に渡來せし耶蘇の會堂も少しく案内し旅客の爲に聊か其來歴の一斑をも書き加へり看官ゆるしてよ

耶蘇教會堂 内外人の設置にかゝる教會堂は市内都て二十個所ありされど其重なるものは下山手通六丁目の神戸教會、多聞通二丁目多聞教會其他諏訪山の麓にあるもの居留地にあるもの兵庫にあるもの等なるべし又日曜日夕市内を散步すれば耶蘇講義所など記せる提灯をつるし信者憐れ鮮なる聲もて讚美歌を唱するを聞く所少からず、市内信者の數は新舊其他の流派を併せ凡そ五六千人ありとかや

抑も耶蘇教の我國に渡來せしは古く數百年以前にあり婆轉連宗と唱へて織田信長の時京都に南蠻寺と云へる今の教會堂の如きものさへ建てられけるが、豊臣氏、徳川氏に

至ては切支丹の邪宗とて之を禁じ彼の天草兵乱後は一層忌み遠ざけ、禁制嚴重萬一信仰するものある時は直に重罪に處せり民いかに恐避せざらんや、然るに交通條約と共に自然に此禁も解かれ該宣教師は逸早く來朝して都會の地は到る處に教會所を設け布教に盡力す又信者中の厚信者有力者を撰擇し牧師の稱號を興へて補助せしむ、一般信者の信仰は甚だ深きもの如くなかく熱心なり真心の如何はいざしらず外觀に由て其一斑を窺ふべし、一たび洗禮を受けて信者の籍に登れば酒好きも酒を禁じ喫煙家も煙草を用ゐず食する毎に先づ天に奏すらく「天に在ます我等の父上願くは爾名を尊崇させ給へ爾國を臨らせ給へ爾旨の天に成るごとく地にも成せ給へ、我等の日用の糧を今日も與へたまへ我儕に罪を犯す者を我ゆるす如く我儕の罪をも免したまへ、我等を試探に遇せず惡より拔出し給へ國と權と榮は爾の究なく有らたまふ所なりアーメン」と又日曜日は安息日として業を休み會堂に集ひ聖書を講し演説を爲し讚美歌を合唱して祈りを奏し自己は素より兄弟姉妹(天帝クリストを父とし世界上の人類は悉く

我兄弟姉妹なりと(の)罪業を天帝に謝し又未來の冥加を、請ふ毎年十二月廿五日は教主基督降誕の命日とかやにて「クリスマス」と稱し堂の内外を美麗に裝飾し信者一同集會して、祈禱、演説、唱歌など最も盛に殊に童子の爲に面白き趣向を興へて樂ましむ耶穌教盛なる、西洋諸國にては此日人皆業を休み衣服を改め快々遊嬉をなす狀、恰も我國の一月元旦と同一なる有様なりと

當市は土地柄にもかゝはらず基督信者は割合に少し畢竟我國體と習慣の然らしむる所ならんか

舊蹟名勝地 (市附近のものも併記す)

前にも略ぼ記し置きたる如く舊蹟名勝の地にして既に神社佛閣などと共に記述したるものは重て爰に之を記すの要なければ省略しぬ、然れども殊更神佛に關係ありて前に脱せし類は都て此項へ説き示したり歴覽の人々此意を諒してよ

福原舊都 生田宮村、北野、神戸、二ツ茶屋、走水、平野、中宮、宇治野、花熊、

荒田、石井、夢野、鳥原、坂本、今和田新田、兵庫等を都て福原の庄と云ふ

夫木集雅有の歌に「湊川夕沙みちて風寒み古き都に千鳥鳴くなり」とあり

(現今の神戸市中其葺合部を除の外畧ぼ昔しの福原の莊と地域を等ふせり)

平家物語に曰く應保三年築島成就してより平清盛入道淨海の沙汰として攝津國矢田部郡福原の莊に都を經營し既に事成て治承四年六月二日人皇八十一代安徳天皇一院上皇を始め奉り攝政關白以下月卿雲客及び平家名門の人々其外百官悉く山城國平安城より此所に遷り給ふ池大納言頼盛の山莊假皇居と成る(荒田町に古跡あり)而して新都造營の地割を行なわせ玉ひ和田の松原、西の野を轉じ九條の地に割きたもふ然に一條より五條まで有りて其下の地なし公卿區々評議ありしかども百數の政事行はれず依て又變改ありて同じ年の十一月廿一日舊都に還幸なし奉る太政入道は此地に暫く住み玉ふ云々、又源平盛衰記には福原都地形の事を記して曰く北は神明垂跡生田、廣田西の宮各聖の並べたり盡せぬ御代のしるしとて雀の松原、御影の森千代にかわらぬ

緑なり、雲井に晒す布引の瀧の白糸岩間につらぬ、後を顧れば翠嶺の雲を挿ひ曉の嵐
 漢々たるを吐き前を望めば蒼海の天をひたせり、夕陽の沈々たるを呑める湖水漫々と
 して遠帆雲の浪に漕ぎまぎれ巨海茫茫として眺望煙波に眼を遮り月の名を得たる須磨
 、明石、淡路島山面白く、螢火燃ゆるあし屋の里の夏の暮いづれもどりぐに心すみ
 たる所なり云々

清盛常に此地を愛し遂に都を遷し、島を築き港を開き海陸漕運の便を劃り心大になす
 あらんとせしが世体容易ならざるに及び永遠に其基を確定し能はざりしは遺憾なり
 湊川源を北方諸山の間に發し石井村に至て相會し初て此名あり市の中央を横流す
 常時は水全く無く細砂の奇麗なるを見るのみされ昔しは此川會下山の麓を西へ兵庫
 北の出口門より一丁餘の街道に添ひ和田濱より海に注きたるものにて千載集に「湊川
 夜舟漕出る追風に鹿の聲さへ瀬戸渡るなり」又新拾遺集に「湊川うは波はやくかつこ
 るてしはまで濁る五月雨の頃」などの歌意より見れば船漕出ること易すかりしにや

清盛相國島を築き和田崎を修理してより洪水の難を避けん爲め今の如く改め換へ東川
 崎の濱へ注きけり爰に近時改修工事の會社を起し再び昔時の如く會下山の許より兵庫
 の西端を貫き、和田の西方に注かしむるの計劃中なり數年の後は今の新橋以下は湊東
 、湊西兩部を通して一大市街を呈し新橋以上數丁の間は之を埋立て一大公園を現出
 すべしさて又今も大雨の時は水漲り滾々として波を上げ海まで濁る五月雨の頃の觀
 り本年八月(明治二十九年)の大雨に堤防決潰のことどもは既に前に述べをきたり
 延元々々年五月足利尊氏大舉して入犯す海陸皆兵なり楠正成詔を奉し櫻井驛に於て
 子正行に遺訓して河内に歸らしめ進んで此所に陣し烈戰數度其驍騎す所僅に七十余騎
 身十余創を蒙り終に廣嚴寺の客殿如意庵に弟正季等と自盡す(世間唱ふる所は傍らの
 民舎と果して如何にや)湊川神社或は楠寺の項を參看すべし
 今は兩堤の老松鬱蒼として幽邃を極め堤上亦廣潤、新橋、湊橋、金尾維橋、土橋の
 間公園地となりて四民杖を曳くもの甚だ多く空氣清朗眺望佳勝實に市内第一の遊園場

たり

差方塚

荒田町耕地の中に差方塚と稱するあり治承年間五條大納言國綱卿福原新都の地形を割り九條の街路を割せんとし此所を本位と定め内裏を管まんとせしが土地狹隘にして漸く五條を爲すに過ぎず即ち平安復都の議起りしなりと、仲町にも差方塚と刻せる方九寸高九尺許の石標あり此事蹟分明ならず

河原兄弟塚

三宮町三宮神社の邊にあり河原兄を太郎高直と云ひ弟を次郎忠家と云ふ(一に盛直とあり)武藏の人にして源範頼の部下に屬し壽永の合戦に生田に於て兄弟諸共刃を連ね平氏の陣に突進し奮戦武功を顯はし遂に共に敵矢に中り名譽の戦死をなす後右大將頼朝公その戦死の場所へ兄弟の菩提寺を建立せられしが天正年中の兵乱に喪びしと云ふ今は其趾人の邸内となれり

布引の瀧

生田の海濱を距る凡そ十八丁許の北方砂山にあり雌雄二瀑其間三丁許上にあるを雄瀧と云ひ下にありを雌瀧と云ふ俱に岩面を流れ落ること白布を曝すに似

たり雄瀧の高さ二十四丈雌瀧の高さ十八丈幅何れも二丈餘地勝景偉衆郡最一の美觀なり飛泉の水源は武庫山より流れ下流は生田川と成る

榮花物語布引瀧卷「其頃との、ぬのびきの瀧御らんしにおはします、道のはといとお

かしう「さまゝの狩装束などいふかたなし業平かいひつゝけたるゆうにそありけん

かし」

伊勢物語云「いさこの山のかみにあると云ふ布引の瀧見にのぼらんといひてのぼりて

見るに其瀧ものよりことなり、長さ二十丈ひろさ五丈ばかりなる石のおもてに、しら

さぬに石をつゝめらんやうになんありける云々

平治物語云「仁安三年七月七日津の國布引瀧見んとて清盛入道淨海をはじめとして平

氏の人々下られけるに難波六郎經房ばかり夢見悪き事有とて(中畧)先年惡源太最期の

言に終には雷と爲て蹴殺さんするどとて白眼し眼常に見へて六ヶ敷にかの人雷とな

りたりと夢に見しぞ只今手鞠はどの物異の方より飛つるは見へたまはぬか、それこそ

義平の靈魂よ一定かへりさまに經房にかふらんと覺ゆ太刀は抜てんものをといひも果ぬに霹靂影しくて經房か首は黒雲覆ふとぞ見へしが微塵になつて死にけり、太刀はぬきたりけるが鏑もとまで反かへりたりしを結縁の爲に寺造りの釘になん寄せられぬ云々

千載集六條右大臣の歌に「水の色のたゞ白雲と見ゆるかな誰さらしけん引の瀧」詞花集隆季卿の歌に「雲井よりつらぬきかくる白玉をたれ布引の瀧といひけん」などの歌其類古來より最多く甚だ著名なる瀑布にて夏日納涼の客陸續絶へず茶店小屋を構へて此便に供す

藤原定家卿の歌に「布引の瀧の白糸夏くればたぬすそ人の山路たつぬる」とあり昔しも今もかはらぬ景色にこそ

砂山は瀑布かゝるを以て一に瀧山と云ふ麓に炭酸水噴出す之を沸かして浴場とし布引温泉と稱す此邊を瀧道と呼び生田神社、東北方より瀑布に至るまでの間旅宿屋、料理

亭、茶店等道の兩側に相列り又山に接しては豪商紳士の別荘散在し中に川崎美術館あり即ち當地の豪商川崎正造氏の美術品を藏する所なり布引瀧の上に古城址あり天正年間松永彈正久秀の據る所なりと

當時我市水道布設の計劃中にして其水源は重に此布引瀧によらんとす數年を待たずして此瀑水の普人の飲料に供せらるゝに至るべし

花隈及山路の城址 花隈町即ち花隈城址なり永祿十年織田信長此城を築りしめ

天正三年荒木村重の男、村正此所に居城し密かに中國毛利家へ通し大阪石山本願寺へ加擔して兵糧を運送す、事顯れ信長大に怒り家臣を遣はして之と戦はしむ利なし其後本願寺の軍將雜賀孫市或は根來の渡邊藤左衛門等此城に居す時に池田信輝、豊を北野に構へ是を攻め天正八年七月城終に陥る、今其牙城の地果して何れなるを詳にせず或は曰ふ今の北長狹通九鬼子爵の邸の上方に當り城櫓盤石の據趾ありと
山路古城址は北野城ケ口中宮にあり赤松滿祐の嫡男信濃判官彦五郎則實の守城たりし

牢御所の舊蹟 清盛横暴畏くも後白川法皇を三間の板屋に幽閉し奉る世に牢御所と稱へ又萱の御所と稱する是なり兵庫南逆瀬川町元大藏省米廩構内に其古跡あり此邊都て清盛別荘の地なりしと云ふ治承四年七月文覺伊豆の配所より忍て此所に至り院宣を請ひ奉り源頼朝に平氏追討を進めたるなりとぞ

八棟寺舊蹟 眞光寺の南にあり平相國清盛の建立にして大平山と號し諸堂魏岷たる巨利なりしが天正の兵亂に焼失し今は其蹟を止めず蓋し左に記す清盛或は經政の墓は八棟寺院内なりしなるへし

平相國清盛の墓 平相國清盛は帝の外戚として位人臣を極め子弟親族日本全國の過半を領し威權比ぶものなく仁安三年十一月剃髮して淨海と號し養和元年閏二月四日西八條の館に於て薨去せらる年六十四、清盛曾て福原の地を絶愛せし由縁により國實法限其遺骨を此所に携へ來て藏ひ、其後百余年を経て弘安九年北條貞時諸國巡按の時

石塔を建立せり即ち兵庫南逆瀬川町眞光寺の南方に高さ二丈六尺十三層の石塔婆あるもの是なり

經政の琵琶塚 清盛卿石塔婆の近傍にあり但馬守經政の墳なり經政は壽永の亂に一の谷に戦死しけるを由縁の者此所に塚を築きしなり經政は平相國の舍弟修理太夫經盛の嫡男にして六官太夫敦盛の兄なり琵琶の妙手なれば塚の名を琵琶塚と呼ぶ此所に青山といふ琵琶を經政と共に埋みしといふ説あれども非なり尙は説々多しと雖も皆取るに足らずと攝津名所圖繪には記せり又平家物語に左の記事あり

經政は幼少より仁和寺御室御所に童形にて仕はれしうばり、る勿劇の中に君の御名殘を思ひ出し五六騎召具して仁和寺殿へ馳せ参り今日既に西海千里の浪路に趣き候へば御暇乞の爲め参上仕其上先年下し預り奉りし青山の琵琶持せ参て候名殘は盡す存すれどもさしも我朝の重寶を田舎の塵に成んこと口惜う候へば参せ置候也もしふしぎに運命啓けて都へ立歸る事も候はゞ其時こそ重て下し預り奉らんと申

しければ御室も哀れに思召て一首の御詠を遊して下されける

あかすして別る、君ら名残をば

後の形見につゝみてそぞく

經政に御祝下されて

吳竹の篋の水はかはれども

猶すみあかぬ宮の内うな

扱て經政御前をまより出られ(中略)大納言の法印行慶(葉室大納言光頼卿の御子)

餘りに名残りを惜み参らせて桂河の端まで打送り暇請ふて歸られけるが法印泣々思

ひ續け玉ふ

哀れなり老木若木も山櫻

をくれ先たち花は残らじ

經政返歌に

旅衣よなく袖をかたしきさて

思へば我は遠く行なん

抑も青山と申御琵琶は經正十七歳の時宇佐の勅使を承て下られける時に賜はり

御殿にて秘曲を彈し玉ひしは供の宮人推し並べて綠衣の袖をぞ絞りける此青山は

昔し仁明帝の御宇嘉祥三年三月掃部頭貞敏渡唐の時唐の琵琶の博士廉姜夫に逢て

三曲を傳て歸朝せしに其時玄象、獅子丸、青山三面の琵琶を相傳して渡りけるが龍

神や惜みけん浪風あらく獅子丸をば海底に沈めぬ、今二面の琵琶を渡して吾朝の御

門の御寶とす云々

和田岬(水族館)兵庫の南に突出する岬なり前は蒼海渺茫として遠く紀泉の浦に向

ひ、淡路島山、雲霞の間に漂ひ其間船舶縦横に航馳し或は煙、緩驪として上下するの

瀛船あり或は白鷺の戯る、に似たる白帆の波間に映するあり北方武庫一帯の翠嶺婉々

相連りて優を競ひ、近く白砂の間緑滴らんとする老松蒼鬱として梢の風の琴の調え

岸洗ふ浪の首に應じ見るもの幽妙を極め山水の眺望風光絶佳の地たり其中一區を劃し和樂園と稱する遊園場を設け園内海水を引て數多の魚族を放養す明治二十八年第四回内國勸業博覽會京都に開かる、や水族分館を此地に置き更に水族館一棟を設け奇異の魚介を放ち水産の動植物天然活動の實態を目撃す、今又た今茲（明治三十年）九月より第二回水産博覽會を當市楠町に開設せらるゝや此所を其屬館とし一層多數の水産物を蒐めんと目下それく準備中なり

園の中央に壯麗なる三階樓ありて遊嬉眺望の便を興ふ其他茶肆割烹亭多く家を構へ或は潮湯を設け、或は潮池を造りて魚族を放ち釣魚の遊を得せしむ實に四季遊覽無二の勝地たり殊に夏天の納涼、海水浴游泳場に適し又仲秋月を賞するに宜し名所圖繪にも『輪田御崎は和田の祠より辰巳の方八町許海面へ續き出る洲崎なり濱松數千株ありて颯々の聲浪の音に清らかなり殊に中秋の月の名所にして海上晴れわたりて萬里も一目に遮りて銀色三千界の景色あり騷人墨客こゝに來て三五夜を賞すべき名勝なり凡と畿

内に於て又た双ぶる所なし』などの記事あり
玉葉集に

『夕附日輪田の御崎を漕舟の片帆にひくひやこの浦風』

脚頭に菱形の砲臺あり舊幕の末年建築せしものにして今は廢用に屬し僅に煙硝貯藏の倉庫に代用するに過ぎず又其傍らに燈臺あり不動赤色海上十二里を照すものなり

遠矢濱 和田岬の一部を云ふ建武年間足利尊氏西國より來れる時官軍本間孫四郎重氏『新田義貞の臣』此海濱より尊氏の兵船へ遠矢を放ち高擧を得たる所なり』太平記に曰く

去程に新田足利相挑で未だ戰ざる所に本間孫四郎重氏黃死毛なる馬の太く逞しき紅下濃の鎧着て唯た一騎和田御崎の波打際に馬打寄せて澳なる船は向て大音聲を擧て申けるは將軍築紫より上落あれば定て頼尾道の傾城共多く召し具され候らん其爲に珍らしき御香一つ推て進らせ候はん暫く御待ち候と云ふまゝに上差の流鏑矢を扱

て羽の少し廣かりけるを鞍の前輪に當てかき直し二所藤の弓の握り太なるに取れり
 へ小松陰に馬を打寄て浪の上なる鴈の巳が影にて魚を驚し飛さがる程をぞ待たりけ
 る敵は是を見て射放たらんは希代の笑哉と目を放たず御方は之を見て射當たらんは
 時に取ての名譽かなと機を攻てぞ守ける遙に高飛舉りたる船浪の上に落ちさがりて
 二尺ばかりなる魚を掴んで澳の方へ飛行ける所を本間小松原の中より馬を懸出し追
 様になりて者飛鳥にぞ射たりける態と生ながら射て落さんと片羽がひを直中をば射
 ざりける間鏑は鳴響て大内介が舟の帆柱にたち船は魚を掴みながら大友が船の屋形
 の上へを落ちたりける射手は誰とは知らねども敵船七千餘艘には船を踏で立雙ひ
 御方の官軍五萬餘騎は汀に馬を扣へてあゝ射たりやくと感する聲天地を響かして
 静り得ず、足利將軍之を見何様射手の名字を聞かばやと仰られければ小早河七郎船
 の船に立出で、類少く見所ありても遊されつる者哉さても御名字をは何と申し候
 やらん、さかまはしやと問ひたりければ本間弓枝にすがりて其身人ならぬ者にて候

へは名乗申すとも誰か御存知候べき但し弓箭を取ては坂東八ヶ國の兵の中には
 名を知たる者も御座候らん此矢にて名字をば御覽候へど云て三人張に十五束三伏ゆ
 らくと引渡し二ッ引両の旗立たる船を指して遠矢にぞ射たりける其矢六町あまり
 を越て將軍の船に雙たる佐々木筑前が船を籠中過き通り屋形に乗りたる兵の鎧の草
 摺に要をうくせてぞ立たりける將軍此矢を取寄せ見給ふに相摸國住人本間孫四郎重
 氏と小刀の先にて書たりける諸人此矢を取り傳へ見て兼て胸をぞ冷しける

延喜山 和田松原の中に長さ三町幅一町許の丘あり諺に云ふ昔し延喜帝此地に
 行幸ありて行宮とし玉ふ古跡なりと

神馬秣 同し邊にあり神功皇后三韓より歸朝の御時御船を爰に繋る此所の人秣を貢
 ぐと此嘉例によりて近き徳川氏の末年まで山城男山八幡宮の神馬の秣は此所より運び
 捧げるとぞ

輪田濟 和田の岬の沖を云ふ、夫木集平明の歌に「夜をこめて和田のわたりを漕く

れは淡路の島に月をかくれる」とあり

福原内裏の蹟 東尻池字寺山と稱する所にあり今は僅々に福原内裏分石と刻す

る石標を存するのみ、安徳帝治承四年六月福原の新都に遷幸あらせられ初は池大納言

頼盛の山莊を行宮としたまひ暫くにして此皇居に遷り給ふこと平家物語に見へたり

眞野の池 西尻池にあり昔しは頗る大池にて廣さ四百三十畝とあり歌聖柿本人丸、

明石旅行の途乗馬の足を洗ひし所なりと

万葉集人丸の歌に「まの池の小菅を笠にぬはすして人の化名をたつべきものか」又

實清の歌として夫木集に「今朝みればうきねのおしのあくかれて氷をひたるまの池

水」同集後九條内大臣の歌に「まの池の島つたひ行かりかねや春はあしきの橋とみ

ゆらん」など多し

荊藻川（眞野浦） 源を鵜越の山中より發し長田神社の邊を南流し眞野池の下

流を併せ海に入る此河口の一帶の海濱を眞野浦と稱し其入江を眞野の入江と云ふ又た

眞野の里とて此邊を云ひしなるべし

隆信卿（夫木集）「君がため眞野の里人うちひれてとる若苗や萬代の數」

後撰集に人丸の歌に「我妹子か袖をたのみてまの浦の小菅の笠をさすてきにけり」

など多し

眞野繼橋 荊藻川の下流にかゝれる橋を云ふ

後拾遺「ふみ見ても物思ふ身と成にけり

まの、繼橋とたへのみして

續拾遺「さても尙かよはてこそはたのまれめ

絶しといひしまの、つき橋 爲子

平知章及監物太郎の墓 知章の碑は長田神社の前街道の南側にあり近年有志

舊蹟の煙滅を憾とし新に建碑せり其北方耕地の中に監物太郎の碑を存す

平忠度の塚 俗に腕塚と云ふ駒ヶ林にあり一の谷の戦に岡部六彌太忠澄に討れ

此所に其腕を埋むと云ふ、忠度は文武の道に秀て殊に歌道の達人なり忠澄初め其誰なるを知らざりしが藤の短冊に『行きくれて木の下かけを宿とせば花やこよひのあるじならまし、忠度』の歌を見て其忠度なることを知りしとぞ

此序に市の西境須磨村に到り少しく案内すべし

須磨村 林田村の西に隣り掃磨と境を接す東須磨、西須磨に分割せり山陽鐵道線路、村内を横ざりて神戸驛を距る凡五哩の所西須磨に停車場あり此地は土地清く空氣爽かにして人の健康に適するを以て轉地療養するもの多く病院、温泉場等の設けあり殊に山水の風光絶愛の勝區たるが故に遊客陸續停車場の繁忙四時變る時なし、須磨は古來有名の勝景地なるのみならず名所舊蹟頗る多ければ就中著るきものを左に略記すべし

一の谷 西須磨の盡所街道の北、鎮拐山の麓なり源平の古戰場として其名頗る著る、此所に安徳天皇行宮の古蹟あり又是より西三丁に二の谷、其西又三町を隔て、三

の谷あり其上を鉢伏山と云ふ老樹鬱蒼蒼猶暗し御料地なり

敦盛塚

三の谷の西邊街道の北手にあり高さ一丈一尺臺石四尺四方にして五輪の塔なり此塔は北條貞時半家一門の冥福を祈り建設せしを何時の頃よりか單に敦盛塚と呼ぶに至れり塔の前街道を挟みて蕎麥店あり敦盛蕎麥と稱して古より名物なり

須磨寺

福祥寺其本名にして上野山と號す須磨停車場より東北の方敷丁街道の北にあり仁和二年開鏡上人、光孝天皇の勅を奉して開く本尊は和田岬の海中にて漁網

に得たる觀世音なり、門前に源平交戦の頃よりある若木の櫻と稱するあり所謂武藏坊辨慶の『此花江南所無也一枝於二折盜之輩一者任天永紅葉之例二枝一者可剪三一指』と書せる制札を建てたるものなり門内に義經の躡して敦盛の首級を檢したる老松あり其他當寺には熊谷直實及太夫敦盛の筆の書畫、弘法大師作青葉笛、敦盛の愛玩せし祐學僧正作の高麗笛或は鐵胃等を藏す

源光寺及關屋蹟 源光寺は須磨寺の西南にあり光源氏須磨明石の風色を愛し此地

源光寺は須磨寺の西南にあり光源氏須磨明石の風色を愛し此地

に住れし蹟なり其西に須磨關屋の跡あり家隆卿の歌に「淡路しまかよふ千鳥の鳴聲は
いく夜ねさめの須磨の關守」と此邊りに今千鳥川と云ふあり

磯馴松 須磨海濱の松を總て磯馴松と云ふ昔し在原行平卿歸洛の時名残を惜みて
松枝悉く都の方へ靡さしと、又行平月見の松と云ふあり

綱敷天神 菅原道真公筑紫へ謫遷の時休み玉ひし跡にて浦の漁夫綱を敷き御座を設
け上りしにて後其御像を神体に奉して天満宮と爲せり

禪昌寺 鷹取山（一に神撫山）の麓にあり楓樹を以て著名なり晚秋紅葉を賞する
の雅客甚だ多く俗に紅葉寺と稱す

厄除八幡 多井畑にあり例祭舊曆 正月十九日災厄除去を祈るの參詣者盛なり
境川 攝津播磨の國境にして源平の古戰場なり熊谷、平山先陣を争ひし所と此近方
に保養院温泉又湧水浴場等あり

鴈越 播州三木へ通する峠にして鐵樹山の北に當る所謂義經の一鞭馬を下せし所一

の谷と共に其名著る

外々須磨には古蹟多々ありて尋ぬる所少からず又西して播磨に到れば舞子の景、明
石の名所さては尾上、高砂、曾根、石の寶殿なども見まはしけれど、そは又の日に讓
り是より再び神戸へ歸り案内せん

諏訪山 市内公園の一にして眺望絶佳幽邃の勝區あり蒼鬱たる松林の間點々茶肆
を構ふ曾て洋人金星を此所に測量し其標石を建つ此邊最も良眺の場、前は全市街を一
眸の内に收め兵神の港灣眼下に横り、茅渚の蒼海汪洋として紀伊の山、和泉の浦に對

し西は近く神撫山を挾て鐵樹、鉢伏の翠岳巍峨と聳ふ海濱山盡くる所波間に隱顯す
るものは淡嶋の緑山あり、東は遙に大坂を隔て金剛、二上、信貴、生駒の諸山、雲霞
の間に翠黛を聯ぬ其風光見るものをして轉た恍惚たらしめざるはあらじ、麓は宏廈軒

を連ね或は紳士豪商の別荘あり或は大なる旅店料亭ありて雅を競ひ美を争ひ、又た炭
酸泉を温めて浴場を設く諏訪山の温泉と云ふ、此邊りは總て土地高爽空氣清良なるを

以て外國人も亦來て壯麗なる別荘を構て住居するもの甚だ多し、神戸市内佳勝の地少からざれども春花、納涼、賞月、觀雪の良區此所に若く所あらざるなり

宇治野山 諏訪山の西方、安養寺山との間にある一小丘なり十數株の老松緑を垂れ内に大隊司令部、山林區署あり本年(明治三十年)一月より神戸側候所を爰に設く亦眺望に富めり

是より北方舊湊村を探ぬれば其神社佛閣によれるものは既に前に記したれば省きて

湊山 鳥原村一帯の山を云ふ我市より有馬に通する街道を天王谷と稱し其西部に接して湊山温泉あり炭酸泉を温めて浴場を設く此邊山縁にして空氣清らかなり近來旅店割烹店多く軒を聯ね入浴を兼ての遊客甚だ多く殊に共進會及び水産博覽會場に道近きを以て其當時の盛觀察すべきなり

新勅撰『湊山とことばにふく沙風にぬしまの松は波やか、らん』後徳大寺左大臣

千鳥瀧 湊川上流の一派の水上にあり

袖中抄に『深山かとおもひきぬればさはあらて千鳥か瀧に沙る満くる』とあれば昔しは此邊にまで沙の満ちきたるにや、さるに宇治川の上流なる祥福寺(奥平野)の北方十數町の山中に景色よき瀑布あり水多からねど最と妙なり今は土俗此瀧を千鳥の瀧と呼ぶ果して如何にや

夢野 湊川の西北、會下山の北方なり攝津志攝陽群談、攝津鑑等には舊名刀我野或は鬪鷄野とあり古來鹿の故事の和歌あるについて夢野と號するう將又夢野の名にもどづいて鹿の故事を詠合せたるか

夫木集『水門川うさねの床にこよひこそ

秋をつけ野の鹿もなくなれ』公衡

仁徳紀に額田大中彦の皇子鬪鷄野に獵し玉ふ記事あり然れども或説に此鬪鷄野は大坂城の東大友村の邊なるべしと皇子難波高津の宮より十里餘も遊獵に出玉ふ事なしと云ふにあり如何にや

夢野清水 夢野村山中にあり相傳ふ此地能登守教經の陣所なり即ち此清水を陣場の井と云ふ、其前に辨財天の祠あり土人氷室の祠と稱す入湯の人此祠を拜して浴すと是より北方山田村と云へるは有馬郡に接する山間の一郷なり同村内に、鷲尾經春の舊邸蹟白瀧姫の古蹟など少しは記すべきものあれど今は省略して復び東の方に到り聊か案内する所あるべし

摩耶山 布引を距る嶮坂三十丁許の山路を経て山頂に達す山高く眺望甚だ佳なり切利天上寺と稱する名刹あり抑も當寺は天武天皇の御時天笠法道上人來て草創し本尊は支那の道宣律師より授りたる釋尊鑄造の閻浮檀金製長さ三寸の十一面觀世音なり昔しは寺院僧坊三百餘所に及び最も大伽藍なりしが後世兵火に罹り今は堂宇數個に過ぎず然れども信者頗る多く亦内外人の此地の俗外幽妙の景を賞して登山するもの常に踵を接す、又山上に城趾あり摩耶城と稱し正慶年中赤松圓心の籠りし所なりと云ふ
岡本の梅林 我市を距る凡そ五哩 官設鐵道の停車場住吉驛あり是より北方十余

町にして梅林あり花時紅白美を圃はし觀郁たる芳香に招かれ雅客杖を曳くもの甚だ多し

御影 住吉停車場より十余町海濱の村なり此邊酒造家多く好醱を出すこと盛なり近傍に求女塚、敏馬神社等あり又芦屋村、精道村へ到れば猿丸太夫の古墳在原業平別荘の蹟、鷹尾古城、鶴塚、阿保親王の墳墓、打出の瀆など云へる古趾少からず益々歩を進めて東方を歴覽せば足を駐むる所又多く先づ西宮停車場(神戸驛を距る凡十二哩)に下車し此地の繁華酒造の盛なる様も一見すべく或は戎神社にも詣つ又北方半里にして官幣大社廣田神社に參拜し更に巡りて越水、松岡、瓦林などの古城趾を見、武庫行宮の跡、渡邊綱の居蹟をたづね神呪寺の巨刹にも詣らん、是より武庫山(一に六甲山と云ふ)に登れば山頂に神功皇后の社、白山權現の祠、觀音堂等あり山の東麓には寶塚温泉(西宮停車場を距る北方凡そ二里)北麓には有馬温泉(神戸市を距る凡そ五里あり)爰に逗留して氣永く保養を兼ね優遊日を消すこと無上の快樂な

らめ、されど神戸の市に案内すべき節また數多ければ名勝古蹟の巡覽は是にて先づ筆を擱さぬ

◎外國人居留地及南京町

慶應年間幕府條約の結果當港を開くに當りてや外人の來て自由に居留するを許し一地を隔して之を貸附することゝはなれり、抑も徳川氏が彼の基督教の蔓延を厭ふて外國交通を嚴禁してより國人の智識は追々狹隘となりて遂に外國の情況を知らざるに至り僅に支那、和蘭の商船、數を限りてたましく長崎に來りてさへ珍しく稱へられけり故に唐、天竺(今の清國と印度の外には人類なく國家なきの極思にまで頑固に陥り外人を見れば一概に夷狄と唱へ毛唐人と呼び宛然人類の仲間人をする能はざる下等動物かの感を與へつゝありき) 思きや彼か最上の智識を有して其國々こそ文明開化の中心なれとは、かゝる有様なりしかば當港を開きて土地を外人に貸すも嫌ひ住慣し兵庫人の如き大に眉宇に皺浪うたせ、止みなくんば何地人無き所を貸しね、彼毛唐人の住居は野原を以て足れりなぞ口惡く罵り厭ひ遂に其が邊隅最もあれはてし家もなきさの濱邊を與へ居留地と爲すに到れり即ち神戸の東南隅七萬餘坪の一區にして東は葦合村に接し南は一面海に向ひ北は三ノ宮町に界し西は鯉川を以て境域とす其他今の神戸部全体を雜居地と爲せり、さなきだに熱望し手を換へ品を代へて幕府へ切願せし此地の居留地定まりければ外國人は逸早く集り來りて家を構へ道を開き瞬く間に今日の盛觀を呈し三十年以前寒雅の様は今人の夢にだも睹る能はざる大光景を現出し神戸市繁華の源泉となり又其樞區と化す實に桑渝の變もたゞならずと謂ふべし今は税關あり遊園地あり阜頭場ある邊は昔し漁る網干す外の用なき土地にてありし、今棧橋を架して大小の船舶蟻集する海の面も昔しは東吹く風に波高く蟹の釣舟だも繁くは見ゆさりき嗚呼有爲轉變は浮世の常態とは云へ盛衰の變、雅俗の化、此景の沿革を思へは轉た茫然たるなき能はず梅櫻うち香りたる壽永の春、平氏の榮華も少時夢の醒めて慕なく草生茂り海水氣儘に汀を洗ふ徳川時代の様も止めず、廣く智識を萬國に求めて益開くる神戸

◎外國人居留地及南京町

港茲の居留地も一見すべし

居留地の域内には西町、明石町、掃磨町、浪華町、京町、東町、裏町、海岸通、鯉川町、通、仲町通、北町通等十餘町あり土地清潔に道路廣く且つ整し路傍に栽培せる參差翠緑の樹葉は清爽の風に戯れ壯麗なる洋館は巍然として墻壁を接ぎ殆んど巴理府の一部を欺くに肖たり領事館商館は凡そ二百戸あり又城内大小の遊園三ヶ所を設く其東方に在るものゝ如きは面積一萬餘坪、園中に劇場、遊技場、休憩場等あり一は海岸通に一は西町の中部に在り何れも青麗なる芝生の平亘にして清甌を極む、夕景業務を終るの後或は日曜日等此所に到れば外人の老若男女打乱れて運動遊嬉を爲を見るなり又雜居地内にて外國人の最も住居する部分は海岸、榮町、元町、三宮町、加納町等にして近年山手に居を營むもの甚だ多く今猶を漸々増殖しつゝあり西洋諸國人の當地の風土を愛し殊に内外商業の最樞要地なるを認て居留するもの年々に繁殖す是れ神戸の益々盛昌に進歩する所以の一なり而て今左に去年十月の調査に係る（其後餘り異動な

し）外人居住の數を掲げ聊か參考に資せん（清國の景况は總て南京町の項に述べ）

明治二十九年十月調査

國名	戸數	人口 男	女	合計
英吉利	一五二	二三四	二四四	三三八
米合衆國	三六	五〇	三〇	八〇
佛蘭西	一八	二四	一五	三九
獨逸	三九	三六	二二	九三
和蘭	三	二	一	三
丁抹	三	五八	一	一三
奧太利	二	二	一	五
以太利	一	一	一	三
諾威、瑞典	四	三	一	七

◎外國人居留地及南京町

◎外國人居留地及南京町

總西亞	三	五六	一一
西班牙	三	〇三	三
葡萄牙	一一	五四	九
白耳義	一	〇一	一
秘魯	一	〇一	一
以上拾四ヶ國	二七七	三九三	六〇六

此居留民中には宣教師もあり教員もあり技師もあり職工もあれど其多數は輸出入即ち貿易に關する商業を營むものにして問々製造業、郵船、旅館、料理屋、新聞屋等あり今は等著名なるものゝ一班を上くれは、貿易商には

米三番スミスベーカー商會、英一番ダブルリノウ、エム、ストラチヤン商會、英七番ドッドウエルカーリル商會、獨八番チット、ライマース商會、獨十二番シーイリス商會、英十四番エーチ、イ、リテル商會、英十八番 スノット商會、獨廿二番グレッツビー商會、

佛三十二番ゼー、ウ井トコナースキ商會、英三十番デヤス商會、米五十番ア井ザツク商會、米 四十六番カルロル商會、西班牙六十四番サンチャゴ、シスハート商會、日耳曼八十二番モルン商會、獨二十二番デラカンフ商會等あり
 又た英百九番ビーオ會社及び佛六番メサヤリ、マリーリ、チーム商會は郵船を取扱ひ英三番サムソン商會は化學の製藥所なり英廿番ヘラルド社及び廿九番兵庫ニューズ社は新聞を發刊し佛八十番チリエンタルホテル及八十二番クラブホテルは旅宿兼料理屋なり
 扱斯の加く數百の常住民あり且つ貿易或は布教或は遊覽等の爲め一時渡來するもの亦甚だ多きが故に是等の民を治むべき役人なかるべからず即ち領事てふありて行政、司法を掌理す又た内に警察署を置き巡查を設けて警務を司ること内地に異ならず、旅館屋は「チリエンタルホテル」、「ヒヤウエホテル」の如き大く且つ盛にして舶來の旅客常に投宿するを見る扱其領事の官衙は所謂領事館なり、英國は九番に佛國は三番に獨逸は五番に米國は十五番に露西亞は七十九番に和蘭は九十一番に白耳義は百十八番に葡萄牙は雜居地内山本通四丁目五十九番邸に各領事館を設く尤も國民居留し或は往

◎外國人居留地及南京町

來して其領事館なきものは其國より或國へ委託しあるものなり

西洋人居留の有様は概略此位にて止め是より清國の事に移らん

南京町 支那人を目して俗に南京と云ふ、夫れ南京は支那の舊都にして怡も我

西京の如し如も土地雅に風流人の多く遊ぶ所なり今の首府北京は熱鬧繁華人口の多き

こと東洋第一の大都會なれども文雅風韻の趣味なく從て文人墨客が杖を曳て支那を

遊覽するもの大抵皆南京に行くり是等の關係より南京なる詞が支那全般の代名稱と

なりしにや、されど我神戶港へ來住する清國人は上海、天津、香港、芝罘等の者多く

南京人は絶てあらざるが如し況んや斯の如き閑々たる風流家の一人だもある事かは、

彼れが利己主義的固有の手腕を奮ひ營々商に服し勞に従ひ利を見て之れに集ること猶

は甘きに蠶の附く如く吸きに蠅の群ると一般風流などの洒落なる分子は殆んど地を拂

ひ、苦を苦とせず勞を憚からざる彼が耐忍力は亦た感心の外なし忠勇の義氣乏しきが

愛國の觀念薄きか疑きに干戈の戰にこそ敗北こそしたれ彼が商戰場裏の駆引は我に

一籌を輸するものあり豈に猛省すべき事ならずや

清國人の居住する所は前に述べし居留地の如く整然たる區畫あるなく海岸通、榮町、

元町、三宮町を首とし其他雜居地内に散居す然れども榮町元町の東方に當り數十戸

群在する所あり此部落を俗に南京町とは稱せり鳥獸の肉を鬻ぐもの店を接し殊に豚

の販賣は最も盛なり其他南京料理、八百屋、剃髮床、小間物屋等種々あり、不潔は彼

が特性ならん南京町に至れば其常習の一斑を察し得べし家屋の陋汚なる道路の粗穢

なる將た一種異様の臭氣は腐肉の香と混じて不快を感じ此所を通過する我國人の鼻を

掩はざるもの稀なり内部に至れば炊事場の流は小便の排泄を兼ね寢臺の脚下には常に

人糞を貯ふ實に清國人の不清潔に又衛生上に不顧着なることは一驚を喫するの外なし

然かれども其体軀は割合に太く且強壯なり

偕て清國人の當地に來住するもの甚だ多く客年八月末の調査に由れば其入國特許を得

しもの二千〇五十余人あり而して該國理事府は下山手通七丁目にあり常に黃龍旗の翻

々として樹草蒼然たる間水蒸の跡麗はしく「大清國理事府」と書せる標札嚴しく、又同六丁目中華會館と稱する清國人俱樂部風のものあり明治二十五年新築の煉瓦石造數棟の家屋よしてなかく美しく室内の正面には所謂漢羽の像を奉祀し柱梁金色燦爛怡も本邦寺院の本堂に似たり、裝飾には夥多の軸を懸け自國製の陶器の置物などを陳列す流石は本家程ありて書畫の幅軸には見るべきもの多し

在住支那人の内外國人に雇れ勞役に服する者少からざれども多くは種々の商業を営み貿易に従事す今其商館の著るべきものを上ぐれば

海岸通に同孚泰、復泰號、祥隆號、德新號、同茂泰、慎泰昌號等あり榮町に鼎泰號、裕貞祥、怡和號等あり其他復興號、廣同生、其昌號等あり利を射るには上手なるものぞかし

◎飲食店及旅宿屋

割烹店と呼び料理屋と名け又飲食店と云ふ名こそ異なれ品格にこそ上下あれ等しく飲食と營業とするものにて其種類甚だ多く客の注文に應じて和風、西洋風何品にても辭せず之に應ずるもあれば單に西洋料理のみもあり日本料理のみもあり南京町に至れば又支那料理のみを出すもあるなり其外、牛肉屋、鶏屋、蕎麥屋、鰻屋、天麩屋、酒屋、餅屋、菓子屋、汁粉屋、氷屋等飲食屋の多きこと實に其數限りもあらじ、宜なり人は貴賤の別なく老幼の別なく男女を問はず賢愚を論せず各々爲すべきの仕事に勤め烈く如き嚴寒の朝も焼く如き炎天の夕も營々嘔吐として其業を勵む所以の本を尋ねれば畢竟口腹の快樂を得んと欲するもの過半なり誰か脊に腹を代ふるものあらんや飢渴に迫る時に於ては品格も体裁も頓着する違あらばこそ實に花より團子の俚諺人を欺かず我市到る所飲食業者の多數なる決して偶然にあらざるなり時の盛衰汚隆を見る先づ飲食より先なるはなし

去年九月の調査によれば市内割烹店の數は一百八十、飲食店は九百七あり割烹店の中諏訪山麓或は湊山温泉場の附近及び其他散在して宏大なるもの能く數百人の宴席を催

すに足るもの少からず是等は多くは皆旅宿兼業なり、又飲食店と稱すべきものは大概は規模小なれども土地柄なれば衛生上等には注意を缺かざるなり、飲食店の中ち牛肉屋は當市の名物にして甚だ多く旅人の爲に其普通一般の景況を記すべし

牛肉店 懸行燈に太く牛肉と書き其左右に細く「スキヤキ」「ナベ」「シチユウ」など書きたるは是ぞ神戸の名物として稱せらるる牛肉店にして團扇を以て爐火を扇ぐ音は脂の焼ける聲と共に耳朶に達し芳ばしき香は鼻を穿つ、上戸は鋤焼に一陶を命ずれば盃に用なき連中は直ちに御膳と申付け、遠慮もなく箸を交へ汗を流し舌の焦るも厭はず咽喉の焼るも辭せず馬食牛飲するものもあれば故らに体裁を繕ふて前齒で香の物の風味を賞るもあり全体近來は我邦人の牛肉を嗜むもの非常に多くなりて都も鄙も至る所牛肉屋のあらざるはなく又之を食はざる輩は鬻結ふ人を見るより稀なりされど神戸の牛肉の如く美味を有するもの嘗てあらず東京も長崎もさては千島の極め台灣の果迄も神戸肉の一片を試んと欲する者益々夥しきが爲め近年盛に罐詰を製して是

等の需用に應せんとす、實に神戸牛肉の佳味なるは此地の特有物なり東京の鰹魚も松江の鰹魚も必ず一步を譲るなるべし彼の贅澤極めし桑の始皇帝或は佛王ロイ十四世をして此肉一嚙を喰はしめば必ず徐福の徒を遣はして求め來ること疑なし

旅宿店 東西南北諸方の旅人が宿泊する旅店の如何は大に都會の面目に關係し又其盛否を以て其土地の榮枯を卜するに足るものなり舊幕府時代に逆りて之を觀るに江戸は本邦第一の大都會にて諸國人の滞留するもの頗る多かりしかども各藩大名は皆廣き屋敷を控へ參勤交代の大名に供して江戸に集る士卒僕隸は悉く其邸内に宿泊することあれば旅人の數多き割合には宿屋は案外盛ならず之に反して大阪は關西咽喉の要地殊に商業は全國に冠たる土地なれば昔しより商人の出入するもの非常に多く加之伊勢參宮、大和巡りさては京の本山參りなど稱へて諸國の道者往來の路次に宿泊するもの極て繁く從て旅店の賑盛なることなかく江戸の及ぶ所にあらず、維新の後江戸の景況は全く一變したれども其餘風は今日に残りて宿屋は京阪地方に限れるもの

如く稱へ近年東京にても旅宿屋の廣告などに大阪風又は上方風（京坂地方を云）御取扱と記して旅客の歡心を得んとするもの多し、當市は新開の地なれば固有の風とてはわらざれども長を取り短を捨つるの開明主義には先づ完備せる方なり然れども未だ大阪舊來の風習には一步を譲る所あるべし旅人の船より上り瀛車より下りて此地に来る者或は曰ふ神戸の宿屋は價高く扱ひ惡し大阪に到りて宿するの便るに如らずと遂に茲に足を駐めずして大阪に行く者其多數なるを見る全体當市は海陸交通の便は大阪の上に在り風土氣候山川の景色も亦た大阪の及ぶ能はざる所なり今一層正直を旨として取扱上に注意せば猶ほ多大の繁昌を招くや必せり

扱當市旅泊人の數も土地の繁盛に進むに伴て其數も年々増加し近き兩三年の調査を見るに一日の宿泊人の數は平均凡そ五百乃至六百にして一年の總計無慮二十万以上に及べり而して其旅店の模様も種々あり海岸通又兵庫島上町邊には回漕兼業のもの多く諏訪山近邊には割烹店兼業のもの多し、明治二十九年八月の現在全市内旅店の數は百三十四にして宿泊料の定めは左の如し

- 上等洋食 賄一人に付壹圓八拾錢、中等全く壹圓貳拾錢、並等全く七拾五錢
- 上等和食 賄一人に付七拾錢、中等全く五拾錢、並等全く參拾五錢
- 而して其賚賄料は
- 上等洋食 賄一人に付八拾錢、中等全く六拾錢、並等全四拾錢
- 上等和食 賄一人に付參拾五錢、中等全貳拾五錢、下等全拾八錢なり

又西洋人の開店せる所謂ホテルに宿する時は其宿料は一日凡そ五圓以上九圓位なりと知るべし

○湯屋、床屋

いざ是よりは湯に入り髪を理し然る後角力芝居若くは寄席等へ案内すべし先づ扮粧の第一着として湯屋に赴かん

○湯屋

人の飲食するや其滋養分は身体の營養となりて骨と化し肉と變し筋も皮

◎湯屋、床屋

も之より補給するものなれども飲食物の大半は糞小便となりて体外に排泄し猶ほ幾部は全身の皮膚より蒸散するものなり故に此蒸發氣の中には許多の汚物を含有し汚垢と爲りて皮膚に附着し之を洗ひ流さざれば身体の汚穢なるのみならず汚物の蒸發を妨ぐるが故に大に衛生を害す是れ時々沐浴して身体を清潔ならしめざる可らざる所以なり、されど二人や三人の案内にて湯殿を設け風呂を沸すこと甚だ面倒にして不經濟なることなれば従て風呂屋と云ふ湯浴専門の業者起れり當市繁昌の市街に在ては殆んど一町毎に此商賣を爲すものあり最近の調を見るに市内風呂屋の数は百六十一の多きに及べり扱湯屋の大小湯槽の廣狭は悉く同一ならざれども其景況は大低相似たり、風呂屋の軒前には湯の名を記せる置行燈を掲ぐ是は晝夜共に出して湯の沸きたると終ひたることを知らする標牌なり入口の上に一高座を設け湯錢を收め兼て浴客の衣服履物を監視す其左右を男女に別ちて各數疊の席には一方に番號記せる戸棚を置き衣服を脱し又之を藏せるに供せり脱衣場より湯槽に至る間は半は板敷としそれより石疊にして爰

を洗ひ場とす湯槽の廣さは男女各一坪位その前面上半は硝子扉とし下半を空所となし浴客は頸を屈て其空所より入る此邊に一の溝渠を通して使ひ終りたる湯を流し去り且つ浴客の浴中小便を催すとき之を泄すに便せり、客の風呂屋に至るや先づ湯錢を拂ひ衣服を脱し小走りして湯槽に近づき股間を洗ひ臂邊を清め後ち全身を湯槽に投す温度体に適すれば一叫快と呼び法律のとがめも覺ゆす都々一を誦ひ淨瑠璃を語り出すに至る、身体漸く温まれば洗場に上りて十分汚垢を去り終に淨水に全身を清め之を拭ひたる後板間に来れば姿見の玻璃鏡にあやしき櫛を具ふ年若き男女は稍久しく鏡前に立ち餘念なく己か容貌態度を熟視し髪を理し衣紋を繕ひ猶伊達の心に富みたる婦女子は白粉を粘り紅を粧ひ頭の絶頂より足の爪先まで洩さず稱へ終りて漸く爰を立去るもあれば團扇に蒸發氣を拂ひつゝ浴後涼風嗚呼快と調し四方八方の雜談戯話にあたら長き時間を過して立歸るの男子もあり其他種々様々の風あれどおしなべての風呂屋の景況大畧斯の如し

理髮床

市内床屋の数は四百六十四（明治二十九年六月調）あり内、女髮結床百九十八、外に理髮用の道具を入れし小函を携へ鬚剃散髪と呼びつゝ市内を廻りて客の需めに應ずるもの若干あり、扱て理髮床も家屋の高矮、店の大小、いふせき所もあり美麗なる所もあり客足の如何によりて職人の多少はあれど、其景況は略等しく軒先より斜めに白ペンキに赤の左巻を色どりし數尺の棒を突出て床屋の標牌とす、店の中央に數脚の椅子を置きて客の髪を刈り鬚を剃るの用に供し正面には姿見の大鏡兩三個を懸け前に理髮の用具又は香水香油などを列べ、生鉢に花を植へ、油繪錦繪等の額を懸けて室内の裝飾とはせり、又た一方には湯を沸かし清水を貯へ髪を洗ふ所をしつらい一方には客の待つ所を設く其邊には角力芝居、ヘテ／＼見世物諸興行の番付ちらし或は貯蓄銀行、瀛車瀛船の割引賣藥其他種々の廣告を張出しふら下げて來客吹聴の便を利用す是も亦商業勉強の一斑を見るに足るものぞかし、四百有餘の床屋はあれども市内繁華は未だ之を以て足れりとせず晝夜をわかぬ床屋の景況は夥多の職人どもに

目をまはすは必忙はし故に客の來り待つ者鋪室に輻輳し欠伸をするものあり坐睡するものあり新聞紙を讀むもあれば烟草を喫るもあり將棋を圍はすもあれば碁を圍むは妙し傍らに福原の事情を語りて惚ける治郎もあれば舊時の有様を説いて誇る隠居もあり近邊町内の妻君の美醜小娘の品評を試み細大漏さず之を辨じ相撲の勝負演劇の巧拙、精死、逃亡、夫婦喧嘩さては隣家の老婆の孕んで赤猫を産みしに至るまで詳悉遺す所なく實に一種の活新聞紙と云ふも敢て過言にあらざるなり

楮又女髮結のことも序々一言すべし抑も女の髪を結ひ之を奇麗にすることを尊びしは極めて古代よりの風俗なり是れ容姿を飾ること女は男より一層深きが故なるべし然れども髮結といふ一派専門の職業を開きしは男女とも近く江戸の盛時に始る即ち人の奢侈は移りたるが爲なるも強て分業の利益に言寄る論者もありけり即ち今を去る百二十年程前安永の頃江戸深川の邊に始めて此業を渡世とするもの出來てより其門弟江戸市中の四方に起り鬻者、鬻女、仲居などの髪を結ひあるき益々盛んなるにいたりしかど

良家の妻女は之と結はするを醜ぢ若し是に結はしむれば他に譏らるゝを以て此風俗、他女には移らざりし然れど其業務追々擴張して遂に京都に傳はり大阪にうつり其他都會の地方には何處も女髮結なる職一つを殖し維新改革西民平等の有様になりてよりは貴賤なべて此職人に理髮せしめ殆んど自ら髮結すべを知らざるにいたれり當市の繁き巷到るところ、平假名もて女髮結と記し或は客の招きに應し或は來て需る女の好みに従ひ島田、丸鬚、長船、福羅雀、唐子、唐人鬚、伯母子、桑三、銀杏返、達磨返、蝶々鬚、積兵庫など東京風と稱し大阪風と名け妻君、介嬢、若寡婦、を初とし藝娼妓仲居連は素より下婢、茶培女、燐寸屋の軸木並べまで皆其髮の美を装ひ之を歡ばしむるに至れり宜なり日本人の髮の漆黒に光澤あり總々として長く素條善きは外國人の常に羨む所天然の美質人爲の美を加ふ是れ美術國の特性のみ彼の赤く縮みてまたらに生し西洋婦人の眞似して強て牛糞形に之を束ね甚だしきは帽子を戴きて之を包む其趣旨の果して何の爲なるかを知らず阿々

◎相撲、演劇、寄席

人間の最大目的は快樂を得るにありとは輓近西洋輸入の學說の如くなれども人皆苦痛を嫌ひ快樂を悦を見れば古來此範圍を出づることあらざるなり而して快樂の種類千百箇ならず社會の有様に由て異り世の變化に従て同じからず將又貴と賤との別あり男と女との差あり老たると幼きとさては春夏秋冬都會と田舎と山と川と其境遇よつれて甲は快樂とすることあるも乙は痛苦と思ふものあり世に缺學して只管名聲を輝かし其名譽を無上の快樂とする散人もあれば義理人情も打忘れ無闇に金錢を集めて此上もなき快樂とする客人もあり之れに反して身を世外に置き心に俗塵を避け山水風月を愛し詩を賦し歌を詠じ以て限りなきの快樂とする逸人もあれば嫗寡孤獨貧民不具者の爲に或は公利公益の爲に吝みなく金錢を與へて最も快樂とする慈善特志家もありける然れども多數の人々が平生の勞苦を慰むるが爲に用で遊歡の快樂を貪り而して此快樂の需に應せんが爲に勉むる所の者亦甚だ多し其最たるものを芝居と爲し角力となし寄

席を爲し種々の觀世物場と爲す之が業務を營業とする彼の俳優、角觚者、落語家、講釋師、淨瑠璃、常磐津、清元新内等の太夫は皆公衆の眼を樂ましめ耳を悦はしむるを以て自己の本業と志望する之を苦痛と爲すものなり然れども此苦痛を忍んで公衆の玩弄物と爲るが故に之れに相當するの報酬を得べし此收入を以て己か好む所の快樂を求む人類の苦樂は大低斯の如きものぞ多し

倍又此種の營業は或は天下の遊民なり無用の者なりと輕蔑する輩もあれど遊民も亦人を樂ましむるの具にして此快樂を遂げんが爲に人々平生各々業を勉め時又其閑なる日を撰んで快樂を芝居相撲寄席等の興行場に求めんと欲し此快樂を目的として皆其業を獎み國益を謀るものなる時は此等の遊民も必ずしも無用の具にはあらずして直接にこそ國家の利益を爲さしめ間接には人を勵めて國益を爲さしむるの要具なり況んや角力は以て尙武の氣風を養ひ演劇は又た勸善懲惡の教となり、教育なき者の爲に一個の活歴史と謂ふて可なり其他ヘテ、噺家、軍談、浮れ節など種々のものの中には鄭聲

野調耳を掩ふ如きものなきにあらざれども亦能く其眞味を咀嚼せずして一概に之を無用視し擯斥すべきものにあらず是も亦た太平の世の神戸の花の一つなるべし聊か左に記せん

相撲 常市には一定の相撲場とてはあらしされど一年數回は東京大阪或は九州等より著名の力士來りて場を開き又た時々近國の角觚者來りて技を闘はし鐘馗鬼を捉るの猛勢、清正虎を搏つる豪力、狻猊の咆哮、鷹準の擡鷲、二獅肉を争ひ双龍玉を弄び、反、捻、投、掛の四手を本とし四十八手の秘術を現はして相撲好の人々に満足を與ふことあり

抑も角力の起原を尋ねれば其由来甚だ深遠にして古く垂仁帝の御時出雲の人野見宿禰と大和の人當麻蹶速とを朝廷に召して相撲を取らしめ給ひしが宿禰大に勝ちて蹶速の脇骨を踏み折り又其腰を踏み折きたり依て野見の力を賞して大和の土地を宿禰に賜へりと是れ本邦相撲の鼻祖にして後世に至り野見の宿禰を以て此道の祖神と仰ぎ今現に

東京本所に野見神社を建て、力士の崇祭するは此謂なり。聞く本縣下播磨國揖保郡龍野町に野見宿禰の墓ありと、數年前より此所に一大神社を建設し、永く其大名を仰がんと行司、角觥者連を首とし、心ある人の盡力しつゝある所なりと、蓋し宿禰は出雲大社宮司千家家の祖なるとかやにて、今の千家男爵を始め其筋の人々専ら此墓碑ある地に神社を起すことに努めらるゝことなれば、日ならず宿禰神社の龍野に表するを見るなるべし。扱て其後皇極天皇の御宇には百濟の使に相撲を饗應せさせ給ひ、聖武天皇の神武三年には相撲節會を行はせ給ひ、相撲は奨武法の一として近衛府の支配となり、宇多天皇は相撲を天覽せしめて大に之れが奨勵を計らせ、玉ふ實に王朝隆盛の時代には頗る其榮を極めたり、保元平治以來世は修羅の街と爲り、朝廷は衰微して、百度殆んど廢滅に歸せしかば、相撲節會の如きも中絶せられたる。武人組織の社會とありたる世の中には、儀式こそ無けれ、故實こそなけれ、實際の景況は遠く千朝隆盛時代の數等上に在りて、之を尙愛せし事は又非常なり。鎌倉の時、肥野景尚、河津祐親と力を角し、豐太閤の世、豐前毛谷村の

六助は諸侯、力上三十六人を倒し、終に木村又藏に投げられて其部下となりし類、蓋し抄からず、然れども相撲が全盛を極めしは實に徳川時代にてありき、力士は皆諸大名の扶持に衣食し、其興行中の給金に戀々せざるが故に、他の藝人とは全く類を異にし、任侠の風を養ふに與つゝつて力ある者とあし、諸侯の密かに花柳狹斜の巷に遊ふにも常に力士を護衛兵に代へ、彼の樂翁公の改革令にも水野の儉約令にも相撲のみは之を檢束せざる有様にて、角力權の太鼓の聲は他の興行を差止むるの特權を有したり、凡そ何事にも門地門閥を貴び、世官家職を専らとする徳川時代に當りて、毫も是等に拘泥せず、眞正の優勝劣敗を縦にせしめたるは、獨り此相撲あるのみ、されば、禪かつぎより進みて大關となるもの一に、其實力の強弱に因らざるはなし。登に徳川幕府歴史中の一大快事にあらずや、故に力士も亦た平素名節を貴び、弱きを助け、強を挫き、佻儻の行爲を以て得意とす、維新以後世上萬般の事物悉く其面目を改めたりと雖も、力士の風習は今猶舊様を保ち、貴顯紳士の愛顧を蒙るもの少からず。東京回向院の相撲の如きは、やんごとなき

人々の多く集りて力をいれ肩をこらすも治まれる御代の一大美觀本邦回有の尙武の氣の溢るゝ一つなる哉

演劇

本邦演劇の起原をたづぬるに是れ亦た甚だ古きことにて其初は田樂より起りたる者なり田樂は即ち散樂の一種にして散樂は遠く清和天皇の御代に初まれり、のち宇多天皇の御時に及び樂風大に變じ新猿樂と名くる戯曲種々を出せり大江匡房の洛陽田樂記に新猿樂の戯曲中農民等の田植の勞苦を慰むるの一曲ありて之を田樂と呼ぶとあり、鎌倉時代には最も其隆盛を極め足利氏の中頃に至り田樂次第に衰て散樂元の風頭を擡げ今の所謂金春、觀世、寶生、金剛等の流派を出すも此時なり偕又音曲中彼の琵琶法師なるもの平家物語の十二段に擬し淨瑠璃媛十二段草子なるものを作り斬新なる曲風を出す是れ淨瑠璃の始めにて即ち田樂と合体して傀儡と爲り更に轉化して今の演劇に變せしものなり、而して其初は出雲の國の舞妓お國と云へるもの歌舞伎を以て諸國を遍歴し大に喝采を博したるより是に倣ふて着々進歩し亦昔時の面目を革め

近年に至ては改良演劇なるもの出で、いよゝ活歴史を一場にうつし一層美妙の觀を呈することとはなれり然れども芝居てふ名稱は最も以前奈良天皇の大同年中南都猿澤の池のほとりに土塗みて烟を噴き之に觸れしものは病氣を發し苦痛を感ず之に於て大に薪を燒て其毒氣を驅除す且つ同時に興福寺の芝野にて三番叟を舞せて毒を捕へり後世芝居ある稱の起る根元なりと演劇國語にあり

然れども今日の如く其隆盛を極めて人の最嗜好物の隨一となるに至れるは徳川中世の頃よりなる可し夫の近松門左衛門なる有名の狂言作者出で、多くの新狂言を脚色み同時に竹本義太夫之を口に語り、剩へ市川、尾上、中村などの名優輩出し互に相結托で一大壯觀を爲し爰に於てか歌舞伎の風を一變して今日に行はるゝ演劇とはなれるなり其頃は久しく天下太平の世に狂れて四民奢侈に流れ日夜遊樂を事とし上下の隔てなく其之を好愛すること實に狂するが如し、否な實際の狂人を出すこと亦た少くならざるに至れるなり、要するに、ありふれたる狂言の内其猥りがはしき、節々を除き去れば天

晴教育の一助となりて甚だ利益ある遊戯物なりと雖も演劇を好むの極、遂に俳優を絶愛し時としては俳優の爲に精神を喪失しあたら令嬢の醜名を流布して有爲の一生を疵物と爲し或は主ある新婦の血道を遡りて覆盆原に還らざる水となるもの世上其例少くならず是が大切には身の向方に常惑して皮池より身を投げて世の狂言作者に世話物の好材料を興ふるなどは實に慨嘆に堪へざる弊害なりと云ふべきなり是等は一般好劇と云ふよりは寧ろ俳優狂と稱ふべき婦女子の有様なれども畢竟徳川盛時以來の弊風にして文明の今日猶存在することうたてき限りなれ、されど其芝居と云ひ俳優と云ひ此位に熱心にもてはやさるゝが故に從て其繁昌も想像せらるべく俳優一己の貸銀僅々の日數に能く一千圓を得るものあるに至る盛絶隆絶人情の然らしむるところ亦た一種不可思議の感なき能はざるなり、殊に大阪は最も好劇家の多き土地柄にて其餘風當地に移り左に記する數個所の劇場は一年中大低槽の音の絶ゆるはあらず常に千數百人の觀者を充たせり即ち

大黒座 仲町一丁目(楠公社正門前神戸停車場までの間にあり)

相生座 相生町二丁目(大黒座の西南方僅に三町を隔つ)

明治座 兵庫算所町にあり(舊辨天座と稱し規模小なりしが一兩年前改築し今の名に更めり)

朝日座 三ノ宮町(三ノ宮神社境内にあり)

其他市内に於て劇場と稱すべきもの加納町に加納座、西出町日向神社境内に日本座と呼ぶものなどあれど、そは次に記す寄席と略ぼ同一にして所謂一大芝居を演奏するに適する如き大なるものにあらず

偕て大黒座、相生座、明治座、朝日座等にありては日の長短時の寒暑又は年末、月末など其閑劇によりて聊か差異はあれども大概は早朝より三番叟を始め夜の十二時まで開演し大阪著名の俳優來て妙技を闘はし人をして敢て倦厭なからしむ否な唯に厭かざるのみならず之に感して涙を流し涎を垂らし自ら禁する能はざるに至る實に名優の技は其

深情を寫し轉た身心を其局内に措て非常の感情を匿起するもの芝居に勝るものはあらじ蓋し何所も同じ風なれども都會には必ず缺く可らざる一種の花と云ふべけれ

寄席 演劇に亞ぎて俗人普通一般の好愛すべき遊觀所は寄席なるべし、今爰は寄席と概稱するもの中其種類甚だ多し殊に近來へラ〜と唱へて女子の手蹈するもの、總稱となるものあり元來へラ〜とは今より十二三年前明治十八九年の頃なりけん東京著名の小説家或文學士が意匠をこらして同地柳橋の藝妓に教へし手舞の一種なり即ち數名的美婦赤襦袢に赤手拭を被り扇を持て茶碗を捧けへラ〜と呼びハラ〜と唱へ異形の面相を爲し臀部を振ひ、水を呑む眞似し杖を曳く眞似し或は扇を弄し腰を殿く實に奇天烈なる語氣容姿をもて一場の技を奏す其意時世を諷するものなりとか云へど委しくは知らず僅に其一班を説き明せば「へラ〜」とはへロ札と云ふことなり紙幣のことなり「ハラ〜」とは腹々なり鬚を括る眞似するは鬚ある紳紳、へラ〜を澤山收入するが故に腹をはらすことを得れどそれがため下々のものは一杯の湯水さへも

心善く呑むこと能はずとて即ち異形の面相を爲すなり以下は略しぬ、さて其意味の如何は兎まれ年若き美妓か異態の蹈舞を爲すことの可笑を見んとて、もてはやす人多く出て、其藝大阪に傳はり京都に移り當市に來り追々邊僻の所にまで進入して兩三年前まではなか〜盛んに行はれしが今は餘り流行せずされど其名今日まで残りて必しもへラ〜をなさずとも普通の女手踊など爲す所をばしか謂ふに至れるなり

楠公社の西門を出てたる所に接近して馬力座、福井座の如き即ち是なり此兩座は位置の繁盛あるか爲に寄席中最も賑なるものにて常に女身振淨瑠璃、又はにわかなどを興行せり

其他落語、講釋、淨瑠璃などの寄席市内に散在せり、而して多小其模様を異にし又た大小はあれど大概數百人の來客を入るゝを得、今左に其著るきものを記さん

湊亭、菊廻亭共に楠公社境内にあり（湊亭は落語、菊廻亭は義太夫即ち女淨瑠璃）
 梁亭、旭亭共に多開通にあり（一は落語一は軍談）

鏡亭、橋通四丁目福原口にあり（講釋、淨節等）

湊虎亭、湊橋西詰にあり（講釋）

三寶亭、三ノ宮社境内にあり（二和伽又は講釋）

三樂亭、樂喜亭共に三ノ宮町にあり（一は軍談一は落語）

其他此種のもの切戸町に榮樂亭、磯之町に入榮亭、能福寺の境内に松鶴座、永澤町に

福壽亭、今出在家町に三福亭、船橋亭、葺合村に共進亭等あり此外尙は十二三所にあ

り是等寄席の拮構概ね相同しく正面に一段高き興行の座を設け淨瑠璃ならば簾を垂れ

見臺を具へ、軍談講釋ならば机に向ひ、落語家は傍らに火鉢及び湯沸を置く、木戸口

には一漢客を招く聲高く呼んで終始止まず之れに誘はれて入る客市内數十個所の

寄席あれども常に充滿せり亦盛ならずや

◎遊廓（附藝娼妓）

楠寺の鐘の聲は鐘々として近く響き築島寺の木魚の音は楷々として幽かに聞こゆ有

常無常萬籟夕を告ぐるの頃淡川の堤の松を顧れば宿雅阿房と鳴きて巢に歸るの時、

爰に電氣燈の光り輝き初めて數百の妓樓娼娥を争ひ慈海の仙都は今より將さに盛なら

んどす、見來れば八百有餘の娼婦店頭に整座して娼を賣り笑を呈し幾多の嫖客遂に彼

れか手管の筋にからまれて財産名譽を毀損し其の甚しきに至ては再び購ふべからざ

る生命だも惜しからぬと迷はしむるは何所も同じ遊女の手練、日毎夜毎に變はる主。

一雙の玉手千人枕し。一点の朱唇萬客當む。心ゆくしの果はさらなり支那朝鮮さて

は西洋南洋の人にさへ好いた惚れたと嘘をつき世事を使ふて人の歡心を得るに是れ努

む、今若しエツキス光線の作用を藉て此内幕を寫し來らば其狀果して如何ぞや、蓋し

情を賣て利を恤し娼を以て歡を興ふ道德上極て耻づる所にして文明社會の力て唾棄

するものなりと雖も本邦都邑中其遊廓の設なき所殆んど稀なり、偶々府縣會などに於

て廢娼論を擔ぎ出して之れか輿論を問ふものなきにあらざれども大方は否決し時に成

立して廢娼を實行するも到底永久に施し能はざるを見れば此事たる人生の世渡り上決し

て飲ぐ可らざるものゝ一なるべし、即ち當市には二個所の遊廊あり一を
 福原遊廊と云ひ一を
 新川遊廊と云ふ

福原遊廊は湊川なる新橋と金毘羅橋との間東堤の下に接し一區を劃し福原町全部及び
 橋通りの幾部に續き大小の貸席總て八十余戸娼妓の員數八百人に及べり就中福原町
 の大通を仲の町と呼び道路中央に溝渠を通じ左右に樹草を栽培し其風趣計圖總て東京
 吉原遊廊に模す其中大樓と稱すべきものは色波、眞田、松浦、愉快、長谷川、巴、勢
 陽、八幡、成田、青柳、澤山等の諸樓にして是等を一等貸席即ち大店と唱へ又た橋
 通に當り俗に相荷新地と稱すべき地方及其他に雜在せる中等の樓を中店と唱ふ、又た
 仲の町の裏手にあたり數多の小樓軒を聯ぬる所俗に三十軒と稱し同廊中の最下等なる
 ものなり、然れども夜にいたれば其何れを論せず妓樓は各店頭を飾り燦乎たる電燈の
 光は婉たる笑語の花に映じ東西南北より集り來れる標客雜沓を極む、近き調べなりと

云ふを聞くに福原遊廊中一ヶ年遊客の總數は無慮十八萬二千有余人の多きにありと亦
 た以て其盛況の一斑を推察し得べし

新川遊廊は即ち兵庫築島の西南方にあり福原に比すれば規模小にして貸席僅に十三戸
 妓婦百名許なりされど此邊小舟の碇泊する所なるが故に相當の賑あり妓樓の景況は
 福原中店小店と稱すべき類と略ぼ同一のもの多し

偕て貸席娼妓の事は先づ是にて筆を止め序に聊か市内藝妓に關する景況の一斑を示さ
 ん

今の藝妓は品位極て悪く甚だしきは言語に絶する舉動を爲して法律上の罪人となるも
 の少からず時に媚を呈して客の心を有頂天外に放たしめ以て其財を攫收するを唯一の
 目的とし己が第一の職掌たる藝術に至てはさながら放擲して顧みざるが如き不都合千
 萬なる風習あり夫の古き白拍子の様は如何にてありしか隨分氣高く上品なるものにて
 歌舞音曲の妙手なるを言を待たず插花、茶の湯、和歌、俳諧、碁、將碁などの遊藝に

通し、貴顯紳士の遊びの相手或は高尚なる遊びの席に待らしめ決して醜づる所なきのみならず其精神も頗る優にてありし、當今の藝妓をして如斯美風に感染せしむること時世上到底なし能はざるか、殊に我市は互市場中に冠絶し外人往來の樞要地にして我邦の風俗を見るべき最便の所なり況んや數年を出てすして外人雜居の時に到らば此地の風土氣候の美を慕ひ集り來るもの甚だ多かるべし、ざるを今の如き有様を以て接せんとするか心ある人の常に愁歎する所ぞかし贅言を一筆茲に記すも亦遺憾の心の溢れてなり請ふ恕せよ

さて藝妓の屯所を檢番と稱し酒樓宴席等より妓を招かんとすればまづ檢番に通し而て後茲より夫々其席へ出勤するものにて市内檢番の數は總て七個所あり即ち中檢、元町五丁目、西檢全六丁目、福檢及び新檢共に福原町にあり、淀檢、西柳原町に、中檢、北逆瀬川町にあり

此外近き頃合名どか合資とて會社の組織を以て諏訪山麓に一個の檢番を設けしとや而して以上檢番へ勤務の藝妓の數は凡そ四百二名とぞ聞てへし前には大に是等に向て一針を加へ注意を促したれども一概に然りと云ふにあらす中には優美なるものありて管絃舞鼓の諸藝に熟し宴席に聘して興を扶け便を與ふ神戸の花の一枝とや云はまじし必しも棄つべきものにあらぬ

結尾の一言

余が此神戸の花の麗はしき姿を寫して普く世人に紹介せんと思ひ立ちしは過る明治二十八年の秋野邊の七草咲き揃ふ長月の初の頃にてありき、折節二三の書肆來促りすとのありて止みなく他書の編著に従事し傍ら折に觸れ物に感じ一つ二つづゝ拾ひ集め綴々書き了らばやと思考しける、ざるに客臘の末に及び本書の發行者あはたしく來り迫りて曰く來明治三十年四月より關西府縣聯合共進會の開設あり將た又同し九月よりは第二回大日本水産博覽會を營市に開うる是等に就ては數多の旅客も

SHOKIKU-RO

HOTEL AND TEA HOUSE

FOR FOREIGN VISITORS AS WELL AS JAPANESE

MAIHO PUBLIC PARK

HARIMA

御 旅 館

— 並 —

和 洋 御 料 理

播 磨 舞 臺 公 園

松 菊 樓

◎ 結尾の一言

百十六

来るべく廣く神戸の光景を報ずるに此上なき時節ならずや此機決して失ふべからず
遅くも二三月頃には脱稿せしめ給へ是非にくどおしたてられ急がるまゝ走りがさ
に編み了へたるものなれば、さなきだに拙筆の見る目たるまゝこゝちをせらる殊に
調査の粗漏もありて誤も多かるべし編者自ら齒痒き所も少くらず、以上の始末な
れば観官よろしく推し玉へてよ

SHOKIKU-RO
HOTEL AND TEA HOUSE
 FOR FOREIGN VISITORS AS WELL AS JAPANESE
 IN
MAIKO PUBLIC PARK,
HARIMA.

御 旅 館

= 並

和 洋 御 料 理

播 磨 舞 子 公 園

松 菊 樓

◎ 結尾の一言

百十六

來るべく廣く神戸の光景を報ずるに此上なき時節ならずや此機決して失ふべからず
 遅くも二三月頃には脱稿せしめ給へ是非にくどおしたてられ急がるまゝ走りかき
 に編み了へたるものなれば、さなきだに拙筆の見る目たるまゝとせらる殊に
 調査の粗漏もありて誤も多かるべし編者自ら齒痒き所も少くらず、以上の始末な
 れば観官よろしく推し玉へてよ

東京
流風
雙子織下駄傘足袋

神戸市相生橋西詰

山本平治郎

旅人宿

弊店は神戸ス
テーションに
近きを以て御
旅客の便利は
云ふを俟たず
萬事御丁寧に
取扱御請は衛
生を旨と致候
間御來客の程
伏て奉希候

神戸市多聞通五丁目

杉忠旅舎

會席御料理

ひるかしも

其他

海川魚一切

神戸繁華の中心
相生橋東詰

浪花亭



私し店開業このかた

日尙淺きにも拘はらず日に月に

隆盛に趣き候も偏に

四方且那様の御引立幾重にも奉鳴謝候

尙小相變

御愛顧のはゞ奉祈候

和洋煙草販賣
洋酒類

TOBACCO,
CIGARS, CIGARETTES
AND VARIOUS
Wines & Spirits
Imported and of Home Production.

關西共進會場
正門通
神戶市橋通小川學堂前

仁永
進屋
堂



旅客遊覽の棧

初て神戸に來れる旅客の市内遊覽の便を圖り茲に是が大要を案内せんとす。されど此は唯だ市内中の幾部を示したるにあれば總て委しきことは本文又は巻尾附録の諸表を参看し給へかし

先づ神戸停車場を下車せしものとし此所を出れば相生町なり三町許北して楠公社(湊川神社)に詣る其間相生座及大黒座の二大劇場ありそれより本社西門を出づ即ち楠公社西門筋と稱し晝夜人車の往來繁く馬力座、福井座等の寄席其他種々の興行見世物などありて常に賑盛を極め旅客の或は祭典かと疑ふもの少からず、さて其より鎮台筋を北上すれば僅か五六町にして舊鎮台屋敷即ち明治三十年四月より開設すべき關西聯合府縣共進會場、兼全九月より開會すべき大日本水産博覽會場に達す、此會場の東の山を安養寺山と稱し南麓に楠寺(廣嚴寺)安養寺の二寺院あり、此山を北に

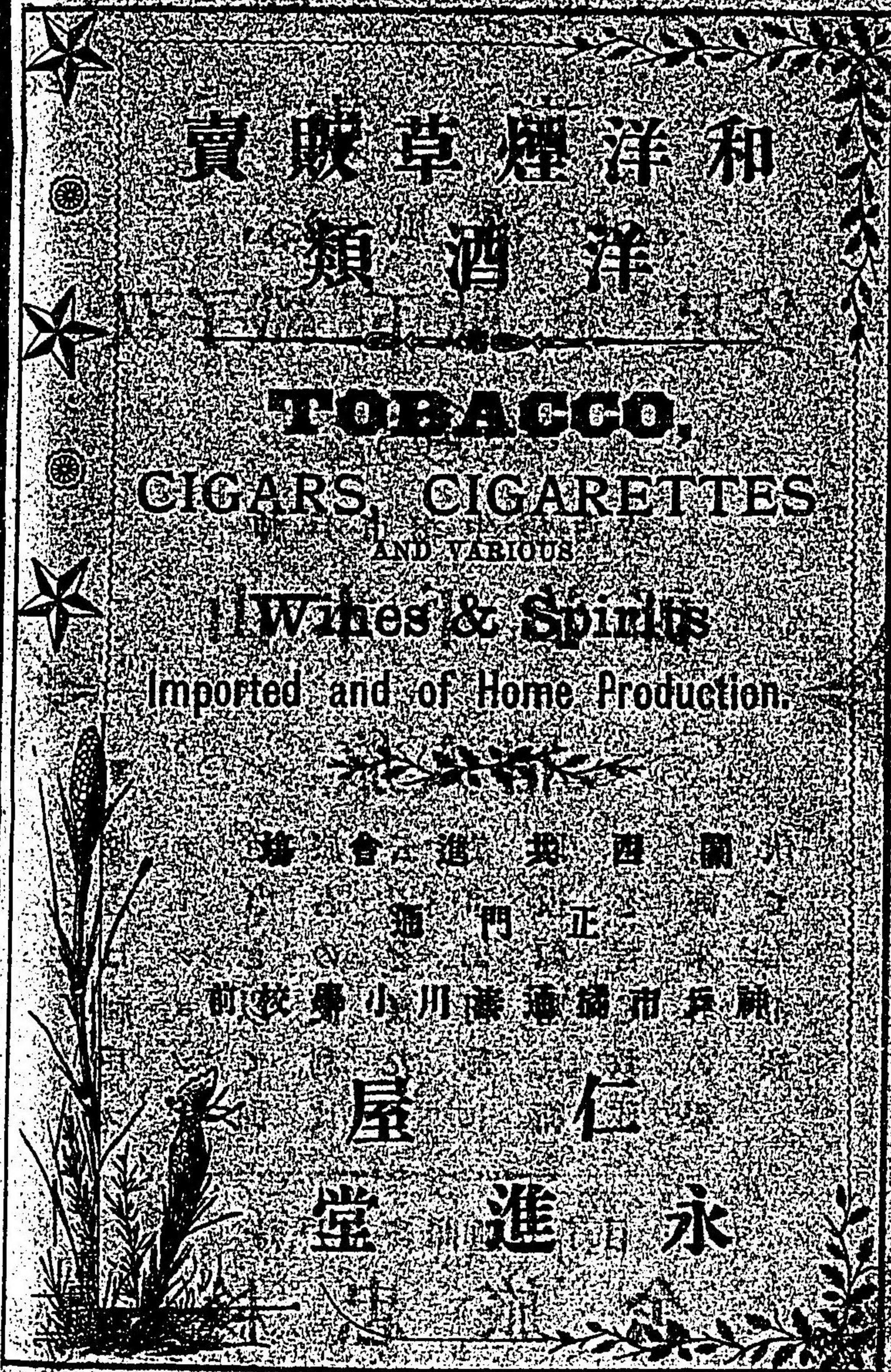
◎旅客遊覽のしなり

和洋煙草賣
洋酒類

TOBACCO,
CIGARS, CIGARETTES
AND VARIOUS
Wines & Spirits
Imported and of Home Production.

關西共進會
正門
前住小川橋邊市兵庫

仁
永進堂



旅客遊覽の棧

初て神戸に来れる旅客の市内巡覽の便を圖り茲に是が大要を案内せんとす、されど此は唯だ市内中の幾部を示したるにあれば總て委しきことは本文又は巻尾附録の諸表を参看し給へかし

先づ神戸停車場を下車せしものとし此所を出づれば相生町なり三町許北して楠公社(湊川神社)に詣る其間相生座及大黒座の二大劇場ありそれより本社西門を出づ即ち楠公社西門筋と稱し晝夜人車の往來繁く馬力座、福井座等の寄席其他種々の興行見世物などありて常に賑盛を極め旅客の或は祭典かと疑ふもの少からず、さて其より鎮台筋を北上すれば僅か五六町にして舊鎮台屋敷即ち明治三十年四月より開設すべき關西聯合府縣共進會場、兼全九月より開會すべき大日本水産博覽會場に達す、此會場の東の山を安養寺山と稱し南麓に楠寺(廣嚴寺)安養寺の二寺院あり、此山を北に

◎旅客遊覽のしなり

◎旅客遊覽のしざり

下るれば奥平野村にして眞北に見ゆる塔をめてに祥福寺に至る是より山に沿ふて西し
天王谷に及ぶ此邊十數戸の割烹店軒を聯ね且つ炭酸泉を湧す浴場あり所謂湊山温泉是
なり此所即ち湊川の水源にして此川の堤防を南行す堤の西は石井村中らに煉瓦石壁の
嚴めしきは監獄署なり、敷町にして金比羅橋に着し是を東に下るれば福原遊廓なり夜
中は嫖客多く、美妓店頭に娼娥を競ふが故に雑沓名状すべからざれども晝は見る程
てことなし此遊廓を南に貫き新橋を経て湊橋に出つべし此兩橋の間は湊川公園にし
の風色佳良土地清爽なり、湊橋を兵庫に降り、湊町を西少しく北に曲りて算所町に至
れば明治座の一大劇場あり是より北逆瀬川町に進み能福寺の大佛に賽し少しく南に出
で、南逆瀬川町なる眞光寺より是に接する清盛塚、琵琶塚或は藥仙寺等を巡覽し尙ほ
歩を進め吉田新田に行かば宏大なる鐘ヶ淵紡績會社の工場及上海紡績會社ありこれ
より遂に海濱に出で白砂青松の間を歩行し東方數町和田岬に至る此間の海濱には所謂
遠矢の濱、延喜山等の古趾あり、和田岬にてはまづ和樂園に入るべし即ち大日本水産

博覽會に於ける水族館なり園内割烹店、茶肆など多く休憩に便を與ふ此前には古き砲
台あり(今は廢用に屬す)燈臺あり殊に此邊四季遊覽の良好地たり』

さて此所を出で石油倉庫會社又はサミノルサミノル會社の油槽等を右に眺め和田神社
に參拜し和田崎町を北して新川なる船橋を渡る此邊新川遊廓の所在地たり中の島に出
で更に築島橋を亘れば即ち築嶋寺(來迎寺)あり此海岸を島上町と稱し和船の輻湊あ
るを以て廻漕兼業の宿屋多々あり是を北、北宮内町に出で七宮神社を拜し西出町日向
神社の前を湊川に歸る爰に土橋と稱するあり之を東に下れば東川崎町なり川崎造船
所を見て鐵道局の構柵に沿ひ東に廻りて元の神戸停車場前に至ることを一直線に相生
橋を渡り右手に回れば直に兵庫警察署、神戸市役所相隣りし續て神戸商業會議所電話
交換局などあり之を左に宇治川に出づ向ふにあるは神戸郵便電信局にして其前は又
新日報てふ新聞を發行する五州社なり南の海岸を辨天濱と云ふ宮内省御用邸あり此所
の海岸を東に行き郵船會社又は電燈會社の壯構を一見しつゝ海岸通四丁目まで進めば

◎旅客遊覽のしざり

◎旅客遊覽のしどり

水上警察署、中の税關、棧橋等あり海を航して來れる客は多く此所より上陸す、是等の爲に此邊回漕業を兼ねたる大なる旅店軒を接し常に盛況を呈せり、海路を旅する人は此近傍に宿泊すること便ならぬ

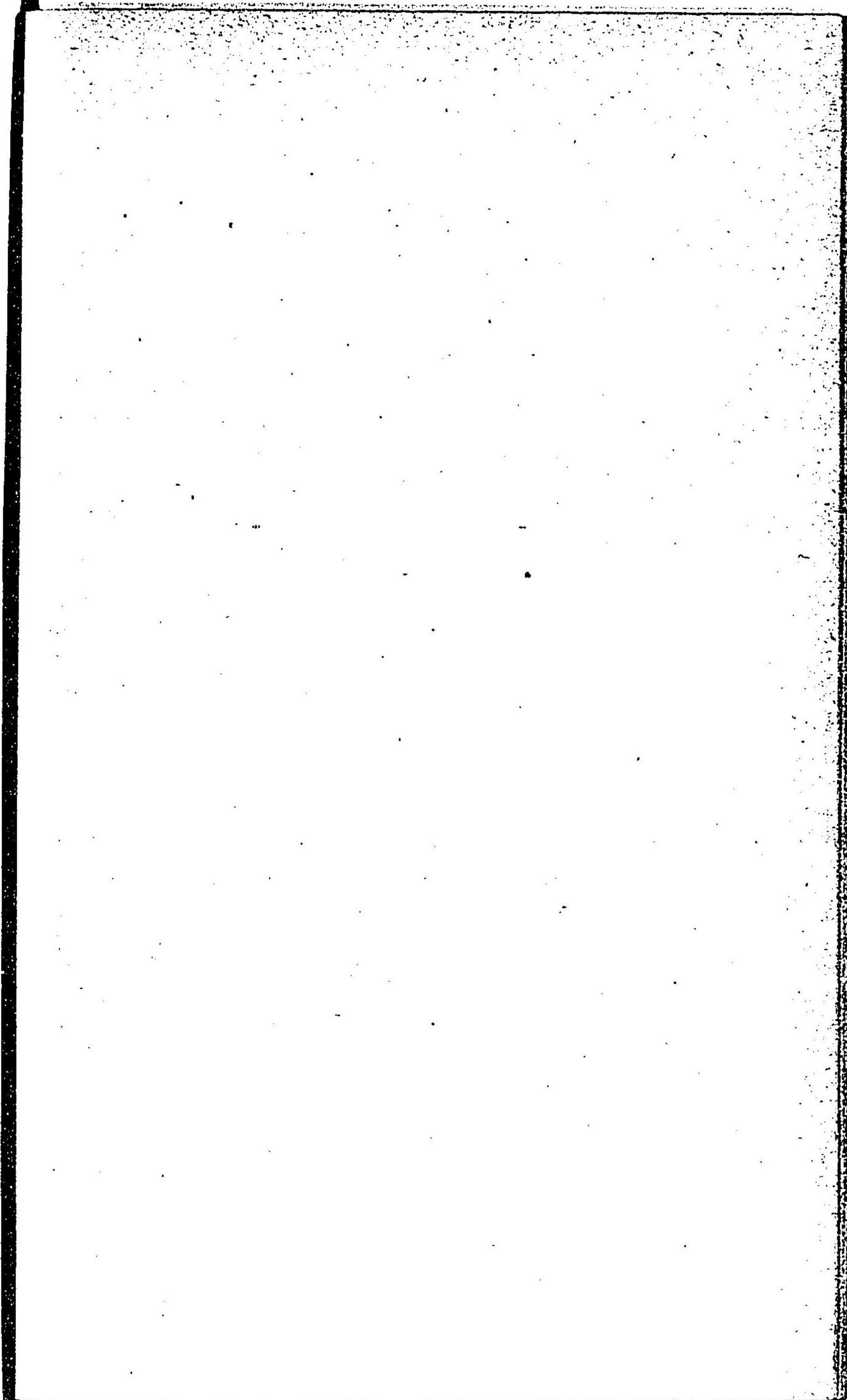
海岸通より二番の踏切（鐵道線路を横切り北に）を越へ一筋に數町を行かば諏訪山に至る其山腹金星湖、量標石の所在邊まで登るべし此所より市内を眺望すれば近く兵神兩港の光景を一時に收め茅渚の蒼海汪洋として紀泉の山々畫ける如く實に市内公園中の最良地、天下無双の佳景と稱ふべき位置たり麓には諏訪山温泉と稱する炭酸泉を沸せし浴場あり宏大壯麗なる料亭宿泊所又は外國人の別荘等あり南に降りて行けば師範學校、縣會議事堂、警察本部、縣廳、神戸學校などを見て再び鐵道を横切り爰に三ノ宮停車場に着す此穴門（鐵道線路の下を通する道）をぬれば是より東は即ち居留地なり歐米諸外國居留の風俗も一見すべし、

居留地の東隅にあるは神戸税關にして其東北廣き芝生の遊園場は外國人の遊ぶ所なり

此園を北に三ノ宮製紙場を益々北して生田神社に參拜す本社之裏門を布引道に出で砂山僅を上りて所謂布引雌雄の二大瀑布あり記事は本文に詳なれば畧し此下流新生田川となる是を傳ふて下り神戸中學校の邊より葦合村の市街を散步す餘り見るべき所少し古趾を尋ねれば乙女塚、法然松（脇の濱にあり）其他社寺などのあるへけれど旅の心の急ぐまゝに再び西に廻轉し元町通に歸り本市の名産なる牛肉も一たびは味ふへく或は土産にとて瓦煎餅も購ふへし西洋小間物、吳服物、玩具品、裝飾品其他書籍店も元町にあり理髮屋も飲食屋も大方は此邊市中最一の賑盛區たり此他家内すへき所も少からざれども其は本書の全部を通讀したらんには亮解すへく一先案内者も別を告げん是より隨意に緩々遊覽したまふへし

附日 以上遊覽の旅客の爲に巻尾に旅宿店所在名稱、宿泊料、市内人力車賃錢の定め等見易く一覽表に製して附記しおきければ就て其便を得らるへし

◎旅客遊覽の乘



欠

MISSING

三井物産合名會社支店	兵庫松屋町	兵庫海魚合資會社	海岸通六丁目
江井夕鳥酒造株式會社	北宮内町	米穀商會	鍛冶屋町
共同曳船株式會社	海岸通三丁目	米外五品取引所	東川崎町四丁目
關西貿易株式會社支店	加納町	鳴行社濱店	東川崎町二丁目
和田倉庫株式會社	和田岬	鳴行社濱店	大開通三丁目
兵庫運漕株式會社	島ノ上町	開榮株式會社	永澤町
日本米穀株式會社	宮内町	第一明治株式會社	湊町三丁目
兵庫運河株式會社	新在家町	第二明治株式會社	東出町
日本精米株式會社	出在家町	盛航株式會社	相生町三丁目
明治工業株式會社	佐比江町	神戸演劇株式會社	海岸通四丁目
內國通運株式會社支店	相上町	神戸船合資會社	海岸通三丁目
足立輸出入合名會社	海岸通三丁目	大倉組合名會社	海岸通四丁目
日本紙類貿易合名會社	榮町四丁目	送迎株式會社	海岸通四丁目
京參合資會社	南仲町	大阪商船會社兵庫支庫	島上町
日本華糖輸出合資會社	三宮町	兵庫共濟會社	和田岬
大阪露油合資會社	榮町三丁目	兵庫縣尋常師範學校	下山手通五丁目

◎官衙學校銀行會社病院所在

◎官衙學校銀行會社病院所在

全	附屬小學校	中山手通四丁目	松蔭女學校	中山手通六丁目
神戸	商業學校	上橋通一丁目	神戸産婆學校	山本通五丁目
雲中	高等小學校	葺合村	親和女學校	花隈町
雲中	高等小學校分教場	葺合村	明偏學校	北逆瀬川町
神戸	高等小學校	北長狹通四丁目	大悲學校	南逆瀬川町
神戸	高等小學校分教場	元町三丁目	乾行義塾	山本通三丁目
宇治野	尋常小學校	元町四丁目	頌榮幼稚園	中山手通五丁目
湊川	高等小學校	宇治野町	神戸幼稚園	北長狹通六丁目
湊川	高等小學校分教場	橋通一丁目	兵庫幼稚園	永澤町三丁目
兵庫	高等小學校	楠町五丁目	湊山尋常小學校	石井村
兵庫	高等小學校	東川崎町三丁目	眞陽尋常小學校	林田村
兵庫	高等小學校分教場	永澤町四丁目	眞陽尋常小學校	林田村
神戸	女學院	和泉町一丁目、切戸町、和田崎町、西出町	西野尋常小學校	西野村
		山本通四丁目		

八ノ二

神戸の花附録

◎神戸全市町村名

●葺合村	加納町一丁目	山本通一丁目	全	四丁目	全	六丁目
脇ノ	濱全	二丁目	全	二丁目	全	五丁目
筒	井全	三丁目	全	三丁目	全	六丁目
熊	内全	四丁目	全	四丁目	全	七丁目
中	尾全	五丁目	全	五丁目	全	北長狹通一丁目
中	村全	六丁目	全	六丁目	全	下山手通一丁目
生	田北野町一丁目	中山手通一丁目	全	二丁目	全	二丁目
小	野全	二丁目	全	三丁目	全	三丁目
●神戸部	全	三丁目	全	四丁目	全	四丁目
		三丁目	全	五丁目	全	五丁目
		三丁目	全	六丁目	全	六丁目

◎神戸全市町村名

全	七丁目	榮町通	一丁目	辨	天	町	全	三丁目	全	五丁目			
全	八丁目	全	二丁目	宇	治	野	町	橋	通	一丁目	全	六丁目	
全	三ノ宮	町	一丁目	全	三丁目	●中町部	全	二丁目	全	七丁目			
全	二丁目	全	四丁目	楠	町	一丁目	全	三丁目	全	八丁目			
全	三丁目	全	五丁目	全	二丁目	全	四丁目	仲	町	通	一丁目		
元町	通	一丁目	全	六丁目	全	三丁目	全	五丁目	全	二丁目			
全	二丁目	海岸	通	一丁目	全	四丁目	全	六丁目	全	三丁目			
全	三丁目	全	二丁目	全	五丁目	福	原	町	全	四丁目			
全	四丁目	全	三丁目	全	六丁目	多	開	通	一丁目	全	五丁目		
全	五丁目	全	四丁目	全	七丁目	全	二丁目	全	六丁目				
全	六丁目	全	五丁目	荒	田	町	一丁目	全	三丁目	古	湊	通	一丁目
全	七丁目	全	六丁目	全	二丁目	全	四丁目	全	二丁目				

全	三丁目	全	七丁目	全	二丁目	全	四丁目	全	六丁目			
相生	町	一丁目	●兵庫部	全	三丁目	全	五丁目	全	七丁目			
全	二丁目	中	道	通	一丁目	全	六丁目	全	八丁目			
全	三丁目	全	二丁目	全	五丁目	全	七丁目	羽	阪	通	一丁目	
全	四丁目	全	三丁目	全	六丁目	全	八丁目	全	二丁目			
全	五丁目	全	四丁目	全	七丁目	全	九丁目	全	三丁目			
東川	崎	町	一丁目	全	八丁目	全	十丁目	湊	町	一丁目	全	四丁目
全	二丁目	全	六丁目	全	九丁目	塚	本	通	一丁目	全	二丁目	
全	三丁目	全	七丁目	全	十丁目	全	二丁目	全	三丁目			
全	四丁目	全	八丁目	大	開	通	一丁目	全	四丁目			
全	五丁目	全	九丁目	全	二丁目	全	五丁目	西	出	町		
全	六丁目	水	木	通	一丁目	全	三丁目	全	四丁目			

◎神戸全市町村名

東出町	一丁目	戸	場	町	全	三丁目	切	戸	町	全	二丁目
全	二丁目	江	川	町	門	口	町	北	逆	瀬	川
全	三丁目	永	澤	町	一丁目	西	柳	原	町	濱	崎
川	崎	町	全	二丁目	東	柳	原	町	全	二丁目	全
佐	比	江	町	全	三丁目	神	明	町	全	三丁目	全
北	宮	内	町	全	四丁目	西	仲	町	入	江	通
宮	内	町	算	所	町	北	仲	町	全	二丁目	全
宮	前	町	富	屋	町	魚	棚	町	全	三丁目	須
鍛	冶	屋	町	鹿	屋	町	島	上	町	全	四丁目
松	屋	町	西	宮	内	町	船	大	工	町	全
匠	三	川	口	町	一丁目	磯	ノ	町	全	六丁目	全
小	物	屋	町	全	二丁目	南	仲	町	小	川	通
全	一丁目	全	三丁目	南	仲	町	全	六丁目	全	四丁目	全
五丁目	四丁目	三丁目	二丁目	一丁目	八丁目	七丁目	六丁目	五丁目	四丁目	三丁目	二丁目

◎神戸全市町村名

全	六丁目	全	二丁目	南	逆	瀬	川	町	奥	平	野
全	七丁目	全	三丁目	關	屋	町	石	井	村		
全	八丁目	全	四丁目	新	町	鳥	原	村			
全	九丁目	全	五丁目	濱	新	町	夢	野	村		
松	原	通	一丁目	全	六丁目	新	在	家	町	◎	林
全	二丁目	住	吉	通	一丁目	出	在	家	町	長	田
全	三丁目	全	二丁目	今	出	在	家	町	二丁目	東	尻
全	四丁目	全	三丁目	全	二丁目	西	尻	池	村		
全	五丁目	全	四丁目	全	三丁目	目	御	崎	村		
全	六丁目	今	出	通	一丁目	和	田	崎	町	今	和
全	七丁目	全	二丁目	和	田	崎	町	三丁目	吉	田	新
全	七丁目	全	二丁目	和	田	崎	町	三丁目	吉	田	新
全	一丁目	全	三丁目	全	◎	湊	村	池	須	磨	村
全	一丁目	全	三丁目	全	◎	湊	村	池	須	磨	村

官衛學校銀行會社病院所在

兵庫縣廳	下山手通四丁目	神戸郵便電信局	榮町通六丁目
縣會議事堂	下山手通四丁目	神戸郵便電信局	小物屋町
警察本部	下山手通四丁目	三宮電信支局	三宮停車場内
神戸警察水上分署	海岸通四丁目	鐵道廳	東川崎町一丁目
兵庫警察水上出張所	船大工町	神戸電話交換局	東川崎町一丁目
神戸地方裁判所	橋通二丁目	神戸稅關	加納町三丁目
神戸區裁判所	橋通二丁目	中稅關	海岸通四丁目
兵庫縣監獄署	石井村	神戸稅關出張所	加納町二丁目
兵庫大林區署	中山手通七丁目	神戸收稅署	東川崎町一丁目
神戸小林區署	中山手通七丁目	神戸直間稅署	東川崎町一丁目

神戸市役所	東川崎町一丁目	杉田病院	楠町一丁目
八郡郡役所	荒田町一丁目	水谷眼科病院	楠町一丁目
神戸大隊區司令部	中山手通七丁目	三井銀行支店	榮町通三丁目
神戸監視區長駐劄所	中山手通七丁目	正金銀行支店	榮町通三丁目
和田岬燈臺	和田崎町三丁目	第三十八國立銀行支店	榮町通三丁目
和田岬消毒所	今和田新田	第一國立銀行支店	榮町通四丁目
御用邸	東川崎町一丁目	神戸銀行	榮町通三丁目
縣立神戸病院	下山手通七丁目	神戸貯蓄銀行	榮町通四丁目
縣立微毒病院	下山手通七丁目	加島銀行支店	榮町通五丁目
吉田病院	山本通四丁目	貿易爲換會社	榮町通三丁目
佐野病院	北長狹通四丁目	兵庫貯蓄銀行出張所	多聞通六丁目
神中病院	榮町六丁目	岸本銀行支店	元町六丁目

第五十八國立銀行支店	海岸通二丁目	神戸電燈株式會社	榮町六丁目
第六十五國立銀行	兵庫戶場町	大糖業株式會社出張店	榮町四丁目
第六十五國立銀行支店	多聞通四丁目	赤心株式會社	下山手通五丁目
兵庫貯蓄銀行	湊町一丁目	熟皮株式會社	葦合村
第七十三國立銀行支店	江川町	神戸棧橋會社	加納町六丁目
第一百三國立銀行	北仲町	山陽鐵道株式會社	西柳原町
兵庫共融會社	西出町	神戸警察署	三宮町一丁目
神戸銀行	榮町三丁目	兵庫警察署	相生町一丁目
日本郵船株式會社支店	海岸通六丁目	兵庫警察分署	戶場町
三井物産合名會社支店	海岸通三丁目	兵庫倉庫株式會社	南逆瀬川町
大阪保險株式會社支店	戶場町	兩榮株式會社	宮前町
神榮株式會社	榮町三丁目	市之川鑄山株式會社	榮町三丁目

○全市內神社

社名	祭神	社格	位置
生田神社	稚日女尊	官幣中社	神戸下山手通一丁目
湊川神社	楠正成公	別格官幣社	兵庫多聞通三丁目
一宮神社	田心姫命	無格	神戸山本通一丁目
天滿神社	菅原道真公	同	同 北野町
青瀧神社	五十猛神	同	同 山本通二丁目
諏訪神社	武御名方命	同	同 四丁目
四ノ宮神社	市杵島姫命	無格	同 中山手通五丁目
熊野神社	伊弉諾命、伊弉册命	同	同 七丁目
三ノ宮神社	湍津姫神	同	同 三宮町三丁目

走水神社	六ノ宮神社	八幡神社	猿田彦神社	大國神社	稻荷神社	全	全	戎神社	蛭子神社	七宮神社	山王神社
應神天皇	同	全	猿田彦命	大國主命	宇賀魂命	全	全	蛭子命	蛭子命	大己貴命	大山咋命
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	社
同 元町通五丁目	兵庫楠町七丁目	同 湊町	同 佐比江町	同 松屋町	同 川崎町	同 西出町	同 東出町西組	同 東出町東組	同 東川崎町	同 北宮内町	同 門口町

殿嶋神社	愛宕神社	神明神社	蛭子神社	天神社	稻荷神社	住吉神社	諏訪神社	和田神社	殿嶋神社	日向神社	八幡神社
市杵嶋比賣命	火産靈神	天照大御神、豐受大神	蛭子命	菅原道真公	宇賀魂命	上筒之男、底筒之男、中筒之男、息長帶比賣命	健御名方命	天御中主命	市杵嶋姫命	天伊佐佐比古命	應神天皇
同	同	同	同	同	無	村	無	縣	無	同	村
同	同	同	同	同	格	社	格	社	格	同	社
同 永澤町	同 三川口町	同 神明町	同 西柳原町	同 東柳原町(滿福寺境内)	同 東柳原町	同	同 南仲町	同 和田崎町	神戶海岸通六丁目	兵庫西出町	葺合村宇東新白

◎全市内神社

南宮八幡神社	全	同	同字脇ノ濱
二ノ宮神社	天忍穗耳尊	無格	同字一二二號
八幡神社	應神天皇	村社	
高田神社	不詳	無格	
八幡神社	應神天皇	村社	鳥原村
全	神功皇后、應神天皇	同	御崎村
大歲神社	大歲御祖神	同	車村
長田神社	事代主命	官幣中社	長田村
大山咋尊神社	大山咋尊	村社	石井村
祇園神社	素盞雄命	同	奥半野村
熊野神社	伊弉諾、伊弉册命	同	夢野村
氷室神社	仁德天皇	同	同

◎全市内寺院庵坊

八幡神社	應神天皇	同	同
三石神社	神功皇后、應神天皇	同	今和田新田
八幡神社	應神天皇	郷社	中村

寺院庵坊	本尊	宗旨	本山	位
大龍寺	如意輪觀音木像	真言	西京護國寺	神戸市再度山
淨福寺	阿彌陀佛	淨土	知恩院	同山本通二丁目
福德寺	十一面觀世音	同	同	同花隈町
誓願寺	阿彌陀佛	同	同	同下山手通七丁目
善福寺	立像	真宗	本願寺	同八丁目

◎全市内寺院庵坊